

せん だい し
仙 台 市



仙台七夕まつり
(写真提供：宮城県観光課)



宮城県仙台市概要

①仙台市の概観

仙台市は、宮城県の中部に位置する、同県の県庁所在地であり、東北地方の中核管理機能を担う、最大都市である。2000年には人口100万人を超え政令指定都市となった。1601年伊達政宗公によって雄藩の城下町として開かれ、「東北地方における経済、行政の中核都市」として発展した。「杜の都」と呼ばれる自然環境、「学都」と呼ばれる高度な研究開発機能がある。四季を通じて穏やかな気候である。

産業としては、農業については、市の東部が美田地帯、南部・北部の流域地帯は野菜栽培地帯となっており、米、麦、大豆、野菜など豊富な農産物を生産している。また、肉用牛の生産も盛んである。仙台市漁港は世界三大漁場の一つである金華山・三陸沖漁場に面しており、多種多様な魚が水揚げされ、魚介類の種類の高さは全国屈指である。

②収録地点について

話者の出身地である仙台市若林区新井は仙台市の東南部、若林区内では中心部に位置している。

③東日本大震災による仙台市の被害

仙台市は、宮城野区と若林区が仙台湾沿い約13kmの海岸線を有している。3月11日、仙台市の震度は5強～6強であった。地震後、仙台湾に何度も津波が襲い、平野部では4～6kmまで侵入した。名取川を遡上した津波は、8km侵入し太白区まで及んだ。結果、宮城野区と若林区は仙台市で最も大きな被害を被った。

表1 仙台市の人的・住宅被害

仙台市人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
1,045,986人	704人	26人	0.07%	27,409棟	87,124棟

表2 仙台市の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	29,962人	2.9%
世帯	10,385世帯	2.2%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.193～200に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会

Impression 仙台 仙台市市勢要覧 (<http://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/yoran/index.html>)（2015/02/15 アクセス）

被災地方言会話集

－ 宮城県仙台市 －

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県仙台市

収録日時 2012（平成24）年7月13日

収録場所 宮城県仙台市若林区新井 七郷市民センター会議室

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1937（昭和12）年	（収録時75歳）	[Bの友人]
B	女	1943（昭和18）年	（収録時69歳）	[Aの友人]

話者出身地

A	仙台市若林区荒井（アライ）
B	仙台市若林区荒井（アライ）

【震災のときのこと】

話し手

A 男 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

B 女 1943 (昭和 18) 年 (収録時 69 歳)

001A : オレワー、アノー フツー、アノ ツナミンド、ア ツナミッチャネ、
私は、あの 普通、あの 津波のとき、あ 津波じゃない、

ジシンドギワネ、(B ンー) トゴヤニ イッテタンダ。(B フーン)
地震[の]ときはね、(B うん) 床屋に 行っていたんだ。(B ふーん)

ンー。デー トゴヤニ イッテ、ヤ エ ンジャ アノー ハサミ
うん。それで 床屋に 行って、× × じゃあ あの はさみ[を]

イレルネー ツッテ パチパチシタラ ガ ガラーツト キテー。(B ンー)
入れるね と言って ぱちぱちしたら × ガラーつと きて。(B うん)

ンー シテー アー コリヤー ジシンダー ツーノデ、ン。ンダラ ア
うん そして ああ これは 地震だ というので、×。そしたら ×

アダマ スコシー アノー (B アー ハンブン カッテ) カッタダゲデー {笑}
頭[を] 少し あの (B ああ 半分 刈って) 刈っただけで {笑}

エー ウジサ カエッテキタ ッテユーナ (B ンー) カンジナノネ。
えー 家に 帰ってきた っていうような (B うーん) 感じなのね。

002B : ワ ワ ワタシワネー、チョード アノー センキョジムショ
× × 私はね、 ちょうど あの 選挙事務所[を]

テツダッテテネ。(A アー) ジムショ ユレテデ トニカク ジムショカラ
手伝っていてね。(A ああ) 事務所[が] 揺れていて とにかく 事務所から

デルニモ ナニモ デキナイグライ ユレテ。アノー イリグチカラ ホーリ
出るにも なにも できないくらい 揺れて。あの 入口から ×××

ホーリナゲラレタミタイン ナッテ、ソゴデ ジベタニ スワリコンジャッタラ、
放り投げられたみたいに なって、そこで 地べたに 座りこんじゃったら、

マエノ ウチガネ、アノー クラガ ナミウッテ {笑} (A アー) アト オ
前の 家がね、あの 蔵が 波打って {笑} (A ああ) あと ×

アノ オモヤノ ホーワ カワラガ モー スゴイ ナミウッテマシタヨー。{笑}
あの 母屋の 方は 瓦が もう すごい 波打っていましたよ。 {笑}

シー。(A デネー) デ トニカク オサマッテカラ モー ヒ ヒトノ
うん。(A だねー) それで とにかく おさまってから もう × 人の

コト カマッテ ランナイカラ、 モー ジテンシャデ ウチニ
こと[は] 構って いられないから、もう 自転車で 家に

カエッテキマシタ。 {笑}

帰ってきました。 {笑}

003A : シー ダガラ オレダジモー ウチニー、ドーナノガナード オモッテネ、
うん だから 私たちも 家に、 どうなのかなと 思ってね、

ウ ウジサ カエッタラ、コンド アノー ヘリヤクップターデ
× 家に 帰ったら、 今度[は] あの ヘリコプターで

(B シー シー) アノー ナンカ タカ タカイ トコロニー、

(B うん うん) あの なんか ×× 高い ところに、

タカイ トコロニーッテ (B シー) アノー マワッテンデスヨ。
高い ところにと[言っ] (B うん) あの 回っているんですよ。

(B シー) ンデー オレダジモ ナー ナーニナノガナード オモッタラー、

(B うん) それで 私達も ×× 何なのかなあと 思ったら、

ツナミガ クル、オッキナ ツナミガ クルツツワゲダ。 (B シー)

津波が 来る、大きな 津波が 来るっというわけだ。(B うん)

ンデー マー ウ タカイ ドゴロツツッテモ ドゴー、シー ネー。
それで まあ × 高い ところって言っても どこに、うん ねえ。

004B : ツトニ コノヘンネー、(A マズ) タンボシカ ナイノニ。{笑}
本当に この辺ねえ、(A ます) 田んぼしか ないのに。{笑}

005A : ツナミツツタッテ、タガイ ドゴロツテ、コゴマデ ツナミ
津波って言ったって、高い 所って、 ここまで 津波[が]

クノガナー、ナンテ オモッテネ。ンデモ タガイ ドゴロ、タガイ
来るのかなあ、なんて 思ってね。 でも 高い ところ、高い

ドゴロツテ ユーガラー、アノー ンナー ムガイノー マンション。(B ン
ところって 言うから、 あの ××× 向かいの マンション。(B うん

ン) アソゴニー マー ミンナデ ガダガダーツ アガッテッテ (B ン
うん) あそこに まあ みんなで がたがたと 上がって行って (B うん

ン) エー タイキシッタワゲサ。(B フーン) ン。デー ソノママ
うん) えー 待機していたわけさ。(B ふん) うん。それで そのまま

コンド ミンナデ アノー ショーガクノーノ コードーカ°、タイグカンニ
今度は 皆で あの 小学校の 講堂か、 体育館に

(B ン) ミンナ アズマレーッテユゴドデ (B ン) ン。ダガラ アノー
(B うん) 皆 集まれということで (B うん) ん。だから あの

ショーガクノーニ ミンナ チタンダヨネ。(B ン) デ ソノ
小学校に 皆 来たんだよね。(B うん) それで その

シトバン ソノ タイグカンサ。(B アー ソー) ン。
一晚 その 体育館に。(B あー そう) うん。

006B : ワ ワ ワタシワ ジテンシャデ ウジ カエッタラ、アー オトーサンカ°
× × 私は 自転車で 家[に] 帰ったら、 あー お父さんが

チョード デカケルトコデ、シー (A シー) アノー {笑} ア カギ
ちようど でかけるところで、んー (A うーん) あの {笑} × 鍵

カケヨート オモッタラ キタンダッテ。ソレデ ソコ (A うーん)
かけようと 思ったら 来たんだって。それで そこ (A うーん)

ウ ンダカラ イタカラ ヨカッタケドネ。(A うーん) トニカク
× だから [家に]いたから 良かったけどね。(A うーん) とにかく

ウチニ ハイルモ ナニモ、ウチンナカ メッチャクチャデネ。(B ンダネー
家に 入るも なにも、家の中[が] めっちゃくちゃでね。(B そうだね

アノヒワ) うーん。ホントニ タイ、アト ダカラ ソノヒワネ、チョット
あの日は) うーん。本当に ××、あと だから その日はね、ちょっと

ジッカ ワタシ ソバダカラ (A シー) シー デ アノー ジッカノ
実家[が] 私[は] そばだから (A うん) うん で あの 実家の

ハウスニネ、ミンナントコ ヒナンサセル ウ ルコト ノ ニシテネ。
ハウスにね、皆のこと 避難させる × ×こと × にしてね。

(A シー) アノー ホラー エ アノ シャクヤモ アルモンダカラ、マズ
(A うん) あの ほら × あの 借家も あるものだから、まず

ソノヒトタチオ マモンナキャナイツツテ。(A シー シー シー)
その人たちを 守らなければいけないと言って。(A うーん うん うん)

シー。ソレデ トニカク、ソシテ ソーヤッタラ ゴキンジョサンモ
うん。それで とにかく、そして そうやったら ご近所さんも

ミンナーナ キテネ。{笑} (A アー ンジャ ネ ソ) ヨンジューナンニン
皆 来てね。{笑} (A あー それじゃあ ね ×) 四十何人

ハイッタノ。
入ったの。

007A : アー ンジャー ソ (B ン) ソレワ イガッタナ。アノヒ
あー それじゃあ × (B うん) それは 良かったね。あの日[は]

サムガッタガラネ。

寒かったからねー。

008B : サムガッタガラ。ソシテ ミンナ ストーブ モチヨッタリネ。
寒かったから。そして 皆 ストーブ[を] 持ち寄ったりね。

(A ン ン) アノ ブルーシート シーテ。(A ン)

(A うん うん) あの ブルーシート[を] 敷いて。(A うん)

ン。 モーフ モッタリ。{笑} ン。 ソーヤッテネ、トニカク
うん。 毛布[を] 持ったり。{笑} うん。 そうやってね、とにかく

アノ ス ミンナントコ カマッテタラネ、ワ ワタシタチ ハイルヨチ
あの × 皆のこと 構ってたらね、× 私たち[が] 入る余地

ナクナッテネ。{笑} ケッキョクワ アノ ジブンノウチデネ、(A ン)
無くなってね。{笑} 結局は あの 自分の家でね、(A うん)

ン ネタヨーナ ジョータイダッタノ。ン。(A ア _____)

うん 寝たような 状態だったの。うん。(A あ _____)

ソシテ ソノツギノヒカラ コンドネ、アノ ヤッパリ ノーカダカラネ、
そして その次の日から 今度ね、あの やっぱり 農家だからね、

ムカシカラ ソーユートキワ タキダシ シナキャナイッテユ (A ア)
昔から そういうときは 炊き出し しなければならないという (A あ)

アタマガ アルンデスネ。(A ア) オン オネーサンガ (A ア)
頭が あるんですね。(A あ) ×× お姉さんが (A あ)

{笑} ジッカノ。ダカラ スルカラッテ ユーノ。(A ン) {笑}

{笑} 実家の。だから するからって 言うの。(A うん) {笑}

009A : ナーンカ タベル タベルツツーガ、クーゴド アンマリ (B ア一)
なんか 食べる 食べるというか、食うこと あんまり (B ア一)

カ カンガエナガッタンダワネ。

× 考えなかったんだわね。

010B : ダ アノ トニカク ジシン オサマッタラ アトワ ナントモナイスネ。
× あの とにかく 地震[が] おさまったら 後は なんともないしね。

ウチノナカワ メチャクチャダケド、(A ア一 ン一 ン一 ソー ソー)
家の中は めちゃくちゃだけど、(A あ一 うん うん そう そう)

デンキモ ユナイケド。デモ ソコワ ホラ、ノーカダノ バッカリ ダカラ、
電気も 来ないけど。でもそこは ほら、農家とか ばっかり だから、

(A ン) トラクタトカ ソーユーノカラ デンキ、(A エ一 ア一) アノ
(A ん) トラクターとか そういうのから 電気[を]、(A え一 あ一) あの

マサカ ソン ナンカ ア アトカラ アンナ ガソリンブソクナル
まさか ×× なんか × あとから あんな ガソリン不足になるなんて

ナンツーノ ワカンナイモンネー。{笑} ンネ アノ ソヤッテネ、
いうことは わからないものね。{笑} ×× あの そうやってね、

ジドーシャ ナラベテ テラシタリネ。(A ア一) ン一。
自動車[を] 並べて 照らしたりね。(A あ一) うん。

011A : ンデ ワリト イエ アノ (B ア一 ウ一 ソー ソー)
それでは 割と ×× あの (B あ一 う一 そう そう)

イーカンジデ {笑} (B オーン) ネ一。

いい感じで {笑} (B う一ん) ねえ。

012B : アノ ミンナデ ア ソシテ ミンナ オーキ ウチノ ヒト オーイカラ
あの みんなで × そして 皆 大きい 家の 人 多いから

仙台市 自由会話

ストーブモ アノ (A ア一) オッキノ モッテル ヒトモ イテネ。
ストーブも あの (A あ一) 大きいの 持っている 人も いてね。

ヨンダイク° ライ。 (A ア一) タダノ セキユストーブネ。
4台ぐらい。 (A あ一) ただの 石油ストーブね。

ン一 ミンナ ワリト チャント シテマシタヨ。 ソシタラ ツ
う一 皆 割と ちゃんと していましたよ。 そしたら ×

ア一サン ナツタラ アノ タキダシスルツテンデ、 スイドーワネ一、
朝に なったら あの 炊き出しするって言うので、水道はね、

ン一 キテタンデスヨネ。
う一 きていたんですよね。

013A : ア一 (B ン一) スイドー トマンナガッタンダヨネ。
あ一 (B う一) 水道[は] 止まらなかつたんだよね。

014B : トマンナガッタ。(A ウ一) ン一。(A イヤ一 マ一) ソレデ アト
止まらなかつた。(A う一) うん。(A いやあ まあ) それで あと

スイドー トマンナイシ、プロパンダカラ、{笑} ノーカダカラ。
水道[は] 止まらないし、プロパンだから、{笑} 農家だから。

(A ア一 ヨガッタネ一) ネ一 ソレデネ (A ウ一) アノ オーキー
(A あ一 良かったね一) ね一 それでね (A う一) あの 大きい

カマモ アルシ オナベモ アルシ (A ウ一) コメモ ヤサイモ
釜も あるし お鍋も あるし (A う一) 米も 野菜も

アルシッテカンジデネ。 モ一 (A イヤ一) シゴニチ ネ、ソーヤッテ
あるしって感じでね。 もう (A いや一) 4,5日 ね、そうやって

シン マイニチ タキダシシタノ。 {笑}
×× 毎日 炊き出ししたの。 {笑}

015A : ソノヒンワ ノーカノ ヒトダジワ ヨガッタヨネ。(B ネー ンー)

そのへんは 農家の 人たちは 良かったよね。(B ねー うーん)

ンー ケッコー。デー オレタジワ (B ンー) モー タダー ク アノー
うん 結構。それで 私たちは (B うん) もう ただ × あの

タイグカンサ ネー (B ンー) ナーシニモ、ナニモ モダネデ
体育館に ね (B うん) 何も、 何も 持たないで

イッタヨネー。(B ンー) ウジダゲデネガナ。(B ソーダヨネ) ナニモ
行ったよね。(B うん) うちだけではないかな。(B そうだよ) 何も

モタネデ イッテル。 {笑} シタラ ミンナ チャント ネ、
持たないで 行ってる[のは]。 {笑} そしたら 皆 ちゃんと ね、

(B ンー) アノ ダイジナモノ モツタリ、(B ンー ンー ンー ンー)
(B うん) あの 大事なもの 持ったり、(B うん うん うん うん)

ソシテ イダダヨネ。(B ン ネー) ンー ソ ソンデ サムイー、
そうして いたんだよね。(B ん ねー) うーん × それで 寒い、

サムイツーノデ (B ンー) ウジサ モドッテキテー (B ンー) アノー
寒いっていうので (B うん) 家に 戻ってきて (B うん) あの

モーフ モツテッタリ (B ンー ンー ンー) エ シタノネ。シタラ
毛布[を] 持っていったり (B うーん うん うん) × したのね。そしたら

ナーンカー イー ロクサイグライカ°、(B ンー) ゴロクサイノ
なんか ×× 6歳くらいか、 (B うん) 5,6歳の

オンナノコカ°、モー ゴロクサイ ナンナイナ。(B ンー)
女の子が、 もう 5,6歳[にも] ならないな。(B うん)

サンヨンサイガネ。ソー モー オシッコ モラシテワサ、(B ンー)
3,4歳かな。 そう もう おしっこ[を] もらしてはさ、(B うーん)

シー シー) サム サムガッテンダサ。 (B ネー) ダー ソ ソレオ
うん うん) ×× 寒がっているんだよね。 (B ねー) だから × それを

カゲサセデ。 (B シー) エー トニカグ シー コッチワ サムガッタネ。
かけさせて。 (B うん) えー とにかく ××× こっちは 寒かったね。

(B ウ シー) {笑} ホーントニ。

(B × うーん) {笑} 本当に。

016B : ア アト デンキガ キエッタカラ、 ソノブン ラジオ キクナンテ
あ あと 電気が 消えていたから、その分 ラジオ[を] 聞かなくて

キ、ヨユーモ ナカッタネ。

気、余裕も 無かったね。

017A : ア ソ (B ソー) ラージオ モッテッタンダ。 (B アン) ソシタラネ
× そう (B そう) ラジオ 持っていったんだ。 (B うん) そしたらね

018B : ソシテ ホラ タキシヨ タキダシスンノニネ (A シー) ナニシロ
そして ほら ×××× 炊き出しするのにね (A うん) なにしろ

スイジガカリニ ナッテシマッタモンダカラ、 {笑} モー ソレガ モエ
炊事係に なってしまったものだから、 {笑} もう それが もう

サンショグダスノ タイヘンデシタヨ。 マイ マイシヨクネ。 (A アーー)
三食出すの[が] 大変でしたよ。 ×× 毎食ね。 (A あーー)

ナーー ゴ、ゴロクジュッコ (A アーー) シー。

××× 5、50~60個 (A あーー) うん。

019A : ンジャー (B シー) ヨワッタナ。

それじゃあ (B うん) 弱ったな。

020B : アト ホラ オイッコガ ナンカ ショーボーニネ、デテタカラ (A アーー)
あと ほら 甥っ子が なんか 消防にね、 出ていたから (A あーー)

仙台市 自由会話

ソノヒトタチニモネ、マイニチ ニジュッコグライズツ ヤルトカネー。
その人たちにもね、 毎日 20個くらいずつ やるとかね。

(A ン) ン ナンカー ソンナ キョーフカンヨリ ソレガ

(A ん) ん なんか そんな 恐怖感より それが

イソガシクテ タイヘンダッタ。 {笑}

忙しくて 大変だった。 {笑}

021A : ン ヤッパリ ン ジャ ノーカノシタジワ (B ウ) ワリト
うん やっぱり それじゃあ 農家の人たちは (B うん) 割と

イガッタんだヨネ。 (B ウ ン) ン。

良かったんだよね。 (B × うん) うん。

022B : ソシテ ソーユーノ キーテテネ、 アノ オヤサイ モラッタリネ。 {笑}
そして そういのの 聞いていてね、あの お野菜[を] 貰ったりね。 {笑}

(A アー) ア ア ンダカラ ソ アー ホ ナンカス ココワ アン ンテ

(A あー) × × だから × あー × なんかさ ここは ×× ××

アノ ショクジ イクテ イーネートカッテ (A ン ン ン)

あの 食事[が] 良くて 良いねとかって (A うん うん うん)

イワレテマシタヨ。 {笑}

言われていましたよ。 {笑}

023A : ホントダネ。 (B ウ) ダガラ ヤッパリ アノ ヨ ヨールー
本当だね。 (B うん) だから やっぱり あの × 夜

ハチジーカラー、ハチジコロガネ、 (B ン) ラジオ キーデタラ、
8時頃、 8時頃かね、 (B うん) ラジオ[を] 聞いていたら、

アノー カ アラハマカイガンニ (B ン) ニ ニヒャグガラ

あの × 荒浜海岸に (B うん) × 200から

サンビャグタイノ (B ソー シー) イタイガー アノー
300体の (B そう うん) 遺体が あの

(B ア ソノヒニワ) アガッテル。 (B シー シー) ナー ナーニ、
(B あ その日には) 上がっている。(B うん うん) ×× 何、

コッチデワ ミエナイガラネー。(B ミエナイ ソー ソー ソー) ソー
こっちでは 見えないからねー。(B 見えない そうそうそう) その

ナニガ オギッテッカ ゼンゼン
何が 起きているのか 全然

024B : ナンカ ツナミ キタッテ イワレタコトモ (A シー) ナンカ
なんか 津波が 来たって 言われたことも (A うん) なんか

シンジランナイカンジネ。(A ワガンナグテ ネ) イワレテモ。
信じられない感じね。(A 分からなくて ね) 言われても。

025A : テレビモ ミダワゲデナイシネ。(B ネ) ンダラー デモ ケータイデ
テレビも 見たわけではないしね。(B ね) そしたら でも 携帯 [電話] で

ナンカ アー ドゴマデ キテルドガッテ (B シー) ネー エー
なんか あー どこまで 来ているとかって (B ん) ねー えー

ユッテル シトダジモ イダッタダケドモー。(B シー シー)
言っている 人たちも いたんだけども。(B うーん うん)

タダ ニヒャグガラ サンビャグタイ、アノー アガッテルヨーツデー
ただ 200から 300体、 あの [遺体が] 上がってるよって

(B シー) ユーノ キーデネー。(B シー) イヤ コレワ
(B うん) いうの 聞いてね。(B うん) いや これは

トンデモナイゴド オギデンダナードワ (B シー シー) オモッタヨネ。
とんでもないこと [が] 起きてるんだなどは (B うん うん) 思ったよね。

026B : ネ ソー (A ソー) ソーゾーワシテモ ドーシタツテ (A ソー) コー
ね そう (A うん) 想像はしても どうしたって (A うん) こう

オモイウカベルノ、ネ。カミヤシキ[1]マデ キテルンダツテ ユーノ、
思い浮かべるの、ね。神屋敷まで 来ているんだって いうの、

(A ソー ソー ソー ソー) アノー キータケドモ。ナニ

(A そう そう そう そう) あの 聞いたけども。何

ユッテンダロツテ カンジダツタネ。

言っているんだろうって 感じだったね。

027A : シテー オラー アノー ラージオカード、アノー
そして ほら あの ラジオカード、あの

ワカバヤシクヤクショマデー アノー ツナミカ° キタツテ ユッタダヨネ。
若林区役所まで あの 津波が来たって 言ったんだよね。

(B ソー ソー ソー ソー ソー ソー ソー) ホンデー アノー コ

(B そう そう そう うん うん うん うん) それで あの ×

ドー コ ンデモ クッチデ ミデーバネー ナニモ (B ネー ソー

×× × それでも こっちで 見てればね 何も (B ねー そう

ソー ソー) キテルー (B ソー) アレデモナイシー。ダガラー ツギノヒ
そう そう) 来ている (B うん) あれでもないし。 だから 次の日

シンセージノシタジー、アノー ウジノー ニョーボーワ ヤマテノホーダガラ
親戚の人たち、 あの うちの 女房は 山の手の方だから

(B ス ソー) カ カワサキノ ホーナノネ。 (B ソー) ダガラ ソッカラ

(B × うん) × 川崎の 方なのね。 (B うん) だから そこから

ミンナ クルンダチャ。デンワワ ツージナイベシー。 (B ソー ソー)

皆 来るんだよ。電話は 通じないだろうし。 (B そう そう)

ンダガラー ンー クヤクショマデ キタンデワー、(B ソー) オラエモ
だから ンー 区役所まで 来たのでは、(B そう) 私の家も

ネグナッテルワ、(B ンー ンー) ソユーゴドデ オラー
無くなっているわ、(B うん うん) そういうことで ほら

028B : ウチモネ、(A ンー) ムスメガ トーキョーニ イルモンダカラ、
うちもね、(A うん) 娘が 東京に いるものだから、

ニュースワネ、(A ンー) リアルタイムデ ミテルカラ、 モー スゴイ ソノ
ニュースはね、(A うん) リアルタイムで 見ているから、もう すごい その

キョーフショー ナッタミタイニ (A ソー) ナッテ ソレデ コー、
恐怖症[に] なったみたいに (A そう) なって それで こう、

シンインセーノネ、(A エー) グアイワルクナッタンデスヨ。
心因性の[病気になって]ね、(A えー) 具合悪くなったんですよ。

ンテ マダ シッカリ ナオッテナイカ。 {笑} ンデ シ イーノ
×× まだ しっかり 治っていないから。 {笑} それで × ×××

イツデモ ニモツ カカエテネー。 {笑} ホントニ。(A アー) アノー
いつでも 荷物[を] 抱えてね。 {笑} 本当に。(A あー) あの

チョクセツ ミテ スグ コレナイ ヒトタチワ スゴク
直接 見て すぐ 来れない 人たちは すごく

コワカッタミタイデネ。(A ンダヨネ) ワタシタチワ ア ダイジョブダカラ
怖かったみたいでね。(A そうだよね) 私たちは × 大丈夫だから

モーッテ アノー バッテリー モッタイナイカラ デンワ ヨゴサナクテ
もうって あの バッテリー[が] もったいないから 電話 よこさなくて

イーカラッテノサ、 ソレガ コッチノ ジョーホー ワカンナイ、アノ
いいからって[言う]のに、それが こっちの 情報[が] わからない、あの

仙台市 自由会話

キケナイカラ スーコク (A ソー ソー ソー) シンパイシテネー。
聞けないから すごく (A そう そう そう) 心配してね。

029A : ダー デンワワー トニカグー アノ ツナガラナイガラー (B ソー ソー)
だから 電話は とにかく あの つながらないから (B うん うん)

エー コードー コー ミンナガ キテミルドガ (B ソー)
えー 行動 こう 皆が 来てみるとか (B うーん)

ソーユーゴド ダツタンデネ。
そういうこと だったんだよね。

宮城県仙台市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 カミヤシキ

仙台市若林区荒井神屋敷のこと。仙台東部有料道路そばの海岸側。

宮城県仙台市方言会話集（自由会話）担当者

- 収録担当者 武田 拓（仙台高等専門学校准教授）
坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）
- 文字化担当者 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

— 宮城県仙台市 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点	宮城県仙台市				
収録日時	2012（平成24）年7月13日				
収録場所	宮城県仙台市若林区新井 七郷市民センター会議室				
話題	【場面設定会話】 全13場面				
話者					
A	女	1943（昭和18）年	（収録時69歳）	[Bの友人]	
B	男	1937（昭和12）年	（収録時75歳）	[Aの友人]	
話者出身地					
A	仙台市若林区荒井（アライ）				
B	仙台市若林区荒井（アライ）				

【場面設定会話】

話し手

A 女 1943 (昭和 18) 年 (収録時 69 歳)

B 男 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨー。ドッカイクノー。

おはよう。どこか行くの？

002B : アー キョー アサ テンキイーガラ サンポシット オモツテ。

ああ 今日 朝 天気良いから 散歩しようと思つて。

003A : シ アツツイガラ キーツケデネー。

うん 暑いから 気をつけてね。

004B : アイ アリガドー。

あーい ありがとう。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : ア コンニチワー。ド ドッカ デガゲル トコナノ。

あ こんにちは。× どこか 出かける ところなの？

002B : イヤー キョー テンキ イーガラワー、ジャガイモデモ ホット

いやあ 今日[は] 天気 良いからね、じゃがいもでも 掘ろうと

思つて。

オモツテ。

003A : アラ ンデ イッパイ トレタラ マツテッカラネ。

あら それでは いっぱい とれたら 待ってるからね。

004B : アー アノー イッペー モッテンカラー コンバンノ リョーリサ
ああ あの いっぱい 持っていくから 今晚の 料理に

ツカッテケサイン。
使ってください。

005A : アリガトー。
ありがとう。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アラ コンバンワー。ドッカ デカケテキタノ。
あら こんばんは。 どこか 出かけてきたの？

002B : アー キョー ナンダガ アツクテ アツクテ ブラブラシテキタノー。
ああ 今日 なんだか 暑くて 暑くて ぶらぶらしてきたの。

003A : ワー ワタシモ アノ アツ アツガッタカラ イマゴロンナッテ
わあ わたしも あの ×× 暑かったから 今頃になって

サンポシテタノ。 {笑} (B ンー) ンジャーネー。
散歩してたの。 {笑} (B うん) それじゃあね。

004B : ハイ オミョーニズー。
はい また明日。

〈ねぎらい〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アラ アツツイノニ ガンバッテッコドー。カラダ キーツケサインヨ。
あら 暑いのに 頑張っていること。 身体[に] 気をつけなさいよ。

002B : ハーイ アリガドー。イヤー ホントニ アツイネー。デモ ヤンネート
はい ありがとう。いやあ 本当に 暑いね。 でも やらないと

ダメダガラ ヤンダケデガスー。
だめだから やるだけです。

003A : ガンバライネ。
頑張ってるね。

004B : ハーイ アリガトー。
はい ありがとう。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : アラ ガンバッコト。スコシ イップク シナイスカ。
あら 頑張ること。少し ひと休み しませんか？

002B : アー ンダネー。ンデ イップクツケッカー。
ああ そうだね。それでは ひと休みするか。

003A : ン。 アラ スコシ オカシ モッテキタカラサ、イッシヨニ タベッチャ。
うん。あら 少し お菓子 持ってきたからさ、一緒に 食べるでしょ？

004B : アヤヤ コイズ ウンメーゴダー。イヤイヤ ナンカ ウレシグナルナヤ。
あやや こいつ[は] うまいこと。 いやいや なんか 嬉しくなるなあ。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニチワ。イマシタカ。
こんにちは。居ましたか？

002B : アー イダヨー。ハイライン。
ああ 居るよ。 入ってください。

003A : アー アリガトー。
ああ ありがとう。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : コンニチワー。スコップ カシテケサイン。

こんにちは。 スコップ 貸してください。

002B : ハーイ イイヨー。アノ ナヤンドコニ アツカラ モツテテ、
はい いいよ。 あの 納屋のところに あるから 持って行って、

モツテ ツカワイン。
持って[行って] お使いなさい。

003A : デ カリルネー。

じゃあ 借りるね。

004B : ハーイ。

はい。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : コンニチワー。カ カリタ スコップ カエシニ キタノ。ドーモ

こんにちは。 × 借りた スコップ 返しに 来たの。どうも

オセワサマデシタ。
お世話さまでした。

002B : ハーイ ナーヌ、イマ モツテ コナイダツテ イイノヌー。スグデ ナイツテ
はい なに、 今 持って 来なくたって いいのに。 すぐで なくって

イーンドヨー。
いいんだよ。

003A : ン。 デモ ココニ オイドツカラネ。

うん。でも ここに 置いておくからね。

004B : ハーイ オイデガイン。
はい 置いていってください。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : アノ カリダ スコップネ、コワシテシマッタノワー。
あの 借りた スコップね、壊してしまったのよ。

モーシワゲナイゲントモ。
申し訳ないけれども。

002B : ハーイ イーンダ イーンダー。イーガラ イーガラー。コンナノ、アノ、
はい いいんだ いいんだ。 いいから いいから。 こんな、あの、

コワレルヨーニ ナッテアンダー。イーガラー、チニスッコト ネーヨー。
壊れるように なってたんだ。 いいから、 気にすること ないよ。

003A : アリガトー。ンデ オイデンカラネー。
ありがとう。それでは 置いていくからね。

004B : ンー。ハーイ ハイ ソコサ オイデデー。
うん。はい はい そこへ 置いておいて。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー コノアイダ カリタ スコップ、ナンダカ
ああ この間 借りた スコップ、なんだか

コワシテシマッタダヨワー。
壊してしまったんだよね。

002B : ナーндаガ。コワサナイヨーニッテ ユッタッチャー。ンー オレノモ
なんだか。 壊さないようにって 言ったでしょ。 うーん 私のも

ホイヅシカ ネガッタダワー。
それしか なかったんだよ。

003A : アラ ンデ アダラシグ カツテモラワナゲネワネー。 {笑}
あら それでは 新しく 買ってもらわなきゃいけないわね。 {笑}

004B : イヤ アダラシー モノマデーワ イワネゲントモサー。ンダー キーツケテ
いや 新しい ものまでは 言わないけれどもさ。だから 気をつけて
ツカッテケサインヤ。
使ってくださいよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを復興バザーに誘う際のやりとり。

001A : キョー バザー アンダゲントモ イガナイスカ。イマカラ
今日 バザー[が] あるんだけどでも 行きませんか?今から

デガケット オモンダゲドモー。
出かけようと 思うんだけども。

002B : アラー ゴメンネー。イヤー イギデーンドゲットモ ニョーボ
あら ごめんね。 いやあ 行きたいんだけども 女房[が]

ドコサダガ イグッテ ユーカラ ツレデガネグネーンドヤー。
どこへだか 行くって 言うから 連れてかなくてはいけないだよ。

ゴメンネー。コンド サソッテー。
ごめんね。今度 誘って。

003A : ンデ ワタシ イッテクッカラ。ン。
それでは わたし[は] 行ってくるから。うん。

004B : アー ゴメンネ ホントニネー。イツモ サソッテモラッテ ワルイゲットモー、
ああ ごめんね 本当にね。 いつも 誘ってもらって 悪いけれども、

キョーワ ダメナンダヤー。
今日は だめなんだよ。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : オミマイニ イコート オモッテ、コナイダ イーヨーダッタケド、
お見舞いに 行こうと 思って、この間[は] [調子が]良い様だったけど、

ドーダイネー。

どうだろうね。

002B : アー オガゲサンデ ナンカ スコシ ラグニナタヨーナ
ああ おかげさまで なんか 少し 楽になったような

キースンダゲドモ。 イヤー ワザワザ キテモラッテ
気[が]するんだけど。いやあ わざわざ 来てもらって

ドーモアリガドネー。

どうもありがとうね。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : マタ キテミタンダケドモ、ドー ドーッシャ。
また 来てみたんだけど、×× どうですか？

002B : ーン コノ コノマエワ イガッタンダゲドモ、ナーンダガ カラダガ
うん ×× この前は 良かったんだけど、なんだか 身体が

ダルクテ、ナーンダガ ダメダ。オレモ トスダワナー。
だるくて、なんだか だめだ。私も としだよな。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : アンダ チョーシワルイッテ ユーガラ、スコシ カタズケテヤッカナート
あなた 調子悪いって 言うから、少し 片付けてやるかなあと

オモッテ キテミタンダケドモ。

思っ て 来てみたんだけども。

002B : アー ゴメン ホントニ アリガドー。イヤー ナンダカ マエ スコシ
ああ ごめん 本当に ありがとう。いやあ なんだか 前 少し

イグナッタト オモッタツケ マーダ チョーシワルインダー。
良くなったと 思ったら まだ 調子悪いんだ。

ホントニ アリガドー。タノムナー。
本当に ありがとう。頼むな。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ て捨てようとしているときに、Bがそれを制止してどのようにいうか。

001B : アイ コゴ カタズゲデヤ、コイツモ アノ、ステットワ。
あーい ここ 片付けてさ、 これも あの、捨てるよ。

002A : ア アラ ホイツワ ダメ。ソ ソイツ ダイジナンダモノ。
あ あら それは ダメ。× それ 大事なんだもの。

003B : アー ホーガ。ンデ ココサ オッカラナ。
ああ そうか。それでは ここに 置くからな。

宮城県仙台市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 武田 拓（仙台高等専門学校准教授）
坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
伊藤 友香（東北大学文学部3年）

文字化担当者 坂喜 美佳（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）

【 宮城県仙台市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な仙台市方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

⇨これは簡単に言えば、単語の頭以外の位置にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になり、濁って聞こえることです。専門的に言えば、母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になることで、有声化と呼びます。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば「柿」は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもかなりよく保たれているようです。例えば、カ行音については、「タガイ」（高い）、「オギデンダナ」（起きているんだな）、「タイグカン」（体育館）、「カゲサセテ」（かけさせて）、「コゴマデ」（ここまで）、また、タ行音については、「アダマ」（頭）、「オレタジ」（私たち）、「アズマレ」（集まれ）、「キーデタラ」（聞いていたら）、「ジシンドギ」（地震のとき）といった例が聞かれます。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

⇨単語の頭以外の位置にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルとなり、「上げる」と混同してしまいそうです。しかし、「上げる」のほうは「げ」が

鼻濁音、すなわち鼻にかかった濁音（「ケ°」のように半濁点で表記する）となり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。このように、「げ」が鼻にかかる現象を鼻音化と言います。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「ツナミカ°キタ」（津波が来た）、「ヨンダイク°ライ」（四台くらい）、「スーコ°ク」（すごく）のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。そうした問題を含むものの、文字化資料では一律に鼻濁音で表記してあります。

以上のガ行に加えて、同じようにダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）。

例) ダ行：肌 → ハンダ
 ザ行：風 → カンゼ
 バ行：首 → クンビ

以前は、仙台市でもこうした発音が行われていたものと思われませんが、現在は衰微が著しく、今回の話者たちからはほとんど聞かれませんでした。

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞これは「口蓋化」と呼ばれる現象の一種です。この場合の口蓋化とは、キの発音をするときに、舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を指します。

例) 機械（きかい） → チカイ
 救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ
 今日（きょう） → チョー

上の例では、「チ」と表記しましたが、仙台では完全にチになるのではなく、キのあとにシの発音を添えるような微妙な音になることが多いようです。今回の会話集の話者たちにもこの特徴は見られ、「チタンダヨネ」（来たんだよね）、「チニスッコト」（気にすること）のような例が聞かれます。しかし、概してこの傾向は強くは現れていません。

【母音】

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言います。宮城県ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」のように発音され、これらは区別がありません。いわゆるズーズー弁と呼ばれる所以です。

例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス
知事（ちじ）、地図（ちず）、辻（つじ） → すべてツズ

今回の会話集の話者たちからも、「ナントモナイスネ」（なんともないしね）などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

¶ アクセント

仙台市は、アクセントの型がない無型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない（＝型がない）ため、区別されません。

共通語話者がこの無型アクセントの発音の地域のことばを聞くと、文が平らでのっぺりしているとか、区切れがわからず意味が取りにくいとの印象を受けるようです。

一方で、アクセントがないためか、同じ無型アクセント地域の福島県や茨城県などに似た独特の音調が聞かれます。

Ⅰ 文 法

【格助詞】

▼「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主語を表す助詞や、「を」のような目的語を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることがよく見られます。特に、「を」にあたる助詞に顕著です。

例) 主語 : 俺 行く (俺が行く)
目的語 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「センキョジムショ テツダッテテネ」(選挙事務所を手伝ってね)、「ジムショ ユレテデ」(事務所が揺れていて)、「ツナミクンノガナー」(津波が来るのかなあ)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

▼「サ」

共通語の「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところも多くあります。

例) ドコサダガ イグッテ (どこへだか行くって)
ウジサ カエッテキタ (家に帰ってきた)
ソコサ オイデデー (そこへ置いておいて)
リョーリサツカッテケサイン (料理に使ってください)

ただし、「サ」は共通語の「に」ほど広い意味をもっているわけではありません。「ココサ オッカラナ」(ここに置くからな)のように「サ」を使った発話例が聞かれる一方、「ココニ オイドッカラネ」(ここに置いておくからね)のように「サ」を使わず「ニ」を用いた発話例もあります。仙台市では、もともと「～サ 居る」「～サ ある」という言い方はしませんでした。が、しだいに、そのような言い方をすることになってきたものと考えられます。

【接続助詞】

▼「ガラ」

共通語の「から」に当たる接続助詞（順接既定条件）に「ガラ」がある。

☞「ガラ」の用法は共通語の「から」とほぼ同じと思われます。共通語同様、次のように、終助詞的に使用されることもあります。

例) デンワワー トニカグー ツナガラナイガラー (電話はとにかくつながらないから)

【接続詞】

▼「ンダカラ」「ンデ」

共通語の「だから」にあたる「ンダカラ」、「それでは」にあたる「ンデ」などが用いられる。

例) ンダカラ イタカラ ヨカッタケドネ (だから[家に]いたから良かったけどね)
ンデ ココサ オッカラナ (それではここに置くからね)

☞今回の会話集には現れていませんが、「ンダガラ (ホンダガラ、ダガラ)」は、単独で相づちのようにも使われ、相手の言ったことへの強い同意・共感を表す用法もあります。

例) -今日、暑イゴド (今日は暑いね)
-ンダガラ ((本当に) そうだね)

【助動詞】

▼「ベ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「ベ」がある。

☞「ベ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう) <推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう) <意志>

お祭り、お前も行くべ？（お祭り、お前も行くだろう？） <確認>
みんなでがんばッペ（みんなでがんばろう） <勧誘>

今回の会話集では、「デンワワ ツージナイベシー」（電話は通じないだろうし）のように推量の用法が見られます。

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使われやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？
②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。
あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

今回の会話集の話者たちからも、「イダヨー」（居るよ）などの発話が聞かれました。

【終助詞】

▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手が知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。

例) コワサナイヨーニツテ ユッタッチャー。(壊さないようにって言ったでしょ。)
イッショニ タベッチャ。(一緒に食べるでしょ?)

【敬語】

▼「ス」「ガス」「イン」「サイン」

敬意を表す形式として「ス」「ガス」「イン」「サイン」などがある。

☞共通語との対応を考えると、大まかに言って、「ス」は「です」「ます」、「ガス」は「です」などにあたります。「イン」「サイン」は相手に丁寧に働きかける言い方で、柔らかい印象を与えます。

例) スコシ イップク シナイスカ (少しひと休みしませんか?)
ヤンネート ダメダガラ ヤンダケデガスー (やらないとだめだからやるだけです)
オイデガイン (置いていってください)
ツカワイン (お使いなさい)
カラダ キーツケサインヨ (身体に気をつけなさいよ)
ツカッテ ケサインヤ (使ってくださいよ)

【参考文献】

- 加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210
- 加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 国立国語研究所編 (1981) 『国立国語研究所資料集10 方言談話資料5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版
- 小林隆編 (2000) 『宮城県仙台市方言の研究』東北大学国語学研究室
- 佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11被災地からの提言ー』ひつじ書房

な とり し
名 取 市



ゆりあげ港朝市
(写真提供：宮城県観光課)



名取市

宮城県名取市概要

①名取市の概観

名取市は、仙台市の南東、仙台市に隣接した位置にあり、古くから東北道の要衝として栄えてきた。また、貞山堀（ていざんぼり）という運河や、閑上（ゆりあげ）港という港をも擁する水運、海運の拠点となる地域でもある。加えて、近年、市内に仙台空港が開港したことで、陸、海、空、それぞれの道の拠点となっている。文化的な面でも、東北地方最大の前方後円墳である雷神山古墳など、歴史的な文化遺跡・文化財を豊富に有する。

名取市は、肥沃な土地、気候、風土に恵まれ、農業、漁業から工業まで、幅広い産業が盛んである。カーネーションの生産量は全国一であり、ササニシキ、ひとめぼれなどのコメの収穫量も多い。また、笹かまぼこ発祥の地としても知られている。

②収録地点について

調査地点である名取市本郷、高柳、増田はともに名取市の平野部に位置しているが、高柳はその中でも沿岸寄りである。

③東日本大震災による名取市の被害

3月11日、名取市は震度6強の地震に見舞われた。その後、仙台湾で、本震と余震による津波が重なり合い、名取市では、波高7.71mに達する津波が押し寄せた。高台のない平らかな地形のため、津波は東部道路を超えて、国道4号線や東北本線が走る6キロの奥地にまで流れ込み、雷神山古墳の手前まで及んだ。名取市の被害は甚大で、仙南の平野部で最大の犠牲者数を数えた。仙台空港も津波の直撃を受けて使用不能となった。

表1 名取市の人的・住宅被害

名取市人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
73,134人	911人	58人	1.32%	2,806棟	1,060棟

表2 名取市の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	12,155人	16.6%
世帯	3,974世帯	15.8%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.201～206に依拠する部分が多い。特に、表1・表2は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
名取市ホームページ（<http://www.city.natori.miyagi.jp/>）（2013/02/23アクセス）

被災地方言会話集

— 宮城県名取市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県名取市

収録日時 2012（平成24）年7月14日

収録場所 宮城県名取市植松 館腰公民館

話題 【震災のときのこと】

話者

A	女	1924（大正13）年	（収録時88歳）	[Bの友人]
B	男	1924（大正13）年	（収録時88歳）	[Aの友人]

話者出身地

A	名取市高柳（タカヤナギ）
B	名取市本郷（ホンゴウ）

【震災のときのこと】

話し手

A 女 1924 (大正 13) 年 (収録時 88 歳)

B 男 1924 (大正 13) 年 (収録時 88 歳)

001B : イヤ ヒンドガッターネア、コノ ジスンネー。

いや ひどかったねえ、 この 地震ねえ。

アンダー ヒエ [1] ニ イダッタノ。

あなたは 家 に いたの？

002A : ウン。オレ イエニ イダノ。

うん。私[は]家に いたの。

003B : オーン。

ふうん。

004A : ホンデ ガダガダナッタガラ、 (B ウン)

それで ガタガタ[と]なったから、 (B うん)

デンキ コー フルマンダヨネ。 [2] (B ウン)

電気 こう 揺れるんだよね。 (B うん)

オッカナクテネー、ハ デデガンネガラ、 ハッシャ ツカンデダッケ、

恐ろしくてねえ、 × 出ていけないから、柱[を] 掴んでいたら、

(B ウン) ムスコヌ ソトサデローツテワッタノ。 (B ウン、アー)

(B うん) 息子に 「外へ出ろー」 って言われたの。 (B うん、ああ)

ホデー、ツッカケ ハイデ デナクテネーモンダドモツテネ、

それで、つっかけ[を]履いて 出なくてはいけないものだと思ってね、

ソトサ デンノ ハダシデ

外へ 出るの[に]裸足で

名取市 自由会話

イガンネーヤロドオモッテ。 [3] (B ウン)
行けないだろうと思って。 (B うん)

ツッカケハクコターネーガラ ソソサデデ、 (B アー)
「つっかけ履くことはないから 外へ出て、 (B ああ)

クルマ ダシタガラ クルマサ ノッテローツテ。
車[を] 出したから 車に 乗ってろ」って。

005B : ハー、ウン。
はあ、うん。

006A : ドーデンシタネヤー、アノ ズスンデワ。 (B ウン) ウーン。
動転したねえ、 あの 地震では。 (B うん) うん。

オレモ クンズーネン エジッケントモ
私も 90年 生き[てい]るけれども

アイナズスン ハンズメデダ。 (B ウン) ウン。
あんな地震[は]初めてだ。 (B うん) うん。

007B : オレ、ワダスノ ズスンワネ、ウーン、バイクデースカー、オレ、クルマサー
×× 私の 地震はね、 うーん、バイクでしか、 ほら、車に

ノレネーダヤ。メンキョショー ネンダ。
乗れないんだよ。免許証 無いんだ。

デ、バイク、ケー ンアー、ケーデナクテ アノー、ズドーノ アー
で、バイク、軽 ×××、軽じゃなくて あの、自動の あー

008A : ズドーニリン。
自動二輪。

009B : ズドーニリン、ンデネーヤ。アー、ズデンシャバイク [4] 。
自動二輪、 じゃないよ。あー、自転車バイク。

010A : アー ズデンシャバイクネ。(B ウン) ウン。

ああ 自転車バイクね。(B うん) うん。

011B : アレスカ ネーンダケド。ダガラ ソレデ、チョードネー、ウーン、
あれしか 無いんだけど。だから それで、丁度ね、 うーん、

タカ° ジョーッテユードゴサ イッテキタノ。スオカ° マノ テマエノ。
多賀城っていうところに 行ってきたの。塩釜の 手前の。

ホレデー、ダイタイ イズズハンカ ヌズゴロマデ、エダングナ。(A ウン)
それで、大体 一時半か 二時頃まで、 居たんだな。(A うん)

ホレデー、フツー ホゴノ ヨータスーニ イッタンダゲンドモ、
それで、普通 その 用事を済ませに 行ったんだけども、

サンズマデ ゴログニン イダングナー、 ソノー ナガマカ°。
三時まで 五六人 いたんだな、 その 仲間が。

サンズマデ イレバネー、カエレヌ ホノー アラハマーダノ (A ウン)
三時まで 居ればね、 帰りに その 荒浜だの (A うん)

アズグラサ (A ウン) ブツカッタモンネ。(A ウンウン、ウン) ツナミニ。
あそこらに (A うん) ぶつかったもんね。(A うんうん、うん) 津波に。

012A : ナカ° サッタガモシンネーオンネ。

流されてたかも知れないよね。

013B : カンゼンニ ナカ° サッ (A ウン) テルネ。トゴロカ° ネー、
完全に 流され (A うん) てるね。ところがね、

チョード ヌズコロヌネー、アルオンナノシトカ° ー、
ちょうど 二時頃にね、 ある女の人が、

オライノホー オー オハガガ (A ウン) コッチノ、
私の家の方 ×× お墓が (A うん) こっちの、

センダイノヒトカ° ネ (A ウン) コツツノホーニ
仙台の人がね (A うん) こっちの方に

オハガカ° アルンデ、キタツイデニ オハガマイリ シテインカラ、
お墓が あるので、来たついでに お墓参り[を] していくから、

オラ ス スコス ズガン ハエゲンドモ ケッテイ、
私 × 少し 時間[が]早いけれども 帰っていい、

オハガマイリ シッカラッテ フターリバリネ、
お墓参り[を] していくからって 二人ばかりね、

チョード エク° ドギ、カエッタノ。
ちょうど 行く時、 帰ったの。

デ、サンカ° ズダガラネー、(A ウン) マダ サムイデショー。(A ウン)
で、三月だからね、(A うん) まだ 寒いでしょう。(A うん)

ヨル、ユーガダ (A ウン) オソグナルト。
夜、タ友 (A うん) 遅くなると。

デ、オレモー イマカラ バイクデ カエッテエク° ンダゲドモ、
で、俺も 今から バイクで 帰って行くんだけども、

ウ オノ オレモ ツイデニ ンデー ミンナ タッタトギー
× ×× 俺も ついでに それじゃあ 皆[が] 発った時[に]

ツイデニドオモッテ タッテ カエッタノ。(A ウン)
ついでにと思って 発って 帰ったの。(A うん)

バイクデ。ユックリド キタ。
バイクで。ゆっくりと 来た。

ホーシテ キたらバ、ウーン、シコージョーオ スキ° デ、
そうして 来たら、 うーん、飛行場を 過ぎて、

名取市 自由会話

ホシテー カウツァ [5]、ニッサ ノボッテネー、
そうして 川内沢[を]、 西に 上ってね、

アノー インターンドゴロサ。(A ウン)
あの インターのところ。(A うん)

アズグンドゴロ ワダッテ、カウツァオ ワダッテ、
あそこのところ[を]渡って、 川内沢を 渡って、

コー ヒーサ カエルンダゲンドモ、チョード カウツァ アダリノ
こう 家に 帰るんだけど、 ちょうど 川内沢 あたりの

ハシオ ワダッタ。カワノ ハスオ (A ウン)
橋を 渡った。 川の 橋を。(A うん)

ホシテ チョット ヌゲダラバ、ガダガダガダーツナッタノ、
そして ちょっと 抜けたら、 ガダガダガダーツとなったの、

ケツァネ。(A ウン)
尻がね。(A うん)

ハー、マダコレー ウッショノ タイヤ (A ジョヨシ) パンク
ああ、またこれ 後ろの タイヤ (A ××××) パンク

(A パンク) シタナードオモッタ。(A ウン)
(A パンク) したなと思った。(A うん)

ンデ ガダガダト ナツタン (A ウン) ダド オモッテネー。
それで ガダガダと なったん (A うん) だと思っ
てね。

ヨグ ソレダガラ ハスランネーガラ チョット ヨヒエデ、
よく それだから 走れないから ちょっと 寄せて、

アソ ツイダランダワ。ダーント ヒックリゲッターノ。(A ウン)
足を 着いたんだわ。ダーンと ひっくり返ったの。(A うん)

名取市 自由会話

ホースルト タッテランネノネ、アス ツイダノニ トマッテランネ。
そうすると 立ってられないのね、足[を]着いたのに 止まってられない。

トゴロカ°、ズスン ワカンネーダ。(A ウン)
ところが、地震[だと]分からないんだ。(A うん)

ヒックリゲッターミダッケー、ホノー インターノ、カンバンガ°
ひっくり返ってみたら、その インターの、看板が

ガラガラガラード ヤッテンダッチャー。(A ウン)
ガラガラガラと なってるんだよ。(A うん)

デ カラダモ ウコ° イデンダ。 アノトギ (A ウーン) ズスンデ
で 体も 動いているんだ。 あの時 (A うーん) 地震で

コレー、ハスランネグナツタンダナードオモッテサー。
これ[は]、走れなくなったんだなあと思ってさ。

デ スンバラダ ズスンオ、ウーン、ナオ ウーン、(A オサマル) スエ
で しばらく 地震を、うーん、×× うーん、(A 収まる) ××

オサマルマデ ホゴデ ケツ ツイデ イダンダゲンドモ。
収まるまで そこで 尻[を]ついて 居ただけけれども。

コンナヌ ツオイズスンデワ オライノイエ [6] ガダガダダーノヒエダガラ、
こんなに 強い地震では 俺の家[は] ガダガダな家だから、

カンゼンニ ヒックリゲッテルワナー (A ウン) ド オモッテサー。
完全に 倒壊しているわなあ (A うん) と 思ってさ。

(A ウン) コンド スンペーデ、
(A うん) 今度[は]心配で、

エー、ホーダゲンドモ ヤッパリ ドーロ ホダニ イダンマネ (A ウン)
えー、そうだけでも やっぱり 道路[は]そんなに 傷まない (A うん)

イダンデネーダ、カンボツシテネーダツチャネー。(A ウンウン、
傷んでないんだ、陥没してないんだよね。(A うんうん、

ウンウン) スッスード キタツケー、マズ イズバンサイショ
うんうん) すいすいと 来たら、 まず 一番最初[に]

Xクンノヒエ ミエッカラ、(A ウン) マズ ナンデモネーナ。
X君の家 見るから、(A うん) まあ 何でもないな。

デ オライノズッカ [6] スク° ミエダガラ、(A ウン) マワッテ、
で 俺の実家[が] すぐ 見えたから、(A うん) 回って、

ホゴモ ナンデモネー。
そこも 何でもない。

ヒエサ キテミダラバ、ヒエモ ナ チャント タツテッケントモ、
家に 来てみたら、家も X ちゃんと 建ってるけれども、

アンブラカンカ°、ヒックリゲッテ。タンク。(A ウン)
油缶が、 ひっくり返って。タンク。(A うん)

ホデ パクパッコンブグブグド。
それで パクパッコンブクブクと。

014A : アブラ デデンドワ。(B マズ) ナカ° レッタノ。
油 出てるんだ。(B まあ) 流れてたの。

015B : ウン、ナカ° レッタノ。
うん、流れてたの。

ホデ ガガサンカ° イッショケンメヌ、アノ、
それで 奥さんが 一生懸命に、 あの、

ハッポースチロールダガ ナンダガ モテシテネー、
発砲スチロールか 何か[を] 持ってきてね、

名取市 自由会話

コー スタサ エンデ、ンー フイツツァ
こう 下に 置いて、んー そいつに

タマ タメツタンダツケワネ。(A ウンウンウン)
×× 貯めてたんだよね。(A うんうんうん)

ゼンブ ナカ° レダンダワナ。マンタンヌ スツタンダ。(A ウン)
全部 流れたんだよな。満タンに してたんだ。(A うん)

ホンダガラ ホレ、ヒックリゲツタンダナイ。
それだから ほら、ひっくり返ったんだな。

デ、ホイズ オデッテシテ。
で、それ[を] お手伝いして。

ウーン、ホーシタラバ、マンズ テレビワ ナイ、
うーん、そうしたら、まず テレビは 無い、

デンキワ ツケナイデショー。(A ウーン、ウン ウン)
電気は つけないでしょう。(A うーん、うん うん)

コンド ナンノジョーホーモ ワガンネワケダ。
今度[は]何の情報も 分からない訳だ。

チョード ランズオカ° ドコサ オイツタンダガ、ナンボモアル ラズオ。
ちょうど ラジオが どこに 置いてたんだか、何個もある ラジオ。

ニワガダモンダカラ、マー ミッケランネクテ。
急なものだから、 まあ 見つけれなくて。

ダッテ ジョーホー ナンニモ ワガンネー。
だって 情報[が] 何も 分からない。

ソノマンマ、ローソグオ ツケナカ° ラ、
そのまま、蠟燭を 点けながら、

ホラ ヨスンカ° ショツチュー アッタガラネ。(A ア)
ほら 余震が しよっちゅう あったからね。(A ああ)

ヒトバンズー ヨスン アッタ。オレ ホンデモ フット トゴサ
一晚中 余震[が]あった。俺[は]それでも ふっと 床へ

へーッテ、ネムリワ セネガッタゲドモ トゴサ
入って、眠りは しなかつたけれども 床へ

ヘッテイダнда。スク° ニ デデアサグノニ。キタマンマネー。
入っていたんだ。すぐに 出歩くのに。 [服を]着たままね。

ウーン。ダガラ ウジノヒトカ° ローソグ ツケナカ° ラ、マー ネー
うん。 だから うちの人が 蠟燭[を] 点けながら、 まあ ねえ

ココラヘン ミデ ガンバッテイダндаナー。(A ウーン)
ここら辺[を]見て 頑張ってたんだな。(A うん)

ホーステ ツナミカ° ワガンネガッタндаナ。
そうして 津波が 分かんなかったんだな。

ソーユー ジョータイダガラ。(A ウーン) テレビモネー。
そういう 状態だから。(A うーん) テレビもない。

016A : アノドギデ ツナミ クルナンテ アンマリ サワカ° レテ
あの時って 津波[が]来るなんて あんまり ×××××

サワカ° ッテネーダモンネ。
騒がれてないんだもんね。

017B : オラホーモ アーユー ホ ジョーホーモ ナヌモネーガラ。(A ウーン)
俺のところも ああいう × 情報も 何も無いから (A うーん)

ホステ ツギノヒノ アサ ミダッケ、タンボ ミダッケ
そうして 次の日の 朝 見たら、 田んぼ[を]見たら

マッシロダンベア。(A ウン)

真っ白でしょう。(A うん)

マー スオミズ キテンダ。

まあ 潮水 来てるんだ。

ホーシタツケ コンドワ ナーヌ、ラズオ キーダヒトノ

そうしたら 今度は 何、 ラジオ[を] 聞いた人の

ハナシ キクト、ドコソレカ° ユ ユリアケ° カ°、ドーノ コーノ

話[を] 聞くと、何処どこが × 閑上が、 どうのこうの

(A ウンウン) キタカ° マカ°、ドノクリー ヤラッタノ、 ネー。

(A うんうん) 北釜が、 どのくらい やられた[だ]の、ねえ。

ダンダンド ワガッテキタンダゲンドモ。オレモ アブナグ、

段々と 分かってきたんだけど。俺も 危なく、

モー イズツツカン エレバ、アノ アラハマアダリノ (A ウン)

もう 一時間 居れば、あの 荒浜辺りの (A うん)

ヒー ナカ° サッタドゴヌ、アズグ トールヨーナツツアガン、ネー。

家[が] 流されてたところに、あそこ[を]通ることになってたから、ね。

マー、ニジューサンネンノ、サンカ° ズジューイズヌズノ、ジョータイワ、

まあ、二十三年の、 三月十一日の、 状態は、

ソナユー ジョータイデネー。スカス アレガラヤー、ナンーカイモ、

そのような 状態だね。 しかし あれからさ、 何回も、

ツナミカ°、ンデネ、 ツナミワ コナイゲンドモ (A ヨスン)

津波が、 じゃない、津波は 来ないけれども (A 余震)

ヨスンカ° ネー。

余震がね。

018A : ウン、ウン。デモ コーユ一、コーユ一 オッキー ズスント
うん、うん。 でも こういう、こういう 大きな 地震と

ツナミ、 ダデーマサムネーズダイニモ アッタダドネ。
津波[は]、伊達政宗[の]時代にも あったんだってね。

019B : アッタダ。 (A ウン) ウン。
あったんだよ。 (A うん) うん。

020A : シダガラ ナンビヤグネンニ イツカイ。
だから 何百年に 一回。

021B : ウン。シダネ。
うん。そうだね。

022A : コノヘン ソ ソノアダリ、コノヘン ウミダッタダズガラ。 (B ウン)
この辺 × その辺り、 この辺 海だったっていうから。 (B うん)

ウン。ダガラ ソゴニ ホラ、メデシマドガ カサスマツツードゴ
うん。だから そこに ほら、愛島とか 笠島っていうところ[が]

アンノ、チメー。 ホゴ シマダッタダッテ。
あるの、地名[で]。そこ[は]島だったんだって。

宮城県名取市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕ヒエ

話者Bは家を「ヒエ（ヒー）」と発音しているが、話者Aには見られない。60代の名取出身者に聞いたところ「（ただの）息漏れ」と判断された。ただし、これ以降も安定してこの形が出てくると、県南ではヤ行の音が摩擦化しジャ行になることも考え合わせると、摩擦化したものが無声化しているとも考えられ（イエ（イエ）>ジエ（ジェ）>ヒエ（ヒエ））、方言的特徴の現れである可能性がある。

〔2〕フルマンダヨネ

直訳としては「振り回るんだよね」か。

〔3〕イガンネーヤロドオモツテ

「イガンネーダロ（一）ドオモツテ」と言おうとしたものと思われる。

〔4〕ズデンシャバイク

自転車バイク。原動機付き自転車のことを指していると思われる。

〔5〕カウツツァ

川内沢川。名取市を流れる。

〔6〕オライノイエ、オライノズッカ

オライが「我が家」であり、「家」の部分が重複するように思われるが、特にここでは家屋を指すため、イエ（ズッカ）をつけて限定している。

宮城県名取市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
王 卓（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1 年）
町田 隆弘（東北大学文学部 3 年）
楡引祐希子（追手門学院大学講師）

文字化担当者 魏 ふく子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程 3 年）
町田 隆弘（東北大学文学部 3 年）
田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

被災地方言会話集

－ 宮城県名取市 －

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県名取市

収録日時 2013（平成25）年2月2日

収録場所 宮城県名取市愛島小豆島（話者B宅）

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	男	1947（昭和22）年	（収録時66歳）	[Bの同級生]
B	女	1947（昭和22）年	（収録時65歳）	[Aの同級生]

話者出身地

A	名取市増田（マスダ）
B	名取市増田（マスダ）

【場面設定会話】

話し手

A 男 1947 (昭和 22) 年 (収録時 66 歳)

B 女 1947 (昭和 22) 年 (収録時 65 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨー。

おはよう。

002B : オハヨーゴザリス。

おはようございます。

003A : ズイブン ハエーゴダ。ホンナニ イソイデ ドゴサ イグノ。

随分 早いこと。そんなに 急いで どこに 行くの？

004B : ホダネー、 チョット ビョーインニ インカド オモッテッサ。

そうだねえ、ちょっと 病院に 行こうかと 思っさ。

005A : ンー、 ナヌカ ドコ グアイ ワリーノ。

うーん、何か どこ 具合 悪いの？

006B : ナンダガ、カゼデモ ヒーダンダガ、ハヤメニ ミデモラウッチャ。

なんだか、風邪でも 引いたのか、 早めに 診てもらおうよ。

007A : ウン、ホーガ。ンデ ハヤグ イッテコイ。アレ、コマネー ウジニサ。

うん、そうか。それじゃあ 早く 行ってこい。あれ、混まない うちにさ。

008B : ハーイ。

はい。

009A : ハーイ、キーツケデー。

はい、気をつけて。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : コンニズワー。

こんにちは。

002B : コンニチワー。

こんにちは。

003A : ヤーヤ、 スバラグブリダナヤ。

いやいや、しばらくぶりだねえ。

004B : ホントダネー。

本当だねえ。

005A : ウーン。 ナーnda、 アイカワラズ イソイデ ドゴサ イグノ。

うん。 なんだ、 相変わらず 急いで どこに 行くの？

006B : イーヤイヤ、 オジャッコ ノンデキタノツシヤ。

いやいや、 お茶 飲んできたんです。

007A : ア、 イヤヤ、 ホイズワ イガッタナヤ。 ウン。 ハイ、 ンデ コンド

あ、 いやいや、 そいつは よかったねえ。 うん。 はい、 それじゃあ 今度[は]

ウツァ イッテ、 シンマツカラノ スコ° ド スサインヨ。

うちに 行って、 昼からの 仕事 しなさいよ。

008B : ンダワネー、 モハヤ シンマダワネー。 (A ンー) ハンニジ スコ° スノ

そうだわねえ、 もう 昼だわねえ。 (A うん) 半日 過ごすの[は]

ジョサネーゴダネー。 ホンジャ マズ。

造作ないことだねえ。 それじゃあ まあ。

009A : アーイ。 ホデ マツ。

はい。 それじゃあ まあ。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オバンナリシター。

こんばんは。

002B : オバンデスー。

こんばんは。

003A : ヤー、ズイブン シー ミジカグ ナッテキタナヤ。

いやあ、随分 日[が]短く なってきたねえ。

004B : ホントダネー。(A シー) コダ ジガンニ ナニッシャヤ。

本当だねえ。(A うん) こんな 時間に 何ですか。

005A : アノネー、イマツカラ ノミカイ アンノ。

あのねえ、今から 飲み会 あるの。

006B : アー、イーゴダ。

ああ、いいこと。

007A : シー ハヤグ クラグナツカラ ハガイク° ナヤ。

ん二、早く 暗くなるから [酒が]進むなあ。

008B : {笑} ホントダネ。マー、ユックリ ノンデ コライン。

{笑} 本当だね。 まあ、ゆっくり 飲んで いらっしゃい。

009A : ハーイ。

はい。

010B : ホンデ マズ オミヨーニジ。

それじゃあ まあ また明日。

011A : ハーイ、イッテクツカンネー。

はい、行ってくるからね。

〈ねぎらい〉

(4) Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : ズイブン カセク° ネー。

随分 働くね。

002A : ンダネー。スコス タマッテスマッタガラサー、ヤンネド

そうだね。少し 溜まってしまったからさ、 やらないと

ダメナンダッチャヤ。アド、スコス コス イデゲントモ ガンバッテ
駄目なんだよ。 あと、少し 腰 痛いけれども 頑張っ

ヤッテンダ。

やってるんだ。

003B : アンマリ ムリスンスナヨー。

あんまり 無理しなさるなよ。

004A : ワガッター、(B ウン) アイ。(B ハイ) ワガリマシタ、アリカ° ドネー。

わかった、(B うん) はい。(B はい) わかりました、ありがとうね。

005B : ハイ、カラダニ キーデ ヤッセヨー。

はい、体に 聞いて やりなさいよ。

006A : ハイヨ、アリカ° ド。

はいよ、ありがとう。

〈勧め〉

(5) Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001B : ズイブン イッショーケンメーダゴダー。

随分 一生懸命なこと。

ヤスミモゴクノウチ [1] ッテユーガラ、オジャッコデモ ノンデ

「休みもゴクのうち」 って言うから、お茶でも 飲んで

イップグ スサインヤ。
一服 しなさいよ。

002A : ワルイナー。ンデサー、ウーン、チョード イーズガンダガラ、
悪いなあ。 じゃあさ、うん、 ちょうど いい時間だから、

サググ [2] イダダッカー。ドレドレ。
遠慮なく いただこうか。どれどれ。

003B : ハイ ドーズ。
はい どうぞ。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンニズワー、イダスカー。
こんにちは、 いますか。

002B : ハーイ、イシタヨー。メズラシーゴダー。
はい、いますよ。珍しいこと。

003A : ウーン、チョットサー、イヤ、スク° ニ ソーダンシテーゴド アンダー。
うん、 ちよつとさ、 いや、すぐに 相談したいこと あるんだ。

004B : アラ、ソーナノ。(A ウーン) ドーズ アカ° ライン。 アカ° ッサイン。
あら、そうなの。(A うん) どうぞ お上がりなさい。お上がりなさい。

005A : ウン。ンデー、サググ [2] アカ° ッド。
うん。じゃあ、遠慮なく 上がるぞ。

006B : アーイ。
はい。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : コンニズワー。

こんにちは。

002B : ハーイ。

はい。

003A : シャベル ツカワネガッタラ カシテケサインヤ。

シャベル 使わなかったら 貸してくださいよ。

004B : イーヨー。アナデモ ホンノスカ。

いいよ。 穴でも 掘るんですか。

005A : ンーダー。イマカラ ガンバッテ ヤンナクテネンダヤー。

そうだ。 今から 頑張って やらなきゃならないんだよ。

ホシタツケ オラエノ シツ チョット フツチャゲッタ~~ン~~ダンヤ~~ー~~。

そしたら うちの ×× ちょっと 壊れてたんだよ。

006B : アー、ソースカ。 オラエノデ インダッタラ ツカワイン。

ああ、そうですか。うちので いいんだったら 使いなさい。

007A : アー、イガス イガス。 ンデ、 カリデインカンネー。

ああ、いいです いいです。じゃあ、借りていくからね。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : コンニズワー。

こんにちは。

002B : ハーイ。

はい。

003A : シヤベル カリダヤズサ、ドーモ アリカ° ドネー。
シヤベル 借りたやつさ、どうも ありがとうね。

004B : ハーイ。シコ° ド ハガイッタスカー。
はい。仕事 はかどりましたか。

005A : ンー、オガケ° サンデネ。
うん、おかげさんでね。

006B : アー、ホンデワ イガッタネー。
ああ、それでは よかったね。

007A : ウン。
うん。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : ジズワサ、チョコット コワステスマッタダヤ。
実はさ、 ちよつと 壊してしまったんだよ。

チョコッ チョックラ ミデケロ。
××× ちよつと 見てくれ。

002B : ナニナニ。アヤヤヤ、イヤ、ツシャネツチャー。
なになに。あららら、いや、仕方がないよ。

オラエデモ ズイブン ツカッタガラ、キーツカウゴド ネースト。
うちでも 随分 使ったから、 気を遣うこと ないですよ。

イーガラ (A ホーガ) イーガラ。
いいから (A そうか) いいから。

003A : ホーガー。ンー ンデ ワリーナー。ドーモ アリカ° ドー。
そうか。 うん じゃあ 悪いな。 どうも ありがとう。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : ジズワサー、チョーット、カデーイシサ ブツカッテ、
実はさ、 ちょっと、 硬い石に ぶつかって、

サジッチョ コワステスマッタヤ。ミデケロヤ。
先っちょ 壊してしまったよ。 見てくれよ。

002B : ナンダベー、ムデダゴダ。カッタバリナノニ。 オラエダッテ
なんだ、 乱暴なこと。買ったばかりなのに。うちだって

ホダニ ツカッテネー نداヨ。マヤッテケサイン。
そんなに 使ってないんだよ。 弁償してください。

003A : ンダナー、 コンデワ ツカエネーワナー。ンデー、マヤウガラ。
そうだなあ、これでは 使えないよなあ。 じゃあ、弁償するから。

チョット アシタマデ マッテケロナヤ。
ちょっと 明日まで 待ってくれよな。

004B : イガッサー。
いいですよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを朝市に誘う際のやりとり。

001A : イヤヤ、 スバラグブリダネヤ。
いやいや、しばらくぶりだねえ。

002B : ホントネー。
本当ね。

003A : ウン。イマサー、ホノ、エアリ [3] ノ チューシャジョーデネー、
うん。今さ、 その、エアリ の 駐車場でね、

ユリアケ° ノ アサイズ ヤッテンダド。
閑上の 朝市 やってるんだと。

004B : アラー。

あら。

005A : チョードイガッタ、イッショニ イガネガ。

ちょうどよかった、一緒に 行かないか？

006B : アイヤー、イギデгентモッサー、イマカラ オラエノ トーチャンドゴ

あら、 行きたいけれどもさ、 今から うちの 父ちゃんを

イシャサ ツレデイガナクテネーガラ、 ワルイгент コンド イグガラー、
医者に 連れていかなきゃならないから、悪いけど 今度 行くから、

マダ サソッテケサイン。

また 誘ってください。

007A : ホーガー。トーチャンノホー ダイズダガンナ。ンデ ダイズニ スロヨ。

そうか。 父ちゃんのほう[が]大事だからな。 じゃあ 大事に しろよ。

008B : ゴーメンネー。

ごめんね。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子がいい場合。

001A : コンニズワー。

こんにちは。。

002B : ハーイ。

はい。

003A : ナーンダー、アンバー ワリッテ キーデサー、

なんだ、 具合[が] 悪いって 聞いてさ、

004B : ウーン。

うん。

名取市 場面設定会話

005A : キテミダダゲントモ、オー、カオイロ、イーヨーダナー。ドーナノ。
来てみたんだけども、おお、顔色、 いいようだなあ。どうなの。

006B : ウーン、クスリ キーダガシテ、コノコ° ロ チョーシ インダネー。
うん、 薬[が] 効いてか、 この頃 調子[が] いいんだね。

オカケ° サンデ。
おかげさんで。

007A : アー、ホンデ イガッタナー。トスナダガラナ、ムリスナヨ。
ああ、それじゃあ よかったな。 歳なんだからな、 無理するなよ。

008B : ハーイハイ。
はいはい。

(11-2) Bの調子が悪い場合。

001A : コンニズワー。
こんにちは。

002B : ハーイ。
はい。

003A : ナンダガ チョーシ ワリクテ ネットタッテ チーダダゲントモ、
なんだか 調子[が] 悪くて 寝てたって 聞いたんだけども、

ナンダ、ヤッパリ スケ° ネ [4] カオ シテ。ドーナンダー。
なんだ、やっぱり すぐれない 顔[を] して。どうなんだ。

004B : ホントナノー。オギランネクテサー、ホントデネンデガス、 マイニジ。
本当なの。 起きられなくてさ、 本調子じゃないんです、毎日。

005A : ンーガ、アンマリ ガンバツカラヤ。ンデ、 スコス ユックリ ヤスンデ。
そうか、あんまり 頑張るからだよ。じゃあ、少し ゆっくり 休んで。

(B インダネー) ンー、トスナンダガラ。

(B そうだねえ) うん、歳なんだから。

006B : ハイハイ。(A ハイ) スコシ ヤスムガラネー。

はいはい。(A はい) 少し 休むからね。

007A : インダネ、 オダイジニネ。

そうだね、お大事にね。

008B : ハーイ、(A ハイ) アリカ° トー。

はい、(A はい) ありがとう。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : アノッサー、 ナーndaガ、カゼバリ ヒーデ ホントデネーガラ、
あのさ、 なんだか、 風邪ばかり 引いて 本調子じゃないから、

イエノ マワリノ クサモ ソノトーリ、
家の 周りの 草も そのとおり、

ウジンナガモ カダズガナクテ コマッテダノッサー。
うちの中も 片付かなくて 困ってたのさ。

002A : ナーnda、 ソンナニ グアイ ワリーノガ。ドレー、 マッテロ。
なんだ、 そんなに 具合 悪いのか。 どれ、 待ってろ。

ナーnda ホレアー、 ハダゲノ クサモ マダ トレネデンダッチャー。
なんだ ほら、 畑の 草も まだ 取れないでいるんじゃないか。

ヨシ、 ンデー、 オレ イマ ヤッテダ スコ° ド オワッタラ
よし、 じゃあ、 俺 今 やってた 仕事 終わったら

コーウンチデ ウナッテ [5] ヤッカラ。
耕運機で 掘り起こして やるから。

003B : アイイヤ、アリガデゴダ。 タノムッチャワー。
いやいや、 ありがたいこと。頼むわ。

004A : ン。 ンデー、アド クッカナー。
うん。じゃあ、後[で] 来るからな。

005B : ハーイ。
はい。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をAが間違っ捨てようとしているときに、Bがそれを
制止してどのようにいうか。

001B : アー、オラエノ オッピサン [6] ノ シャシンダガラ ナケ° ネデ ケサイン。
あー、うちの 曾祖母 の 写真だから 捨てないで ください。

ソイズ ナケ° ナケ° ダドナツタラ バゲデ デラレツチャワー。
それ ×× 捨てたとなったら 化けて 出られるわ。

イヤイヤ、ハヤグ キーツイデ イガッタ。
いやいや、早く 気がついて よかった。

002A : アー、オレモヤ イガッタナ、ハヤグ オシエデモラッテ。
ああ、俺もさ よかったな、早く 教えてもらって。

シーナニヤ バゲデ デラレンダツタラ、 オレ ウラマレンダツタナヤー。
そんなに 化けて 出られるんだったら、俺 怨まれるんだったなあ。

イガッタ。ホレ、コイズ。ホーンデ コンナドゴサ オガネデ、
よかった。ほら、これ。 それじゃあ こんなところに 置かないで、

チャント ス スマッテオゲー。
ちゃんと × しまっておけ。

003B : ハイハイ。アド、ソゴラサ アンノ、ミナ ナケ° デモイーガラー。
はいはい。あと、そこらに あるの、みんな 捨ててもいいから。

名取市 場面設定会話

オネカ° イスッカラ。

お願いするから。

004A : ホガー、ホンデ ホイズ ミナ モッテッテ
 そうか、それじゃあ これ みんな 持って行って

アド ショブンスッカンナー。

あと 処分するからな。

005B : ハーイ。

はい。

宮城県名取市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕ヤスミモゴクノウチ

話者によれば「ゴク」は「穀」であり、栄養というような意味だという。「休みを取るのも（飯を食べるのと同じように）栄養のうちだ」という意味。

〔2〕サググ

さくい（形容詞）の連用形か。話者によれば、「遠慮なく、気さくに」という意味。

〔3〕エアリ

名取市にある大型ショッピングセンター「イオンモール名取」の旧名。

〔4〕スケ°ネ

「素気無い」か。「〈スケ°ネ〉カオ」は「〈(気分が) すぐれない、冴えない、調子が悪そうな〉顔」という意味。

〔5〕ウナッテ

うなう【耨う】。辞書的には「耕す、畝を作る」という意味だが、ここでは「掘り起こす」という意味。

〔6〕オッピサン

曾祖父母を指すが、ここでは曾祖母のこと。

宮城県名取市方言会話集（場面設定会話）担当者

- 収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
津田 智史（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
- 文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

【 宮城県名取市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な名取市方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

⇒これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/ /t/が有声子音/g/ /d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

今回の会話集からも、カ行音については、「オハガ」（お墓）「イギデ」（行きたい）「ローソグ」（蠟燭）「ハダゲ」（畑）「ホゴデ」（そこで）など、タ行音については「カリダ」（借りた）「マイニジ」（毎日）「ジズワ」（実は）「ミデ」（見て）「アド」（あと）など、多くの例が聞かれます。ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

⇒単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。今回の会話集の中でも「キタカ°マ」(北釜)「スキ°デ」(過ぎて)「スク°」(すぐ)「ユリアケ°」(閑上)「スコ°ド」(仕事)などが聞かれました(ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました)。

同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します(ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します)。

名取市の会話集からは、「ヒンドガッタ(ひどかった)」「チョーンド(丁度)」「ハンズメデ(初めて)」「ランズオ(ラジオ)」「スンバラグ(しばらく)」「アンブラカン(油缶)」などが聞かれました。ただし、これに関してはすべてのダ・ザ・バ行音で聞かれたわけではなく、またその程度も経度なものがあります。この会話集では、はっきりと鼻音が聞こえるもののみ上付きのンを付しています。

例) ガ行：上げる	→	アケ°ル
ダ行：肌	→	ハンダ
ザ行：風	→	カンゼ
バ行：首	→	クンビ

▼キ(キャ行)の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご(硬口蓋)に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械(きかい)	→	チカイ
救急車(きゅうきゅうしゃ)	→	チューチューシャ
今日(きょう)	→	チョー

名取市においてもこの現象は見られます。今回の会話集には、「チーダ」(聞いた)や、チが有声化してジとなっている「サジッチョ」(先っちょ)などが聞かれました。ただし、そこまで極端に口蓋化が起こっているのはさほどありませんでした。キかチか迷うものや、共通語と同じくキであるものも多くあります。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞今回の会話集からは「ヒトバンズー」（一晩中）や「クンズーネン」（90年）のようにジュが「ズ」と発音されている例が聞かれました。また、ジュと表記したものでも、共通語よりはズに近く発音されています。この直音化に中舌化（後述）も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。また、語中のタ行は有声化するわけですから、チ・ツ・チュが「ズ」となることもあります。そのような例としては、「イズズハン」（一時半）、「サンカ°ズ」（三月）などの例が聞かれました。

【母音】

▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息（いき）、駅（えき） → 両方ともエギ
鯉（こい）、声（こえ） → 両方ともコエ

名取市の会話集でも「エダ」（居た）、「エク°」（行く）などが聞かれました。ただし、完全にエになっているものは少なく、イとエの間のような音や、共通語のイと同じ音も多く聞かれました。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、名取市の会話集では、特にニとヌは相当接近しているため、「ナヌカ」（何か）、「ムスコヌ」（息子に）などと表記しているところもあります。シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツズ

今回の会話集からも「スンペー」(心配)「ズスン」(地震)「コッツ」(こっち)「サンズ」(三時)など、多くの例が聞かれますが、すべてが中舌化しているわけではなく、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、というものも多くあります。また、共通語とあまり変わらない発音が聞かれることもあります。

▼その他、以下のような特徴もあります。

・ヒの音がシに近い音となる。

「シ」(日)、「シト」(人)、「シコージョー」(飛行場)などが名取の会話集からは聞かれました。

¶ アクセント

名取市はアクセントの型がない無型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています(=型がある)、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない(=型がない)ため、区別されません。

共通語話者がこの無型アクセントの発音の地域のことばを聞くと、文が平らでのっぺりしているとか、区切れがわからず意味が取りにくいとの印象を受けるようです。アクセントの型がないためか、同じ無型アクセント地域の福島県や茨城県などに似た独特の音調が聞かれます。

¶ 文法

【格助詞】

▼「が」「を」の不使用

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

名取でも「ツナミ クル」(津波が来る)、「ハナシ キクト」(話を聞くと)などのように、助詞が見つからないものが多いです。

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

俺ドゴ連れて行ってくれ (俺を連れて行ってくれ)

今回の会話集では、「オラエノ トーチャンドゴ イシャサ ツレデイガナクテネーガラ」(うちの父ちゃんを医者に連れていかなきゃならないから)という「を」相当の「ドゴ」の例が聞かれました。

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります(ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) 東京サ行く

おれサ貸せ

見サ行く

名取市の会話集からは、「ソドサ デロ」(外へ出ろ)、「クルマサ ノッテロ」(車に乗ってろ)など多くの「サ」が聞かれます。また、若年層に広まっている存在の場所を表す「サ」も見られましたが(「ソゴラサ アンノ、ミナ ナケ° デモイーガラー」(そこらにあるの、みんな捨ててもいいから))、一方で「イエニ イダノ」(家に居たの)のように「ニ」で現れるものもありました。

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」（推量）や「～しよう」（意志）に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう。)	<推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう。)	<意志>
お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)	<確認>
みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう。)	<勧誘>

名取市の会話集では「マッシロダンベア」（真っ白でしょう）という<確認>の例が聞かれました。

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今、) 学校に <u>いる</u>	→	学校に <u>イタ</u>
(私は今、) 手紙を <u>書いてる</u>	→	手紙を <u>カイテタ</u>

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる?
②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

名取市の会話集からも、この「タ」「タッタ」が聞かれます。現在家にいるというときに「インタ」（います）が使われ、過去のある時点で家にいるというときには「ヒエニ イダッタノ」（家にいたの？）が使われています。

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない（か）」「よね」などのような意味を持ちます。

名取市の会話集でも多くの「チャ」が聞かれますが、「じゃない（か）」「よね」などの確認させる意味のほかにも、「ナンダガ、カゼデモ ヒーダダガ、ハヤメニ ミデモラウツチャ」（なんだか、風邪でも引いたのか、早めに診てもらうよ）のように「よ」に相当するような「チャ」も聞かれました。

★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件（共通語の「けれども」）は名取市では「ゲンド（モ）」「ゲント（モ）」が用いられる。順接既定条件（共通語の「から」）は「カラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「（デ）ガス」「（デ）ゴザリス」「イン」「サイン」などが用いられる。

例）ス：アナデモ ホンノスカ（穴でも掘るんですか）

（デ）ガス：ホントデネンデガス（本調子じゃないんです）

（デ）ゴザリス：オハヨーゴザリス（おはようございます）

イン：ノンデ コライン（飲んでいらっしやい）

サイン：アカ° ッサイン（お上がりなさい）

【参考文献】

加藤正信（1969）「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信（1992）「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

- 佐藤亨（1982）「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
- 竹田晃子（2011）「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
- 東北大学方言研究センター（2012）『方言を救う、方言で救う－3.11被災地からの提言－』ひつじ書房

いわぬまし
岩沼市



竹駒神社初午大祭
(写真提供：宮城県観光課)



宮城県岩沼市概要

①岩沼市の概観

岩沼市は、仙台平野の中央やや南に位置し、市の南辺には阿武隈川が流れている。奥州街道と陸前浜街道の分岐点の宿場として栄えた町であり、日本三大稲荷の一つとされる竹駒神社の門前町でもある。現在も、東北本線と常磐線、国道4号・6号の合流点であり、さらに東北地方の空の玄関である仙台空港が存在し、交通の要衝としての地位は変わっていない。

岩沼市は、水稻農業の他、種々の野菜も栽培する、仙台市の近郊農業地帯としての位置を占めている。また、交通の便や用水の利もあるため、「臨空工業地帯」の一角としての立地的優位性から大小の企業が進出し、工業都市の性格も加わった商工業都市として発展しつつある。

②収録地点について

収録地点である岩沼市里の杜は市の中央部に位置している。

③東日本大震災による岩沼市の被害

3月11日、震度6弱の強い地震が岩沼市を襲った。それに続いて巨大津波が岩沼市の平野部を襲い、水田を進み、内陸5kmの岩沼インターチェンジの先、市役所や竹駒神社の1km先手前まで進んだ。また、阿武隈川を逆流した津波は、さらに奥まで遡上した。このため、岩沼市の沿岸部は壊滅的被害を被り、死者は182人に至った。

表1 岩沼市の人的・住宅被害

岩沼市人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
44,187人	182人	1人	0.41%	723棟	1,590棟

表2 岩沼市の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	8,051人	18.2%
世帯	2,337世帯	15.1%

※ 本文の内容は、衛藤(2012) P.207~212に依拠する部分が大きい。特に、表1・表2は衛藤(2012)のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達(2012)『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
岩沼市ホームページ (<http://www.city.iwanuma.miyagi.jp/>) (2013/02/23 アクセス)

被災地方言会話集

— 宮城県岩沼市 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県岩沼市

収録日時 2012（平成24）年6月30日

収録場所 宮城県岩沼市里の杜 里の杜西住宅（話者A・B宅）

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1935（昭和10）年	（収録時77歳）	[Bの夫]
B	女	1937（昭和12）年	（収録時75歳）	[Aの妻]
C	男	1972（昭和45）年	（収録時39歳）	[調査者1]
D	男	1979（昭和54）年	（収録時33歳）	[調査者2]
E	女	1979（昭和54）年	（収録時33歳）	[調査者3]
F	女	1987（昭和62）年	（収録時24歳）	[調査者4]
G	男	1992（平成4）年	（収録時20歳）	[調査者5]

話者出身地

A 岩沼市寺島（テラシマ）
B 岩沼市早岐（ハヤマタ）

【震災のときのこと】

話し手 [1]

A	男	1935 (昭和 10) 年	(収録時 77 歳)	
B	女	1937 (昭和 12) 年	(収録時 75 歳)	
C	男	1972 (昭和 45) 年	(収録時 39 歳)	[調査者 1]
D	男	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 2]
E	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者 3]
F	女	1987 (昭和 62) 年	(収録時 24 歳)	[調査者 4]
G	男	1992 (平成 4) 年	(収録時 20 歳)	[調査者 5]

001A : ツナミワー アントギワ ホントニ モーチョットデ ナガサレットゴ。
津波は あの時は 本当に もうちょっとで 流されるところ [だった]。

002B : ナガサレットゴ。(D ア一、ドノチデ) アレ ヨーチエン ムカエサ
流されるところ [だった]。(D あ一、××××) あれ 幼稚園の 迎えが

クルカラ。(D ウーン) サンジニ クルンダネ。(C ハイ) サンジ チョード。
来るから。(D うーん) 三時に 来るんだね。(C はい) 三時 ちょうど。

ホーイデ マッデタノ、 モントゴデ。
それで 待っていたの、 門 [の] ところで。

003E : ヨーチエンノ (B ウーン) モンノトコロデ。
幼稚園の (B うーん) 門のところで。

(B バス クンノマッテ) ハイハイハイハイ。
(B バス [が] 来るの [を] 待つて) はいはいはいはい。

004A : ソゴノ トナリノ ヨーチエンダガラサ。
その 隣の 幼稚園だからさ。

005B : ソー X ヨーチエン。
そう X 幼稚園。

006E : ア アリマシタネ。 アノー ウン (B ン ソー)
あ ありましたね。 あのー うん (B うん そー)

007A : イマ ココデ クラスヨーニナツテ ヨーチエン トナリニ ナッタケド、
今 ここで 暮らすようになって 幼稚園が 隣に なったけど、

(D ハイ) (E ハイ チカイトコロニ アリマスヨネ)

(D はい) (E はい 近いところに ありますよね)

ソコデ アズカッタダノネ (E ハイ) (D ハイ) デ アサワ
そこで 預かっていたのね (E はい) (D はい) それで 朝は

ホラ オカーサンノ ウジガラ バスデ ココニ ツレテキタノ。
ほら お母さんの 家から バスで ここに 連れて来たの。

(E ハイ ハイ) (D アー) カエリワ ココデー (E ハイ)

(E はい はい) (D あー) 帰りは ここで (E はい)

ウチノホノ アノ ウミノ ホーニ (D ハイ) (E ハイ)
うちの方の あの 海の 方に (D はい) (E はい)

オグッテモラッテダノ。(C ハイ) カエリワネ。(D ハイ) ダカラ
送ってもらっていたの。(C はい) 帰りはね。(D はい) だから

ウゲドル ホーワ オレデ (E ハイ) アサ ダシテヤル ホーワ
[孫を] 受け取る 方は 俺で (E はい) 朝 出してやる 方は

オカーサン。(E ハイ) デー アド チョーナン
お母さん。(E はい) それで 後 長男

サンジー チョットマエカナ (D ソーデスヨネ ハイ) ネ。
3時 ちょっと前かな (D そうですね はい) ね。

(E ソーデスネー) サンジー チョットマエゴロ。 カエッテ クンノガネ

(E そうですね) 3時 ちょっと前ごろ。 帰って 来るのがね

岩沼市 自由会話

サンジジュップンゴロナンデスヨ、 イツモ。(D ハイ) (E アー)
3時10分頃なんですよ、 いつも。(D はい) (E あー)

バスー オクッテクンノガ。 デ オレモ ショーガネーカラネ、
バス [が] 送って来るのが。 それで 俺も しょうがないからね、

トシヨリダカラ。 ホラ ナンニモ ネーガラ。 アー ソロソロ
年よりだから。 ほら 何にも [やること] 無いから。 ああ そろそろ

マゴ クンノカナート オモッテ ドーロノ ホー ナガメデダノ。
孫 [が] 来るのかなーと 思って 道路の 方 [を] 眺めていたの。

ソーシタラ アノ ジシンデショー。 イヤー ドーショーモ
そうしたら あの 地震でしょう。 いやあ どうしようも

ネガッタダヨネ。(D ソーデスヨネ) マワリチョット
なかったんだよね。(D そうですよね) まわり [が] ちよっと

タンボナモンダッタカラサ。(E ウン) (F ウン)
田んぼなものだったからさ。(E うん) (F うん)

008D : ア ソトデモ ヤッパリ (B ソーダヨ) ユレオ カンジマシタカ。
あ 外でも やっぱり (B そうだよ) 揺れを 感じましたか。

009B : ハダケ スズンダダヨ。(C アー ソーナンデスカ)
畑 [が] 沈んだんだよ。(C あー そうなんですか)

010A : ア メニミエテ。
あ 目に見えて。

011B : ソーダヨ。 ウミノ ソバダカラ。 ウミノ ソバダカラ。 ハダケ
そうだよ。 海の 側だから。 海の 側だから。 畑 [が]

スズンダノネ。 ウン デモネ エチジョーカシテ スナト ミズ クロイノ
沈んだのね。 うん でもね 液状化して 砂と 水 黒いの

岩沼市 自由会話

フチアガッタンダ クイナクバ ハダケガラ。ネ。(D エー)
吹き上がったんだ _____ 畑から。ね。(D えー)

ホントチ バスキタンダモン。ヨーチエンノ バス。ハー ヤー
その時に バス [が] 来たんだもの。幼稚園の バス。はー いや

ヨロコンデ コー アスフミシテサ。ホリヤキタ ホリヤキタツテサ。
喜んで こう 足踏み [を] してさ。それ来た それ来たってさ。

クラ デンチ キエタカラ、クルマノネ、ラジオカケテ、
×× 電気 [が] 消えたから、車のね、ラジオ [を] かけて、

オーツナミ キマス ツツテ。(D ハー ダー) モー ホーデ アー
大津波 [が] 来ます と言って。(D はー ××) もう それで ××

バス コナカッタラ ナガサレタノサ。フタリデ マッテルウジワナ。
バス [が] 来なかったら 流されたのさ。二人で 待っている内はな。

バス キタカラ ヨカッタンダツチャ、ヨーチエンノ バスネ。アノ
バス [が] 来たから 良かったんだよ、幼稚園の バスね。あの

バスサ ノットギ ジシンナッタンダツテ。 ウンウン (D アー)
バスに 乗る時 地震 [に] になったんだって。 うんうん (D あー)

ノッテルトキニ オキタ) コー イワヌマデネ。ホノママ キダガラ
乗っている時に 起きた) コー 岩沼でね。そのまま 来たから

イガッタノ。コネゴッタラ コネー コネーデ マッテデ
良かったの。来なかったら 来ない 来ないといって 待っていて

ナガサレタノワー。ウジート イッシヨヌワー。(E アー ソッカー) ンデ
流されたのよ。家と 一緒によ。(E あー そうかー) それで

マゴ キタガラ ホラ ヨカッタンダラツテ。コンドネ スグ
孫 [が] 来たから // 良かった////。今度ね すぐ [に]

キタンサ。(E スグ)

来たのさ。(E すぐ)

012A : アレ ンダカラ イマ カンガエレバ イロイロ ホーホー アッテネ。
あれ [は] だから 今 考えれば 色々 方法 [が] あつてね。

(D ア一) ナンモ マジカラ クルンダカラ マジノ ホーマデ

(D あ一) 何も 町から 来るのだから 町の 方まで

ニケ° デレバ イーノネ。(C ウンウンウンウン) (D ウーン)

逃げてれば 良いのね。(C うんうんうんうん) (D うーん)

013B : イジグチデ マッテダガラ ホレ。

[家の] 入り口で 待っていたから ほら。

014D : アー ムコーニ。 ソーデスネ。

ああ 向こうに。 そうですね。

015A : ウン (B ウン) ネ。 カンガエレバネ。 デモ ソントジワ ウジデ

うん (B うん) ね。 考えればね。 でも その時は 家で

クルモントスカ オモッテネーノネ。 ダカラ ウジデ

[孫が] 来るものとしか 思っていないのね。 だから 家で

マッテダワケ。 ンダカラ オレダジ ニケ° ダアト スグ

待っていたわけ。だから 俺達 [が] 逃げた後 すぐ

ツナミ チタカラ、ソンドジワ ミンナー モー ウズニ イダヒトダワ

津波 [が] 来たから、その時は みんな もう 家に いた人達は

ナクナッタンダベネ。

亡くなったんだろうね。

016D : アー ソーデスヨネ。(A ウン) イヤ ナンカ、 デモ ソノー、 マサカ

ああ そうですね。(A うん) いや なんか、 でも その一、 まさか

クルト オモワナカッタカラー。(B ウン) ソノ チョット イヤマー、
来ると 思わなかったから。(B うん) その ちょっと いやまー、

オチタモノ カタズケナキ chatteイウノガ、 ヤッパ (B シヨージキ)
落ちたもの 片づけなきやっていうのが、 やっぱ (B 正直)

ソーソー) ボクーモー ソー ソー オモッタンデ。

そーそー) 僕も そー そー 思ったので。

017B : ソーデシヨ一。 アー ウチナンテネ サギヨ一バ ド (D ウ一ン)
そーでしヨ一。 あー [私の] 家なんてね 作業場 × (D う一ん)

ガッタンガッタン ガッタンガッタンッテ ブツカッタンダヨ一。 ホンデモ
がったんがったん がったんがったんって ぶつかっただよ一。 それでも

ホレ ヨグ カワラモ オチナカッタモンネ。 イジマイモ オチナカッタ。
ほれ よく 瓦も 落ちなかったものね。 一枚も 落ちなかった。

018D : スゴカッタデスヨネ一。
すごかったですよねえ。

019A : デー ナントガ タスカッタ ツ一 ツ一 モンダカラ マ一 ナンニモ
それで 何とか 助かった という という ものだから まあ 何にも

ナグナッテモ シヨ一ガネ一カナー ナンテ。
無くなっても しょうがないかな一 なんて。

020B : エ イノジ シロツタンダケデ スグ ネクナッチャウノイ一ワ一。 [2]
× 命 拾ったのだけで すぐ 亡くなってしまう [より] いいよ。

021A : エ マ一 ホラ ジブンダゲデネ一ゴドモ アッテ (D ア一) マ一
× まあ ほら 自分だけで無いことも あって (D あ一) まあ

ハンブン シヨ一ガナイミダイナ キモジニ ナッチャッテサ マ一
半分 しょうがないみたいな 気持ちに なっちゃってさ まあ

オレダケジャ ネーカラ ショーガネーナー。 ナントカ イジデルウジニ、
俺だけじゃ ないから しょうがないな。 何とか 生きてる内に、

ダッテ コンナトコデ スンデイランネーガラ、 イジデルウジニ ナントカ
だって こんな所で 住んでられないから、 生きてる内に なんとか

シナキャ ダメダナートカ オモッテンダケドネ。 ウーン ホント アレ
しなきゃ 駄目だなあとか 思っているんだけどね。 うーん 本当 [に] あれ

ツナミツツーノ ケイケンスナキャ ワカンネーダ。 アットユーマダネ。
津波っていうの [は] 経験しなければ 分からないんだ。 あっという間だね。

(E アー) (F ウーン) ウン。 (C ソレワ)

(E ああ) (F ううん) うん。 (C それは)

022 B : ビックリスルヨ、 ホンット。

びっくりするよ、 本当 [に] 。

023 D : ドノ (F ウーン) モー ソレコソー ココヨリ タカイ グライニ
どの (F うーん) もう それこそ ここより 高い 位に

キテルンデスカ。

来ているんですか。

024 A : イヤー アノネー オレダズワ ズブンノコト ミエネガッタノ。

いやー あのねー 俺達は 自分のこと [が] 見えなかったの。

(B ヌケ° タッチャバ) [3] マゴト イッショニ (D アー ソーカ)

(B 逃げたんだよ) 孫と 一緒に (D ああ そうか)

(E ウーン) (F ウーン) (B オモッキシ ハイッテキタ) デ

(E うーん) (F うーん) (B 思いっ切り 入ってきた) それで

アト ニケ° デキダ (B チタシトラ) シトダジ、 オレンドゴノ ウズノ
後 [から] 逃げて来た (B 来た人達) 人達 [は]、俺の所の 家の

ヤネナンカ ミエネガッタッテヨ。
屋根なんか 見えなかったってよ。

025B : モー Aサン イナーワッテ (D イヤー) ユワレタンダヨ。
もう Aさん いないわーって (D いやー) 言われたんだよ。

シナンシテタツケワ。 ショーガッコーサ ニューイン シ アノ
避難していたからよ。 小学校に 入院 × あの

シナンシテタツケワ。 (A ウン) Aサンジ ネワッテ (E ハー)
避難していたからよ。 (A うーん) Aさんの家 ないよって (E はー)

(A ウン ツナミカブッテ ナミガキテ) モー ナミキテ ネーヨ、
(A うん 津波かぶって 波が来て) もう 津波来て ないよ、

ネーヨ、 アンタ アドガラ キダヒドダジラネー、 ミテテ (C アー)
ないよ、 あなた 後から 来た人達 [が] ね、 見ている (C ああ)

ホラホラ マゴト ハヤグ ニケ° タカラワ オイ (E ハイ ハイ)
ほらほら 孫と 早く 逃げたからよ おい (E はい はい)

アイヤー ホンデ ウジ ネーワナー (C ハー) ナンテ。
あいやー それで 家 ないわなあ (C はー) なんて。

ホッテイッタク ヤネグラ アッタノ。 [4] ネ。 {笑} (C ウン)
それで行ったら 屋根くらい あったの。 ね。 {笑} (C ううん)

(D ウン) {笑} ナカミ ナンニモナイノワ。

(D うーん) {笑} 中身 [が] 何にもないのよ。

(E ハー) (F ウン) ガラント ナッテ アトアッテ。

(E はー) (F うーん) がらんと なって 跡 [だけ] あって。

(F ヨワイ) (E アー) ウン。

(F 怖い) (E あー) ううん。

026 A : イヤー アレ スゴイモンダネ。(D ウン) (E アーー)
いやあ あれ [は] すごいものだね。(D ううん) (E あーー)

ウン。

うん。

027 C : ナンカ ツナミノ ケーケンワ ハジメテダッタ。
なんか 津波の 経験は 初めてだった?

028 B : ハジメテ。 ウン。(D ウオーオーオー) (E アーー)
初めて。 うん。(D うおーおーおー) (E あーー)

(D ソーデスヨネ)

(D そうですね)

029 A : ウン。 ダレモ ホラ シラナカッタカラ (D ウン) (F ウン)
うん。 誰も ほら 知らなかったから (D うん) (F うーん)

(E アーーー) ダメナンデシヨ。(C ソーデスヨネ)

(E あーーー) 駄目なんですよ。(C そうですね)

030 B : ナヌー ハアグニケ° ットキ、 イヤ ス アノ オカネアッタド オモッテ
××× 早く逃げる時、 いや × あの お金あったと 思っ

ニケ° ナイデシヨ。 ナンダ (E ウンウン) ゴジゴロ カエッテ
逃げないでしょ。 なんだ (E うんうん) 5時頃 帰って

クンダカ ジンダー [5] ナンテ オレラ オモッタッチャ。
来るんだから 良いんだ なんて 私達 [は] 思ったんだ。

031 A : ソノマエニ (C ウン ウーン) (E アーー) カラ カラブリシタノサ。
その前に (C うん ううん) (E あーー) ×× 空振りしたのさ。

キョネン。

去年。

032B : イチネンマエ。

一年前。

033D : アッ (C アー) ソーデスネ。 (B ソ ソ ソー) (A ウン)

あっ (C あー) そうですね。 (B そ そ そう) (A うん)

ソー アノ。 (A アントキモネー) (E アー)

そう あの。 (A あの時もね) (E ああ)

034B : ツナミ キマスー (C アーー) キマスー。

津波 [が] 来ます (C あーー) 来ますー。

(D ウン ソーソーソーソー)

(D うん そうそうそうそう)

035A : ツナミ クッカラ ニケ° ナセツツーコトデ イッカイ ニケ° ダノ。

津波 [が] 来るから 逃げなさいということで 一回 逃げたの。

(C ウーン) (F ウーン) シタラ ゼンゼン ナンデモナクテー。

(C うーん) (F ううん) そうしたら 全然 何でもなくて。

(E アー)

(E ああ)

036B : ダカラ ミンナ (D ウン) ホラ ユダンシタンダ。

だから 皆 (D うん) ほら 油断したんだ。

037A : ザンショーワ。 (C アー) (D ソーデスネ) ダカラ コンドモ

_____。 (C あー) (D そうですね) だから 今度も

ナーンノ ホンナ オレモ (F ウーン) ホーダケド (C ウンウンウン)

何の そんな 俺も (F うーん) そうだけど (C うんうんうん)

(D ウン) イジジカンモスレバ カエッテクンダガラ。 ナンデモネーカラ。

(D うん) 一時間もすれば 帰って来るんだから。 何でも無いから。

(E ウン) カラダダゲ (E ア一) ニケ° ロダナンテ。

(E ううん) 体だけ (E あ一) 逃げろだなんて。

038B : タダミノマデ シタダダツツーガラネー (C ウン) [6] ナンニモ
畳の [所] まで [水が] 浸るんだって言うからね (C うん) 何にも

モタネデ ニケ° タノッサワ。 (C ウン) (D ウン) (E ウン)
持たないで 逃げたんだよ。 (C う一ん) (D う一ん) (E う一ん)

ホーレガネ、 ナンヌモネー。 ミンナソーユーンダヨ。(A ナ一ンニモ)
それがね、 何にも無い。 皆そう言うんだよ。(A 何にも)

ネーグナッテンダーワ) (C ウン) (D ウン) ヤーヤ タンスノウィサ
無くなっているんだよ) (C う一ん) (D ううん) いやあ タンスの上に

オガネ アケ° タラ モッテコネー。 ウン。(E ウア一) ダイジナモノ
お金 [を] あげたら 持ってこない。 うん。(E うわ一) 大事なもの

(C ウン) モッテコネ。 ミンナ ホーユ一ノワ スグーネ
(C う一ん) 持ってこない。 皆 そういふのは すぐね

039E : スグ カエレルト オモウ トリアエズ
すぐ [に] 帰れると 思う とりあえず

(C ウンウンウンウンウンウンウン)

(C うんうんうんうんうんうんうんうん)

040B : ンナ キノ ウン ナンジ ゴジゴロ カエッペド (E ア一)
×× ×× うん 何時 5時頃に 帰ろうと (E あ一)

オモッテダノッサ一。(C ウンウンウン)

思っていたのさ。(C うんうんうん)

041A : デモ (E ハ一) アレダナ ビックリシタモンネ一。(E ハ一) アノ一
でも (E は一) あれだな びっくりしたものね一。(E はあ) あの

岩沼市 自由会話

オレタジワ タマウラノ ショーガッコー イッテ ヤッテタンダケド
俺達は 玉浦の 小学校 [へ] 行って やっていたんだけど

(D ハイ) (E ハイ) ソゴニ ニケ° ダノ。 (D アー フタリトモ)

(D はい) (E はい) そこに 逃げたの。 (D あー 二人とも)

シタラ ヌケ° テ マモナク (B キタンダヨ) チタモンネ。 ガッコーマデ。
そしたら 逃げて 間もなく (B 来たんだよ) 来たものね。 学校まで。

(C アー) (F ウン) (D アー キマシタカ ハー) ソーナノヨ。

(C あー) (F うーん) (D あー 来ましたか はー) そうなのよ。

(B ウン) トコロガ コーテーダカラ クルマー (D アッ) イッパイ

(B うん) ところが 校庭だから 車 [を] (D あっ) いっぱい

オクデシヨ。 (E ハイ ハイ) (D ハイ) ソレガ ミナ ウカンデサー。

おくでしょう。 (E はい はい) (D はい) それが 皆 浮かんでさー。

042 B : シヤクダイイジョー (D ハー) アッタベネ。

100台以上 (D はー) あっただろうね。

043 A : ヒヤクダイ (D エー) ニヒヤクダイ アッタヨ。 (C ハー)

100台 (D えー) 200台 あったよ。 (C はー)

(B ウン) ホイデ (E ヒヤクダイ ニヒヤクダイ) イッパイダッタヨ。

(B うん) それで (E 100台 200台) いっぱいだったよ。

044 B : ウジアガッタンダベナ ミナワー。 (F エー) (D ハー) (E ハー)

浮き上がったんだよな 皆よ。 (F えー) (D はー) (E はー)

ケカ ガッコノ (A ウン) コノヘンマデ キタンダナ。

×× 学校の (A うん) この辺まで 来たんだな。

045 A : ソー オレモネー (D エー) イマンナツテ (F ドノクライ チカク)

そう 俺もね (D えー) 今になって (F どの位 近く)

岩沼市 自由会話

レーサーニ カンガエレバ (D ウーン) アノ ハマドーリ ドッチャ
冷静に 考えれば (D うーん) あの 浜通り どちらへ

ニケ° テモ オンナジナノサネヤ。
逃げてても 同じなんだよね。

046B : ンダヨ。 コレデ (D ハー ソーデスネ) (E アー) イワヌマ
そうだよ。 これで (D はー そうですね) (E あー) 岩沼

ツツ ヌケ° レバ ヨカッタノヨナー。 (A ウン) (E アー) (D アー)
×× 逃げれば 良かったのよな。 (A うん) (E あー) (D あー)

047A : オガノホーニ ヌケ° ンノガ チホンデショーヤ。 (E アー)
丘の方に 逃げるのが 基本でしょうよ。 (E あー)

(C ウーーン) (D ウンウンウンウンウンウンウン ハイ) ネ。
(C うーーん) (D うんうんうんうんうんうんうん はい) ね。

(E ハマドーリ マチガ) アーユーノ マジガッテタンダネー (E アー)
(E 浜通り ×××) ああいうの 間違っていたんだね (E あー)

ヤッパリ。
やっぱり。

048B : ダッテ シナンジョガ ホレ ショーガッコート チューガッコーノ チマッテ
だって 避難所が ほら 小学校と 中学校の 決まって

(A イツモ一) チマッテ、 チマッテッテ (E アー) オカシーケド ウン。
(A いつも一) 決まって、 決まっています (E あー) おかしいけど うん。

049A : アノー (D ウーン) クンリンデ マナンデル シトタチ、
あの (D うーん) 訓練で 学んでいる 人達 [は]、

タマウラショーガッコーッテ キマッテルモンダカラ (C ウンウン)
玉浦小学校って 決まっているものだから (C うんうん)

岩沼市 自由会話

(D アーアー) ソレシカ アダマニ ナイモンネ。(E ウン)

(D あーあー) それしか 頭に 無いものね。(E ううん)

(C ウン) (E ウン) (C ウン) ダー ソコニ ニケ° タノ。

(C うーん) (E うーん) (C うーん) だから そこに 逃げたの。

050 B : ミンナ ニケ° タカラ。

皆 逃げたから。

051 A : デモ一 コンドリ シミンカイカンニ チョクセツ ニケ° タシトモアッタダヨ。

でも 今度は 市民会館に 直接 逃げた人もいたんだよ。

052 D : アッ (C ホー) (E アッ) ココマデー (E アソコノ) アノー

あっ (C ほー) (E あっ) ここまで (E あそこの) あの一

(E シミンカイカン) (F フーン) (C ハー)

(E 市民会館) (F ふーん) (C はー)

053 A : ココマデ ニケ° タシトワ クルマモ ナンニモ ナントモナガッタネ。

ここまで 逃げた人は 車も 何にも 何とも無かったね。

(D アー) (E アー)

(D あー) (E あー)

054 D : ココワ (C ダイジョーブ) コナカッタデスヨネ。(E ダイジョーブ)

ここは (C 大丈夫) 来なかったんですよ。(E 大丈夫)

055 A : コナカッタ。(B ウン コナカッタ) (D ウン)

来なかった。(B うん 来なかった) (D うーん)

アノ コーソクドーロノ トコロマデ。

あの 高速道路の 所まで。

056 D : ゾーデスヨネ。(E ウン) (F ウン) ア一。

そうですね。(E うーん) (F うーん) あ一。

057A : ウン。(F へー) デモ ナ ナンデ ノガ° レテ エガッタノガ、
うん。(F へー) でも × なんて 逃れて 良かったのか、

スنداホーガ イガッタノカーナンテ。
死んだ方が 良かったのかなあなんて。

058B : へー ダカ ウミノウエサウイデタ (D イヤイヤイヤイヤ) (E アー)
へえ だから 海の上に浮いていた (D いやいやいやいや) (E あー)

{笑} ミロ、ケートラックモ (C イヤ) ナクナッタベシヤネー。(C ウン)
{笑} 見ろ、軽トラックも (C いや) 無くなったんだよねえ。(C うん)

アノ ノツテキタ (E ウーン) クルマモ ウジアガッタツサワネー。
あの 乗ってきた (E うーん) 車も 浮き上がったんだよねえ。

(C ウン) ウン。(D ウーン) マズー ウチデ ニダイグレ、
(C うん) うん。(D うーん) まず うちで 2台位、

サンダイ ナガ サンダイ クンダガラ トマッペネ。
3台 ×× 3台 来るんだから [100台以上も] 止まるだろうね。

ウン (D ウーン) オトツツァント カーチャン ニケ° デシマウシネ。
うん (D うーん) お父さんと お母さん [車で] 逃げてしまうしね。

(D ウン) (E ウーン)
(D うん) (E うーん)

059A : アトネー アノー ヤッパリー アエヨ ナンカ ケーケン ネット
あとね あの やっぱり あれよ なんか 経験 無いと

ダメナンダネ。(D ウーン) イークルマ イダマスイカラ アブラオ
駄目なんだね。(D うーん) 良い車 大切だから 油を

クーカラ。(D ウーン)
食うから。(D うーん)

060 B : チャッコイノヨリ オッキーノ。

小さいのより 大きいの。

061 A : チッチェンダ。(E アッ) ケートラックトカデ ニケ° タヒトノ

小さいんだ。(E あっ) 軽トラックとかで 逃げた人の

(D ソーデスネ) ホーガ オーイノサ。

(D そうですね) 方が 多いのさ。

062 B : オッキナクルマ オイデー (E アー) (C ウーン) ホシテ

大きな車 [を] 置いて (E あー) (C うーん) そして

チャッコイサ (E ソッカ) ミンナシテ ノッチャウ。 ノッテルヨ。

小さい [の] に (E そっか) 皆で 乗っちゃう。 乗っているよ。

(A ウン) ウン。 ウーン。

(A うん) うん。 ううん。

063 A : トコロガ ホノ オッケナ イダマスイ クルマガ ナガサレチャッテ。

ところが その 大きな 大切な 車が 流されちゃって。

(E ハー) (C ナルホド) (D ソーデスヨネ) (E アー)

(E はー) (C なるほど) (D そうですね) (E あー)

(B ホッタラ _____) ケートラックガ ノコッタリツツ。

(B そしたら _____) 軽トラックが 残ったりしているという。

(E ソッカー) (B チッチャイ クルマサー) (C アー)

(E そっか) (B 小さい 車に) (C ああ)

(D へー) モーシトツワ (B ミンナシテ ノッテキテ) (E アー)

(D へー) もう一つは (B 皆で 乗ってきて) (E あー)

シテスワルンダネー。(C アー) (B コレノッテイル) (E ウン)

んだね。(C あー) (B これ乗っている) (E うん)

ヤッパリ ンダカラ ダレカカ° ネ ナンニンカガ マエニ ケーケンデモ
やっぱり だから 誰かがね 何人かが 前に 経験でも

シテイル シトガ イレバ (E アー) (C ウンウン) モーチョットワ
している 人が いれば (E あー) (C うんうん) もうちょっとは

ヨカッタンデネーノカナー。(C ウンウン) (D アー) (F ウン)
良かったんじゃないのかな。(C うんうん) (D あー) (F うーん)

064B : ダレモ ケーケン ナイモンネー。(D ウン) (E ウーーン)
誰も 経験 無いものね。(D うーん) (E うーーん)

マエナヤイナノワ。 [7]
前にないのは。

065E : カタリツグッテ ユーカ カ コージョーホーオ (D ウン) (C ウン)
語り継ぐって 言うか × こう情報を (D うーん) (C うーん)

コー (B ネー) (A ホーダネ) デンタツッテ ユーノガ ナカナカデキナイ。
こう (B ねえ) (A そうだね) 伝達って いうのが 中々できない。

066A : デモ ヤッパリー ナミガ スゴカッタラシー。(D ウン)
でも やっぱり 波が すごかったらしい。(D うーん)

(E ウン) ネ。(F ウン)
(E うーん) ね。(F うーん)

067B : ンダヨ。 アノー テーボー ミンナ コワサレテネ (D ウン)
そうだよ。 あの 堤防 みんな 壊されてね (D うーん)

(C ウン) イッテミダラ ホンド ビックリスルツツーンダカ ナンダカ
(C うん) 行ってみたら 本当 びっくりするっていうんだか なんだか

(E ハー) ナミダ トマンナグ ナッタガラネ。(E ハー)
(E はー) 涙 [が] 止まらなく なったからね。(E はー)

(F ウーン) ザイサン ミンナ モッテカレタンダモンネー。

(F うーん) 財産 [を] 皆 持って行かれたんだもんね。

(E ウーーン)

(E うーーん)

068E : スゴイ スピードモ スゴイシー (D ウーン) (B ソーダネー)

すごい スピードも すごいし (D うーん) (B そうだね)

イキオイモ スゴイシー アレデス。

勢いも すごいし あれです。

069D : アレー ヒクノワ キタノガ ナン ミズガ ヒクノワ ケッコー ジカンガ

あれ 引くのは 来たのが ×× 水が 引くのは 結構 時間が

カカッタンデスカ。 ソノ。

かかったんですか。 その。

070A : イヤ アノー テーボーガラ ウイノ アカ° ッタヤツワ (C ウン)

いや あの 堤防から 上の 上がったやつは (C うん)

(D ハイ) マー ツギノヒアダリ シーダッテヨ。 (C アー)

(D はい) まあ 次の日当たり 引いたってよ。 (C あー)

(D アー) フツカグライデ。 デモ ソノ ノゴッタミズ、 コンド

(D ああ) 2日ぐらいで でも その 残った水、 今度

ホラー ドコモ ヌケ° ヨーナイカラ (D ソーデスヨネ)

ほら どこも 逃げよう [が] ないから (D そうですよね)

(C ウーン) ソレワ シバラク イッシューガンガ トーカグレーワ

(C うーん) それは しばらく 一週間か 10日位は

アッタナ。

あったな。

071B : ンダネ。(C ウン) (D ウン) ウジサ イガンネクナッタンダ。
そうだね。(C うん) (D うん) 家に 行けなくなったんだ。

ミズガボデ。(D アー)

水たまりで。(D あー)

072A : ソシテマー タンボンナカ ミズーミミダイニナッテワ。(B ンダヨ)
そしてまあ 田んぼの中 [が] 湖みたいになってよ。(B そうだよ)

(C ンー) (D ウン) スケ° ナガッタネ。 シグイドゴ。

(C んー) (D うん) 抜けなかったね。 低い所。

シグイドゴツツーカ (C ウン) テーボーー (D ハイ) ノ ウジガワ
低い所っていうか (C うん) 堤防 (D はい) の 内側

(D ハ一) (C ウン) トカ ソーユートコガ モー スケットコ

(D は一) (C うん) とか そういう所が もう 抜ける所 [が]

ナイガラ。(C ウン) ウン。 コワレダ ドゴモ サイショワ
ないから。(C うん) うん。 壊れた 所も 最初は

コワレンダケドモ シタマデワ コワレナインダヨネ、 アレ。(F ウン)
壊れるんだけども 下までは 壊れないんだよね、 あれ。(F うん)

ガーット コワレンナンダ。 ソレデ タマッタ ミズガ ソゴサ ノゴッテ
が一と 壊れないんだ。 それで 溜まった 水が そこに 残って

(D アー) ソー ウゴガナク ナンノガアッタネ。

(D あ一) そう 動かなく なるのがあったね。

073B : アト ジエータヤサン キテ キャ チカイ モッテチテネ ミナ
あと 自衛隊屋さん 来て × 機械 [を] 持って来てね 皆

テーザンボリサ [8] ナガシタッチャ コーユー ナンカ タンク。 ネ。
貞山堀に 流したんだよ こういう なんか タンク。 ね。

ホース ミツグライデ モツテチテ ミナ クミアケ° ダノ。(A ウーン)

ホース 3つ位で 持って来て 皆 汲み上げたの。(A うーん)

(D ウーン) チーチャイサー。

(D うーん) 小さいさあ。

074A : ポンプモ ミナ ダメニナッタデショー。(D ウーン) チクウンバ。 [9]

ポンプも 皆 駄目になったでしょう。(D うーん) 機関場。

(D タシ)

(D ××)

075B : チカンバ。

機関場。

076A : ダカラー アノー チツチャイ コーユー スイチューポンプミデノ

だから あの 小さい こういう 水中ポンプみたいの

スイ、 デモ デッカインダナー アレ サンジュッセンチグライ

×××、 でも 大きいんだなあ あれ 30センチ位

アッタカラ (B ネー ウーン) ホーサネー。(D アー)

あったから (B ねー うーん) ホースはねー。(D あー)

(E アー サンジュセンチ) ソナノ

(E あー 30センチ) そんなの

077B : サンボングライ ハイッテネ。

3本位 入ってね。

078A : シチハチダイグライ ズーット スズケテ ヌイダндаゲドモネ。

7、8台位 ずーっと 続けて 抜いたんだけどもね。

(E アー) デモ シバラク カカッタネ。

(E あー) でも しばらく かかったね。

079 B : カカッタネー。(E アー) (D ウン) ウン。
かかったねえ。(E あー) (D うん) うん。

080 A : ウン。(F ウン) (D ウン) デモ ホイツア ナクナッタンダカラ
うん。(F うん) (D うん) でも そいつは 無くなったんだから

ドーシヨーモナイケド。(D ウンウン)
どうしようもないけど。(D うんうん)

081 B : デモ ガレッジ ミンナサ ミシエダガッタヨ。(E ウン) ウッチノ
でも ガレージ [を] 皆に 見せたかったよ。(E うん) 家の

ウイサ クルマ アカ° ッテルー、 ウジノ ナカノ トラクターダノ
上に 車 [が] 上がっている、 家の 中の トラクターだの

コンバイン ミンナ アカ° ッテ ハイッテンダヨ、 ナカサ。 ネ。
コンバイン 皆 上がって 入っているんだよ、 中に。 ね。

082 E : ア イエノナカニ。(C ン) (D へ)
× 家の中に。(C ん) (D へ)

083 B : ウジンナカサ。(E ハ) コンバイントカ (F ア) トラクターネア。
家の中に。(E は) コンバインとか (F あ) トラクターね。

ミンナ ハイッテンノ。 ナガサレデキテ。(D エ) ウン。
皆 入っているの。 流されてきて。(D ええ) うん。

(C ン)

(C ん)

084 A : アレー アドガラ (B イヤソナ) キーダンダケッド (D ハイ) コー
あれ 後から (B いやそんな) 聞いたんだけど (D はい) こう

ヤッパリ イッカイ クルンダケド、 ヒジナミツツーノ アッテ
やっぱり 一回 来るんだけど、 引き波っていうの [が] あって

岩沼市 自由会話

(D アー ソーデスネー) イッカイワ ヒグラシーノネ。(D ハイ)

(D あー そうですねえ) 一回は 引くらしいのね。(D はい)

(C ウーン) ダァ ソントギワ ホンノ テーボーノ タカサマデダガラ。

(C うーん) だから その時は ほんの 堤防の 高さまでだから。

(D アー) ヒーダアドニ。 ソノ ノゴッタノワ コンド ヌゲミジガ

(D あー) 引いた後に。 その 残ったのは 今度 抜け道が

ナイガラ ノゴッタッテユー ハナシ。

無いから 残ったっていう 話。

宮城県岩沼市方言会話集（自由会話）注記

〔1〕話し手について

本調査は、調査会場の都合上、話者と正対して調査を行わざるを得ない状況であった。そのような状況で、調査者C～Gがいるため、話者A、Bともに、自然、調査者に向けての発話が多くなり、方言話者同士の会話というのとは異なるものになっていることに留意されたい。ただし、話者A、Bともに、調査者への発話においても、岩沼市の方言的特徴をよく反映している。

〔2〕ネクナッチャウノイーワー

話者Bの談によれば、「亡くなってしまうよりいいよ」という内容を言おうとして、言い損ねたもの。

〔3〕ヌケ° タッチャバ

「ヌケ° タッチャ（逃げたんだ）」、「ワ（よ）」の「ワ」が「バ」([Ba]両唇摩擦有声音)のように発音されたものと考えられる。

〔4〕ヤネグラ アッタノ

話者A、Bの談によれば、話者A、Bは、避難先の小学校にたどり着いた後、後から避難してきた人たちに「自宅が流された」と聞いたと言う。その後、波が引いた後に自宅の場所に行ってみると、自宅の1階部分が丸々なくなり、波に耐えた支柱と、その上の、波を被らなかつた屋根だけが残っていたという、その様子を言っている。

〔5〕ジンダー

「良いんだ」のこと。「良い」は、「イー」ないし「エー」と発音される。さらに、県南では、ヤ行の音が摩擦化しジャ行になる。したがって、「良い」の「イー」は「ジー」、「良い」の「エー」は「ジェー」と発音される可能性がある。この会話では、「イー」が、摩擦化し「ジー」になり、それが短く発音されている。

〔6〕タダミノマデ シタダンダツツーガラネー

話者Bの談によれば、畳の所まで浸る、すなわち床上まで浸水すると聞いたので、高いところに貴重品を上げる措置だけで、身一つで逃げたが、実際には想定を超えた波が来て、家具ごと流されたということを説明している。

〔7〕 マエナヤイナノワ

話者Bの談によれば、「前にないのは」という内容を言おうとして、言い損ねたもの。

〔8〕 テーザンボリ

宮城県中部、松島湾の支湾塩竈（シオガマ）湾から名取（ナトリ）川河口を経て阿武隈（アブクマ）川河口に至る運河。貞山運河ともいう。

〔9〕 チクワンバ

「機関場」、排水用のポンプ場のこと。話者の住む地域は、もともと土地が低く、生活上、排水施設が重要なものだった。加えて、震災により、県南沿岸部の広い範囲で、土地の沈下が起こり、津波による浸水後の排水作業が課題となった。

宮城県岩沼市方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
椎名 渉子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
刈間 勇斗（東北大学文学部3年）
梁 敏鎬（人文科学総合研究所 研究教授）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
刈間 勇斗（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

－ 宮城県岩沼市 －

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

- 収録地点 宮城県岩沼市
- 収録日時 2012（平成24）年6月30日
- 収録場所 宮城県岩沼市里の杜 里の杜西住宅（話者A・B宅）
- 話題 【場面設定会話】
全13場面
- 話者
- | | | | | |
|---|---|-------------|----------|-------|
| A | 男 | 1935（昭和10）年 | （収録時77歳） | [Bの夫] |
| B | 女 | 1937（昭和12）年 | （収録時75歳） | [Aの妻] |
- 話者出身地
- | | |
|---|-------------|
| A | 岩沼市寺島（テラシマ） |
| B | 岩沼市早肢（ハヤマタ） |

【場面設定会話】

話し手

A 男 1935 (昭和 10) 年 (収録時 77 歳)

B 女 1937 (昭和 12) 年 (収録時 75 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オマエ ドゴサ イグノヤ。

あなた どこに 行くのよ？

002B : オレゲー。オレ {笑} オレ カエモノサ エグンダ。

私か。 私 {笑} 私 買い物に 行くんだ。

003A : アー アド イッテコーイ。

ああ それじゃ 行ってこーい。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : アンダ シンマダナワー。

あなた 昼間だよ。

002B : アー シンマン ナッタガワ。アー ンデ イガナクテネーナー。

あー 昼間に なったの。 あー それでは [食事に]行かなければならないな。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : ナンダヨ、コンナ オッソグ ドゴサ イグンダ。

何だよ、 こんな 遅く どこへ 行くんだ？

002B : ア オレガ。オレア ホレ トゴアサ イッテチタンダー。

あ 私か。 私は ほら 床屋に 行ってきたんだ。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001A : アー イッショケンメーダナー。

あー 一生懸命だな。

002B : ンダー。

そうだ。

003A : スコス ヤスメ マズ。ホンダ ガズガズ スネデヤー。

少し 休め まあ。そんな がつがつ [仕事]しないでよ。

004B : ンダガー。 ンデ ココデ スコス ヤスムガナ。

そうか。 それでは ここで 少し 休むかな。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : アンター ダレモ イネガラヤー。 オジャ ノンデゲー。

あなた 誰も いないからよ。 お茶 [を] 飲んで行け。

002B : ンダナー。 ンダラバ ゴツツオーン ナッカ。

そうだな。 それならば ご馳走に なるか。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、AがB宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001A : コンヌズワー。 イダノー。

こんにちは。 いるの？

002B : イダガラ ハイレー。

いるから 入れ。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがBにスコップを借りるときのやりとり。(Bが貸す場合)

001A : アー スコップ ネーガラ カシエー。

あー スコップ ないから 貸して。

002B : アー モッテガセー。 ツカワセー。

あー 持って行きなさい。使いなさい。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをBに返しに行ったときのやりとり。

001A : ア ドーモ アリガトネー。

あ どうも ありがとうね。

002B : ア エーヨー。

あ いいよ。

003A : イヤイヤ オカゲサンデ タスカッタヤー。

いやいや おかげさまで 助かったよ。

004B : ア ホンダゲー。ホンデ エガッタネー。

あ そうかい。 それでは よかったね。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがBに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Bが構わないという場合。

001A : イヤーヤ コワレデスヤッタнда。モースワケネーナァー。 ナンジョシテ

いやー 壊してしまったんだ。 申し訳ないな。 どうして

002B : ア ジー [1] ジー。オラエデ マタ カウガラ。

あ いい いい。私の家で また 買うから。

003A : ヤー ベンショ サナクテネーガヤ。

いやー 弁償 しなくてはならないかい。

004B : アー イーガラ イーガラ。オラエデ カウカラ。マダ ツカワセー。
あー いいから いいから。私の家で 買うから。また 使いなさい。

(9-2) Bが破損に対して不満を述べる場合。

001A : アー コイズ イダマスカッタナヤァー。 フッチャガッテ。
あー これ 大切だったんだよなー。 壊れてしまっテ。

ヤーヤ ハー イダマスガター。アイズ ダイズニスタンダー、オラエナヤー。
いやー はー 惜しいなー。 あれ 大事にしてたんだ、私の家のはよ。

002B : イヤー ンダッテ フッチャゲテスマッタナオン。スカダネベヨー。
いやー そう言ったって 壊れてしまったんだもの。 仕方がないでしょう。

ベンショースッカー。
弁償するか？

003A : アー イーガラワ。 スカダネ。 ダイズナモンダゲントモー
あー いいからよ。 仕方がない。 大事なもののだけれど

イーワ オラエデ カウガラワ。
いいよ 私の家で 買うからよ。

〈 誘いと断り 〉

(10) AがBを朝市に誘う際のやりとり。

001A : アー ドコサガダカニ アサイズ アツカラ イッベヤ。
あー どこにかだかに 朝市 あるから 行こうよ。

イッショニ ノシェデンカラヤー。
一緒に [車に]乗せていくからよ。

002B : ア ダメダー。オレ トモダジト オジャノミサ イク° ンダッター。
あ だめだー。私 友達と お茶飲みに 行くんだった。

イカ° ンネカラワ。オトツツァン ヒトリデ イッテコセー。
行けないからよ。お父さん 一人で 行って来なさい。

003A : イヤーヤ オメ イカ° ネット ウマグネンダヨ オレ。
いやいや お前 行かないと うまくないんだよ おれ。

004B : イク° ヤクソクシッタカラ ダメダー。
[お茶のみに]行く 約束しているから 駄目だ。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩している人に、体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。Bの調子がいい場合。

001A : アー オメー カラダー ワルグシタツツケ ダイジョーブナノガ。
ああ あなた 体 悪くしたっていうけど 大丈夫なのか？

002B : ウン イマントコ ダイジョーブダナー。
うん 今のところ 大丈夫だな。

003A : イシャノ ハナス チガネデ ワガンネンダゾ。
医者の話 聞かないと だめだぞ。

004B : ア イシャモ イーツタカラ ダイジョーブダ。
あ 医者も いいって言ったから 大丈夫だ。

(11-2) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。Aの調子が悪い場合。

001B : トツツァン グアイ ワルイゲー。
父さん 具合 悪いのか？

002A : イヤー スコスグラ ワリダッテ ガマンスナクテネナー。
いやー 少しくらい 悪くても 我慢しなくてはならないな。

オレモ トシダカラナー。

おれも 年だからな。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというBに、Aが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001A : ドレ オレ ホンダゴド オレ スッカラ ヤスンデロー。

どれ ほれ そんなこと おれ[が] するから 休んでいる。

002B : インデ シテケセー。 ナオッタラ スッカラ。

それでは してください。 [病気が]治ったら [私が]するから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真を相手が間違っ捨てようとしているときに、それを制止してどのようにいうか。

(13-1) B (女性) が制止する場合。

001B : ア ホイズ ナン、マッテセー。 イマ ミッカラ ナガミ。

あ それ 何、 [捨てるのを]待ってよ。今 見るから 中身。

(13-2) A (男性) が制止する場合。

001A : ア ホイズ マッテロ。 イダマスィンダカラ ホレ。 ナカニ ナンダカ

あ そいつ 待っている。大事なんだから ほら。中に なんか

ヘッテヤッゾー。 ヨーグミネデ、ワガンネベ オメ。

[大事そうな物]入ってるぞ。よく見ないで、だめだろう あなた。

(別回答 : 捨ててしまった時の不満)

001B : アヤー ホイズ イダマスィーガッタノ。 ナンーダヨ マゴノ カダミノ

あやー それ 大事だったの。 何だよ 孫の 形見の

シャスン、ナゲダノガー。

写真、 捨てたのか。

宮城県岩沼市方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕 ジー

「良い」のこと。「良い」は、「イー」ないし「エー」と発音される。さらに、県南では、ヤ行の音が摩擦化しジャ行になる。したがって、「良い」の「イー」は「ジー」、「良い」の「エー」は「ジェー」と発音される可能性がある。この会話では、「イー」が、摩擦化し「ジー」になっている。

宮城県岩沼市方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
椎名 渉子（東北大学大学院文学研究科博士後期課程3年）
蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
刈間 勇斗（東北大学文学部3年）
梁 敏鎬（人文科学総合研究所 研究教授）

文字化担当者 中西 太郎（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
蕭 舒文（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）

【 宮城県岩沼市の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な岩沼市方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/ʈ/が有声子音/g/d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/ʈ/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

この特徴は、今回の会話集の話者たちにもかなりよく保たれているようです。例えば、カ行音については、「ダガラ」（だから）、「アントギ」（あの時）、「ナグナツテモ」（無くなっても）、「ジブンダゲ」（自分だけ）、「ホンダゴド」（そんなこと）、また、タ行音については、「イダ」（居た）、「オレタズ」（俺たち）、「イジデル」（生きている）、「ヒドダジ」（人達）、といった例が聞かれます。

ただし、完全にガ行やダ行に濁るのではなく、共通語の発音よりはやや濁っているといった程度の発音も多く聞かれます。それら軽度の有声化音も、文字化資料ではガ行・ダ行の文字で表示してあります。

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ヶ°」のように半濁点で表記

します) のアケ° ルとなり、

「開ける」=アゲル

「上げる」=アケ° ル

で両者の混同は起こりません。

今回の会話集の話者たちもこの特徴を持っています。例えば、「ノカ° レテ」(逃れて)、「ニケ° デレバ」(逃げていれば)のような発音が聞かれました。ただし、鼻にかかっているのかいないのか微妙で、聞き取りの難しいケースも多くありました。そうした問題を含むものの、文字化資料では一律に鼻濁音で表記してあります。

以上のガ行に加えて、ダ・ザ・バ行も鼻音化します(ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します)。

例) ガ行: 上げる → アケ° ル
ダ行: 肌 → ハンダ
ザ行: 風 → カンゼ
バ行: 首 → クンビ

これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。今回の会話の中でも確認することができませんでした。

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象(またはその逆も)を「中舌化」(ちゅうぜつか、なかじたか)と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子(しし)、煤(すす)、寿司(すし) → すべてスス
知事(ちじ)、地図(ちず)、辻(つじ) → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます(後述)。

今回の会話集の話者たちからも、「スズンダ」(沈んだ)、「アスフミ」(足踏み)、「ウズ」(家)、「ズブン」(自分)などの発音が聞かれました。

ただし、現在ではこの中舌化の特徴も弱まりつつあり、シとス、ジとズ、チとツが、似た発音ではあるものの一応の区別はなされている、という段階に入りつつあります。

共通語とあまり変わらない発音が聞かれることも多くなっています。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん (じいさん)、十三 (じゅうさん) → 両方ともズーサン
手術 (しゅじゅつ) → スズツ
注射 (ちゅうしゃ) → ツーシャ

▼キ (キャ行) の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご (硬口蓋) に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械 (きかい) → チカイ
救急車 (きゅうきゅうしゃ) → チューチューシャ
今日 (きょう) → チョー
来た (きた) → チタ

上の例では、「チ」と表記しましたが、岩沼では完全にチになるのではなく、キのあとにシの発音を添えるような微妙な音になることが多いようです。今回の会話集の話者たちにもこの特徴は見られ、「チホン」(基本) のような例が聞かれます。しかし、概してこの傾向は強くは現れていません。

同様に、この現象はギにも見られ、「ジ」のような発音が聞かれます。文字起こしした会話の中には表れていませんが、今回の調査では、「ジョジョー」(漁業) のような例がありました。

▼その他、以下のような特徴もあります。

・ヒの音がシに近い音となる。

例) ヒャクダイ (100 台) → シャクダイ

【母音】

▼イとエの統合

母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

今回の会話集の話者たちからも、「エグ」(行く)、「エガッタ」(良かった)などの例が聞かれます。ただし、この特徴も弱まってきており、イとエが似たような発音になるものの、完全に同じではなく、一応区別はするという状態になりつつあるようです。

▼連母音の融合

アイ・アエという母音の連続(連母音)は融合して[ɛ:](共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する)と発音される。

¶ アクセント

岩沼市はアクセントの型がない無型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハトシの音の高低が決まっています(=型がある)、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない(=型がない)ため、区別されません。

共通語話者がこの無型アクセントの発音の地域のことばを聞くと、文が平らでのっぺりしているとか、区切れがわからず意味が取りにくいとの印象を受けるようです。

一方で、アクセントがないためか、同じ無型アクセント地域の福島県や茨城県などに似た独特の音調が聞かれます。

¶ 文法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」の不使用

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)
目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

今回の会話集の話者たちからも、「バス クンノマッテ」(バスが来るのを待つて)、「ツナミ チタカラ」(津波が来たから)、「オガネ アケ° タラ」(お金を上げたら)、「クルマ オクデショ」(車を置くでしょう)などのように、「が」や「を」を使わない発話が聞かれました。

☞また、この会話には見られませんが、宮城県内では共通語の「を」相当のものとしては「バ」や「ドゴ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)
俺ドゴ連れて行ってくれ (俺を連れて行ってくれ)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります(ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) ウジサ イガンネクナッタンダ (家に行けなくなったんだ)
カエモノサ エグンダ (買い物に行くんだ)
タンスノウィサ オガネアケ° タラ (タンスの上にお金 [を] 上げたら)

【接続助詞】

▼「ケ」

共通語の「けど」などに当たる接続助詞に「ケ」がある。

☞次の例文の「ケ」は「けど」と訳せるものです。しかし、「ケ」にはほかにも、「の

に「たら」「ところ」などさまざまな共通語訳があてられるように、必ずしも逆接になるとは限りません。「この間、町に行ったっけ、友達に会った」(町に行ったら)のような用法もあります。この「ケ」には、あることがらを思い出すという意味合いがあり、その思い出したことがらを前提にどうであるかが「ケ」の後ろで語られます。

例) アー オマー カラダー ワルグシタツツケ、ダイジョーブナノガ (ああ、あなた、体 [を] 悪くしたって言うけど、大丈夫なのか?)

▼「гентモ」

共通語の「けれども」に当たる接続助詞 (逆接既定条件) に「гентモ」がある。

例) ダイズナモンダгентモー イーワ (大事なもののだけれども、いいよ)

▼「ダッテ」

共通語の「～ても」に当たる接続助詞 (逆接仮定条件) に「ダッテ」がある。

例) イヤー スコスグラ ワリダッテ ガマンスナクテネナー (いやあ、少しくらい悪くても我慢しなくてはならないな)

▼「ンダラバ」

共通語の「それならば」に当たる接続詞 (順接既定条件) に「ンダラバ」がある。

例) ンダナー。ンダラバ ゴツツオーン ナッカ (そうだな。それならばご馳走になるか)

【助動詞】

▼「ベ」

共通語の「～だろう」(推量) や「～しよう」(意志) に相当する助動詞に「ベ」がある。

☞ 「ベ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう) <推量>
明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう) <意志>

お祭り、お前も行くべ？（お祭り、お前も行くだろう？） <確認>
みんなでがんばッペ（みんなでがんばろう） <勧誘>

今回の会話集では、「シャクダイジョー アッタベネ」（100台以上あっただろうね）、「ウズニ イダヒトダワ ナクナッタンダベネ」（家にいた人達はなくなったんだらうね）などのように「～ベネ」の形で推量する用法が見られます。

▼「タ」「タッタ」

この談話には見られないが、「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

例) (私は今,) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今,) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞ 「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？
②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。
あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田（2011）より引用>

▼「ナクテネー」

共通語の「～なくてはいけない」にあたる当為表現の形式に、「ナクテネー」がある。

例) ヤー ベンシヨ サナクテネーガヤ（いやー弁償しなくてはならないかい）

▼「～ネデワガンネ」

共通語の「～しないとだめだ」にあたる当為表現の形式に、「～ネデワガンネ」がある。

例) イシャノ ハナス チガネデ ワガンネンダゾ (医者の話、聞かないとだめだぞ)
ヨーグミネデ ワガンネベ、オメ (よく見ないとだめだろう、あなた)

【終助詞】

▼「シャ」「ノッシャ(サ)」

共通語の「さ」にあたる終助詞として「シャ」が用いられる。「のさ」にあたる「ノッシャ」もよく聞かれる。

☞共通語にはうまく訳せない程度の軽い敬意を含んでいることもあります。

例) ナンニモ モタネデ ニケ° タノッサワ (何も持たないで逃げたんだよ)

▼「チャ」

共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などにあたる終助詞として「チャ」が用いられる。

☞相手を知っているはずだ、当然わかるはずだ、と思う事柄を示し、相手に確認させる機能があります。今回の会話集では、次のような例が聞かれます。

例) ゴジゴロ カエツテクンダカ ジンダー ナンテ オレラ オモッタッチャ (5時頃帰って来るんだから良いんだなんて私達 [は] 思ったんだよね)

▼「ワ」

共通語の「な」「ね」「よ」「わ」などにあたる終助詞として「ワ」が用いられる。

☞共通語と異なり、男性も使用します。しかも、比較的自由に文末に付きます。例えば、「学校さ行ったかワ」「まだ居たのワ」「もう行って来たよワ」など、「か」「の」「よ」といった助詞の後ろにも付きます。「もう居ないべワ」のように「べ」にも接続します。さらに、「早く行けワ」のように命令形式に付くこともあります。この「ワ」に共通するのは、話し手が、自分に自信があり、当然のことを言っていると感じている場合のようです。

例) アンダ シンマダナワー (あなた昼間だよ)
イーワ オラエデ カウガラワ (いいよ、私の家で買うからよ)
ナンニモ モタネデ ニケ° タノッサワ (何も持たないで逃げたんだよ)

【敬語】

▼「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」

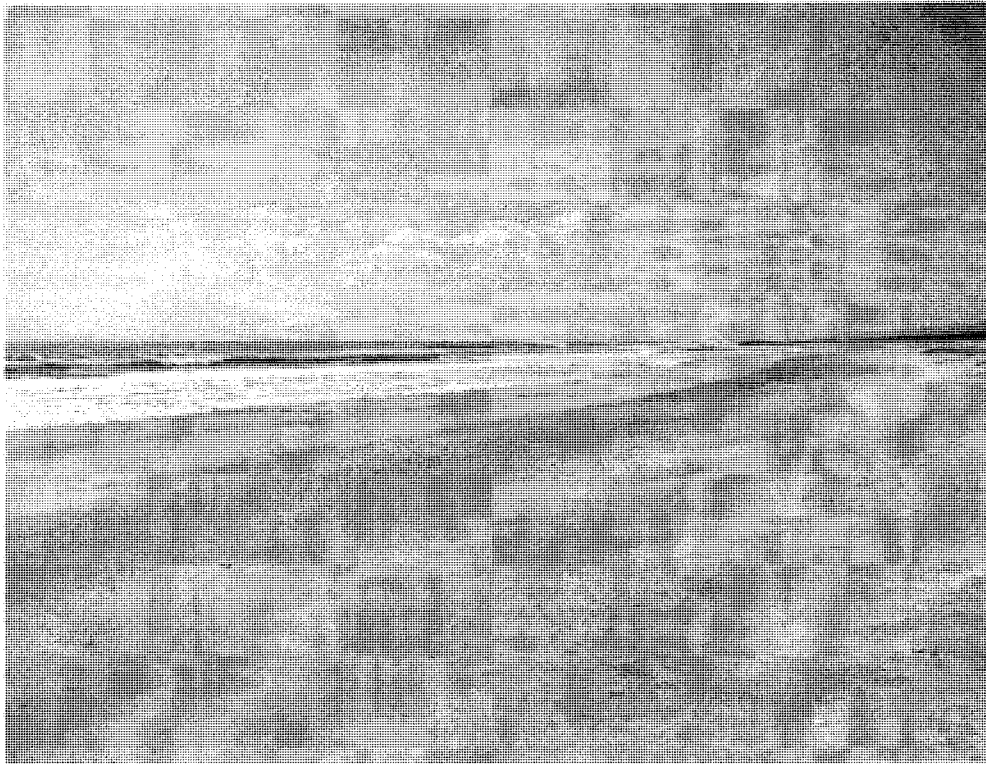
敬意を表す形式として「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

- 例) 取りス (取ります)
んデガス (そうです)
おはよゴザリス (おはようございます)
お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

- 加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210
加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
国立国語研究所編 (1981) 『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料 5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版
佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会
竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室
東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』ひつじ書房

わたりちょう
亘理町



鳥の海

(写真提供：宮城県観光課)



巨理郡巨理町

宮城県亶理郡亶理町概要

①亶理町の概観

亶理町は、宮城県の南東部に位置し、仙台市から南に約 26 km の距離にある。阿武隈川が太平洋に注ぐ出口にあり、中心部は肥沃な平野が広がる農業田園都市である。仙台市から比較的近いこと、広域仙台都市圏のベッドタウンとしての性格も持つ。阿武隈川河口には潟湖であった「鳥の海」があり、かつては漁業とともに製塩業が盛んであった。

亶理町では、農業用地が土地の 5 割近くを占めており、気候が温暖なことから果樹農業が盛んに行われている。特に亶理町のイチゴは東北一の生産量を誇り、「仙台いちご」として出荷されている。また、宮城県内一の生産量のリンゴのほか、ブドウ、アセロラなど果樹を利用した産品が多い。一方、荒浜地区では漁業も行われており、それに関連した笹かまぼこなど地場食品加工業も行われている。

②収録地点について

今回の調査地点は 2 地点である。1 地点目は吉田地区の長瀬、もう 1 地点は荒浜地区で、どちらも常磐自動車道の東側、海岸線より 1 km ほどの地点である。

③東日本大震災による亶理町の被害

3 月 11 日、亶理町では震度 6 弱を記録した。地震により発生した大津波は、沿岸の荒浜地区などに壊滅的な被害を及ぼし、海岸線から約 5 km の旧陸前浜街道付近まで浸入した。

表 1 亶理町の人的・住宅被害

亶理町人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明 の対人口比	全壊	半壊
34,845 人	257 人	12 人	0.77%	2,516 棟	1,142 棟

表 2 亶理町の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	14,080 人	40.4%
世帯	4,196 世帯	38.5%

※ 本文の内容は、衛藤 (2012) P.213~218 に
依拠する部分が多い。特に、表 1・表 2 は
衛藤 (2012) のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達 (2012) 『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』 日本統計協会
わたりちょう 宮城県亶理郡亶理町公式サイト (<http://www.town.watari.miyagi.jp/>)
(2013/02/23 アクセス)

伊達なわたり (亶理島観光協会ホームページ) (<http://www.datenawatari.jp/>) (2013/02/23
アクセス)

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡亶理町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡亶理町

収録日時 2012（平成24）年7月14日

収録場所 宮城県亶理郡亶理町長瀬（話者B宅）

話題 【震災のときのこと】

話者

A	女	1925（大正14）年	（収録時87歳）	[Bの友人]
B	女	1929（昭和4）年	（収録時83歳）	[Aの友人]
C	女	1979（昭和54）年	（収録時33歳）	[調査者]

話者出身地

A	亶理町亶理（ワタリ）
B	亶理町長瀬浜（ナガトロハマ）

【震災のときのこと】

話し手

A	女	1925 (大正 14) 年	(収録時 87 歳)	[Bの友人]
B	女	1929 (昭和 4) 年	(収録時 83 歳)	[Aの友人]
C	女	1979 (昭和 54) 年	(収録時 33 歳)	[調査者]

001A : ホイデモ コノヒトダモ ガッコーサ ハヤグ ニゲダンダッチャ。
それでも この人たちも 学校に 早く 逃げたんだよ。

イガッダノ (B ン一) コトヒト。

よかったの (B うーん) このひと。

002B : ンデモ ヤッパリ オライデモ マゴ ホラネ
それでも やっぱり 私の家でも 孫[が] ほらね

シャクショーセンモンダガラ ガッコー ソズキ° ヨース ワダリコーコー
百姓専門だから 学校 卒業× 亶理高校

ソズキ° ヨーステネ、ガッコーデモ ホラ ノーカヌ シヨード
卒業してね、 学校でも ほら 農家に しようと

オモッタダエッチャ、コーケーシャネ。ソレデ コンド X1ダイカ° グサ
おもったんだろうね、 後継者ね。 それで 今度 X1 大学に

ニネン。(C ハ一) イチゴセンモンネ。(C ア一 ソーナンデ) ソシテ
二年。(C は一) イチゴ専門ね。(C あ一 そうなんで) そして

ソズキ° ヨーシテチタノ シカ° ツ ヤハリネ。ソシタツケ ログカ° ズヌ
卒業してきたの 四月 やはりね。そうしたら 六月に

オトーサン チチオヤガ ナグナッテワ、イチネングライ
お父さん 父親が 亡くなってね、一年ぐらい

オシエデモラウデガッダナハー ナンテネ。ンダッテ ダメダッチャワー、
教えてもらいたかったなー なんてね。だって だめでしょうよ、

ハウスワ ネーベスワ。{笑} ナンヌモ ツグランネベ
[イチゴの]ハウスは ないし。 {笑} なんにも つくれないだろう

ホレデワ。

それでは。

003 A : コノヒトノ ハウスモ ソゴ ズーット アッタノ。
このひとの ハウスも そこ[に] ずーっと あったの。

004 B : コゴ ソーコノ オッグリワ ミナ アッタノ。
ここ 倉庫の 並びは みんな あったの。

005 A : ホンダケッドモ ド アレ ホンデモネ
それだけれど × あれ それでもね

006 B : ゴジューネングレ (A ホノ) イチゴ ツグッタネ。
五十年くらい (A その) イチゴ 作ったね。

007 A : ノーチャー アッタガラ コツツノホー タスカッタノ。
農協 あったから こっちの方 助かったの。

008 B : ノーチャーノ カゲ ニシノ ヒトタズワネ ソンナヌ (A ナンデモネー)
農協の かげ 西の 人たちはね そんなに (A なんでもない)

コゴワ ウエギ ツグ ウエギ ウエタッタガラ ウズデネ。ブロックデワ
ここは 植木 ×× 植木 植えていたから うちでね。ブロックでは

タオレルutte ユーガラ ホラ ウエギダガラ ノジマデ (A ホーダネ)
倒れるって いうから ほら 植木だから 軒まで (A そうだねー)

アライデ タマッダンダワネ。 ハイッデカ ンネダドワ。 (A アー モー)
私の家で たまったんだね。 入っていけないんだよ。 (A あー もう)

ダーメジャー) ダメナンダッデワ コランネガ コネッチャワー
だめだよ) だめなんだったよ ××××× 来ないでしょう

サンカケ° ズモ。 タマタマ (A ウン) キタケンドモ (A ウンウンウンウンウン)
三か月も。 たまたま (A うん) 来たけれども (A うんうんうんうんうん)

ヤサイツクルヌ。 バーチャン イッタラ コシヌゲッガラ
野菜作りに。 ばあちゃん 行ったら 腰ぬけるから

イカ° ンネワーナンタッテ ハー ホントヌネー。 ソシテ
行けないよなんていったって はー 本当にね。 そして

009 A : イヤイヤ ホントヌ
いやいや 本当に

010 B : デ シナンジョガラ ホンデモ マコ° ワネ イチネングレ トリノウミノ
で 避難所から それでも 孫はね 一年ぐらい 鳥の海の

ホラ コージネ カサアケ° ネ イチネングレー シナンジョガラ カヨッタネ。
ほら 工事ね かさ上げね 一年ぐらい 避難所から 通ったね。

ソシテ サンカケ° ツグライデ コゴサ ダイクサン。
そして 三ヶ月くらいで ここに 大工さん[来た]。

011 A : サンカケ° ツデ チタカヤ コゴサ。
三ヶ月で 来たかよ ここに[大工さんが]。

012 B : オレ サンカケ° ツ。 ロク° カ° ツノ ハツカゴロ チタノ。
うち 三か月。 六月の 二十日ごろ 来たの。

013 A : ンダノ。 ンー
そうなの。 んー

014 B : マダ ダイクサン デキネータッテ ミナ カンベ ミンナ
まだ 大工さん [作業]できないといっても みんな 壁 みんな

亙理町 自由会話

オドシタンダガラ、ゼンブ。ゼンブ ナンヌモ ナインダガラ、
落としたんだから、全部。 全部 なんにも ないんだから、

コノ イダノマモ ミナ。タダミダガラ ミナ アレダッチャワ ンデ
この 板の間も 全部。畳だから みんな あれでしょう それでは

(A ンダサワ ナヌモ) ソッチモ ミナ イダメ ハッタンダ ベズヌ
(A そうでしょう 何も) そっちも みんな 床板 はったんだ 別に

ミナ。 タダミ ゼンブ ハッテ。コイガ アナダラゲナンダ ホント
みんな。畳 全部 張って。これが 穴だらけなんだ 本当に

ドコガガ コノヘンモ アナ オッキナ アナ アガッテワ、
どこかが このへんも 穴 大きな 穴 開いてね、

ミランネガッダワ。イダメダベス チッタッテ。
見られなかったよ。板目だし 来ていたって。

015A : ンデ コノ ナガトロハマデ (B ン) ナク° ナッダヒトワ (B ンデモ)
それで この 長瀬浜で (B ん) 亡くなった人は (B それでも)

ジューサンヌン アルッテ。(C アー ソーナンデスカ)
十三人 あるって。(C あー そうなんですか)

016B : ニシャクニジュッケンク° レー アッダンダッテ コノ ブラグワネ。
二百二十軒くらい あったんだって この 部落はね。

モドッテクレンノカ° シャクニジュッケンク° レダガナーッテユーノワネ。
戻ってこられるのが 百二十軒くらいかなーっていうのよね。

アド ホラ マーダ コワサナイデ タッデッドコワ ローンカ°
あと ほら まだ 壊さないで 建ってる場所は ローンが

ノゴッテルンダッテ。ソレデー カイタイスットワ コンド タイヘンダガラワー
残ってるんだって。それで 解体するとね 今度 大変だからね

亶理町 自由会話

ソノウズナオシテ ハイルーッテネ マダ ツク ナオサネノネー。
そのうち直して 入るってね まだ ×× 直さないのね。

ナガナガ マエノ ウズデモ マダ
なかなか 前の 家でも まだ

017A : デモ ソロソロ ムゴノホー (B ンー) ナオシテッガラナ。
でも そろそろ 向こうのほう (B んー) 直してるからね。

018B : ダイクサン (A ウン ウン) ハイッテッカラネ。ンデモ ダイクサンモ イマ
大工さん (A うん うん) 入ってるからね。それでも 大工さんも 今

タガインダッテワ コンド。
高いんだってね 今度。

019A : ウズモー ホントヌ ヨグヨグダ。 ウズワ、ンー。
うちも 本当に よくよく[残ったん]だ。 うちは、んー。

020B : ンダネー。 ミナ (A ンー) トナリモ ズット ナガレテ (A ンー)
そうだねー。みんな (A うん) 隣も ずっと 流れて (A うん)

ネーベスワ。 ンデモナーー
ないだろうし。それでもなあ

021A : コノヒトノ コノ トナリノウズネ (B ナガレダランダワ) フルイーナデ
このひとの この 隣の家ね (B 流れたんだよ) 古いので

ヨンジューネングレ ナッカワナ (B ナッペワナ) アノウズナ。 ホイズ オ
四十年くらい なるかな (B なるだろうね) あの家ね。 それ ×

022B : キッケ ネワナ。 オライノ ズーチャン タデダ ウズダッダノ。
悉皆 ないよな。私の家の じいちゃん[が] 建てた 家だったの。

(A ンダガラ ホンデ) オライデ ニダイ ダイクサンダッタノ。

(A そうなの それで) 私の家で 二代 大工さんだったの。

亙理町 自由会話

トッショリズーチャントネ、オッペジッチャント ホラ (A ー) フタリ。
年寄りじいちゃんね、 ひいじいちゃんと ほら (A うん) ふたり。

ムスコワ タガアガリ ヤンダ、コワクテ アガランネンダトステ ナンヌズガ
息子は 高いところ 嫌だ、怖くて 上がれないんだとって 何日か

アルッタゲンドモ ダイクニ ナンネガッダノ。(A アラララー)
歩いたけれども 大工に ならなかったの。(A あららら)

ソーステ クルマノリナントバリ スッタガラ ウンテンス スタリ
そうして 車乗りなんかばかり していたから 運転手 したり

ソノアイマ ホラ シャクショー スッタペー、 イジコ° ツグッダリデワ。
その合間 ほら 百姓 しているでしょう、イチゴ 作ったりでさ。

ンダガラ カラダモ アレー ヤッパリ カンゾーカ° ンガ ナヌガ
それだから 体も あれ やっぱり 肝臓がんか 何か

ナンダッダンドワッテ。チョーチョリナントバリステ アルッタペー
なんだったんだって。長距離などばかりして 歩いたでしょう

リクソーナントデナ、ホントヌ。ソステワ マコ° ダズワ シトグミワ
陸送などでね、 本当に。そしてね 孫たちは 一組は

アラハマダガラネ、アラハマショーカ° ッコーダッダガラ ウズモ ナガレデ
荒浜だからね、 荒浜小学校だったから 家も 流れて

ネースワ。(C ハー) イマ ホイクショネ。(C ー) ステ ホラ
ないしね。(C はー) 今 保育所ね。(C うん) そして ほら

カセツサ ハイッタカラワ、ワダリコーコーノ シタノ カセツネ。(C ハイ)
仮設に 入ったからね、 亙理高校の 下の 仮設ね。(C はい)

アド シトリワ ニガイサ スンデダンドゲンドモ コンドワ
あと 一人は 二階に 住んでいたんだけども 今度は

互理町 自由会話

イレランネート オカーサンヌサ ドグリズスネデ ダメダガラッデ
入れられないと お母さんにさ 独立しないで[は] だめだからって

ソレモ カセズサ ハイッテ フタグミ カセズサ ハイッテンノヌ。ソシテ
それも 仮設に 入って 二組 仮設に 入ってるのね。そして

カセツ セマッコクテ フトンモ ナヌモ オグトゴ ナインダッテワ。
仮設 狭くて 布団も 何も 置くところ ないんだってよ。

イマ アッダガクナッテ。(C アー) ミナ モッテチテ (C ハー) ザスギ
今 暖かくなって。(C あー) 全部 持ってきて (C はー) 座敷

イッパイ {笑} フトンダラゲ、コンド。コダズモ イラネ フトンモ イラネ
いっぱい {笑} 布団だらけ、今度。こたつも いらぬ 布団も いらぬ

ナーンダヤナンツッタノ ケサモ。ンダッテ オク。ドゴネーモノナンテ
なんだよなんて言ったの 今朝も。だって 置くところないものなんて

(A ウン) セマイガラ。

(A うん) 狭いから。

023A : ドゴデモ ホーダッチャ。

どこでも そうじゃない。

024B : ンダガラ ホンデモ ホラ マゴダズ チテモ コゴ シロイガラ (A ウン

それだから それでも ほら 孫たち 来ても ここ 広いから (A うん

ウン ダナワ) ジデンシヤ モッテチッダカラワ (A ウン) ヤッパリ

うん だよね) 自転車 持ってきてたからね (A ウン) やっぱり

ジデンシヤダノ カッダンダッタガ (A ウン) ノゴッテタンダッタガネ、

自転車だの 買ったんだったか (A ウン) 残っていたんだったかね、

(A ウン ウン) ココ ソレデ イッショーケンメー アソンデアルグンダネ。

(A うん うん) ここ それで 一生懸命 遊んで回るんだね。

(A ンダッチャナ) カエツデクツド。ドヨーニチヨービネー。チョーワ

(A そうだろうね) 帰ってくると。土曜日曜日ね。今日は

イワヌマデー (A ウン) トガッデ (A ウン) アシ ダガラ。

岩沼で (A うん) とかって (A うん) ×× だから。

025A : イヤイヤ ホント ヒンドイガッダ。

いやいや 本当 ひどかった。

026B : イマワ サンニン ダゲダガラワ (A ウン) オカーサント マゴドネ ワダシド

今は 三人 だけだからね (A うん) お母さんと 孫とね 私と

サンニンセーガスダガラ ラゲンナッダワ。{笑}

三人生活だから 楽になったよ。{笑}

027A : ホンデモ ヤマカ° ダアダリワ ナンデモネガッダ。[1]

それでも 山形あたりは 何でもなかった?

028C : ナンデモナカッタデスネー。ハイ。(A ウーン)

なんでもなかったですねー。はい。(A うーん)

029B : デモ コゴワ ンデモ テレビ ミット マダ ヒドイヨーダネー (C ア)

でも ここは それでも テレビ 見ると まだ ひどいようだね (C あ)

チューシューアタリネー (C ア イマ ソーウデスネー) (A イマ) アメネ。

九州あたりね (C あ 今 そうですね) (A 今) 雨ね。

ツナミヨッカ シドイヨーダネ。

津波よりも ひどいようだね。

030A : オドケ° デネー ンダネヤ アメ マイヌズネ。

とてつもないんだね 雨 毎日ね。

031B : アメ ネー ンダネー (A ウン) マイヌズ ミッカモヨッカモネー。(A ウン)

雨 ないんだね (A うん) 毎日 三日も四日もねー。(A うん)

ンダーガラ) コゴ イッパイ ンダガラネ ウエジダノ アッタノサ
本当に) ここ ずっと それだからね 植木とか あったのね

コゴ ニワネ。(C ウン) ユズノキデモ カギヌギデモ {笑}
ここ 庭ね。(C うん) 柚子の木でも 柿の木でも {笑}

マズヌギデモ {笑}
松の木でも {笑}

032A : ホンデモ コツツデ ナンボンナレ アツカラ イーツチャネヤ。
それでも こっちで[は] いくらなり あるから いいじゃないか。

033B : イッポン ノコッタダッチャ ホレ。
一本 のこったんだよ ほら。

034A : オライデナンテ ロージモ ナヌモ スツパリ ネー {笑}
私の家でなんて 路地も なにも さっぱり ない {笑}

ウエジダッデ ナンダッデ ズイブンヌ アンノ。
植木だって なんだって ずいぶんにあるの。

035B : アレ シオミズダガラワネ (A マズデモ ナンデモ イッペー) ダメダーツデ。
あれ 塩水だからね (A 松でも 何でも いっぱい) だめだって。

036A : ソイズ ミナ ナガレダオンワネヤ、ワカ°ンメーワ。ホンデモ コツツデ
それ みんな 流れたものね、 だめだろうよ。 それでも こっちで

ナンボナリ イーンダ。
いくらなり いいんだ。

037B : コレ ハナ アズベデ ウエダノ (A ウン) クサバナ タネカッテワ
これ 花 集めて 植えたの (A うん) 草花[の] 種買ってさ

マイダノヤ。(A ウン) ンダッテ ナンヌモ ネーンダモノー。 モミジダノ
まいたのよ。(A うん) だって 何にも ないんだもの。 紅葉だの

(A ホントダネ) ユズダノ (A ウン ウン) イヤ チンモクセーダ
(A 本当だね) 柚子だの (A うん うん) いや 金木犀や

ジンモクセー {笑} アッタノヌナー。 ナーヌ
ギンモクセイ {笑} あったのにな。 何

038A : ホンデモ コノ バーチャンワ (C ウン) ハナ スジデ コレ {笑}
それでも この ばあちゃんは (C うん) 花 好きで これ {笑}

ミナ ズーット ウエデオンダッチャワ ホラ。ミナ コイナサ
みんな ずーっと 植えておくんだよ ほら。みんな こういうものに

オッチナ ウエギ ウワッテ アッタノナ。 (B ウーニー) ホイズ ミナ
大きな 植木 植わって あったのね。 (B うーん) それ みんな

カキヌキダ ナンダッテ アッダндаゲンドモ。
柿の木やら 何だと あったんだけども。

039B : カギダノ マズ アッタンダゲントモ {咳ばらい} イッポンモ ナイモノワ。
柿とか 松 あったんだけども {咳ばらい} 一本も ないものね。

チューイフルーツ (A ナガレダガラワナ ミナナ) ネー。
キウイフルーツ (A 流れたからね みんなね) ねー。

カギヌギ ゴロッパシ アッタノネ。ヤッパシ ムガシノ バーチャンダズ
柿の木 五、六本 あったのね。やっぱり 昔の おばあちゃんたち

(A ホダ) カギ ヤママデ ザオーチョーマデ カウサ イッタンダッテ
(A そうだ) 柿[を] 山まで 蔵王町まで 買いに 行ったんだって

ムガシ。 (A アー) ソレオ ホシクテ カジ ウエタンダッテ、
昔。 (A あ) それを[=が] 欲しくて 柿 植えたんだって、

チ。 ダガラ ゴログジューネン ナッタガラワ スゴク
木[を]。だから 五六十一年[に] なったからね すごく

ナッタノサワ マイネンネ。(A ウンウン)

[実が]なったんだよ 毎年ね。(A うんうん)

ダガラ トナリデ イマ ウエッタгентモ (A ウンウン)

だから 隣で 今 植えているけれども (A うんうん)

チョックラニ ナンネベワ。(A ウン) ジューネント ナンボ
ちょっと[の時間では] ならないだろうな。(A うん) 十年と いくらか

(A ンダネー) カガッペワ。 カジワ (A ウン) モモクリサンネン

(A そうだね) かかるだろうな。柿は (A うん) 桃栗三年

ナンツгентモ、 カギハズネンナンテナ (A ナンヌモネーワ オライデ
なんていうけれども、柿八年なんてね (A なんにもないわ 私の家で[は]

ホナ) ナンヌモワナ。(A ウン) {咳ばらい}

そんなの) 何にもね。(A うん) {咳ばらい}

ナンヌモ ネーワナー。

何にも ないね。

宮城県亶理郡亶理町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ヤマカ° ダアダリワ ナンデモネガッダ

調査者（C）は山形県の出身であるため、山形のことを聞いている。

宮城県亶理郡亶理町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程1年）
柴田 充（東北大学文学部3年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）
柴田 充（東北大学文学部3年）

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡亶理町① —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡亶理町長瀬

収録日時 2012（平成24）年7月14日

収録場所 宮城県亶理郡亶理町長瀬（話者B宅）

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	女	1925（大正14）年	（収録時87歳）	[Bの友人]
B	女	1929（昭和4）年	（収録時83歳）	[Aの友人]

話者出身地

A	亶理町亶理（ワタリ）
B	亶理町長瀬浜（ナガトロハマ）

【場面設定会話】

話し手

A 女 1925 (大正 14) 年 (収録時 87 歳)

B 女 1929 (昭和 4) 年 (収録時 83 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : オハヨー。ナヌ ナニ シッタドゴ。

おはよう。×× 何 しているところ？

002B : ハイ、ハエゴダ。ドゴサ イッテキタノー。

はい、早いこと。どこに 行ってきたの？

003A : ナーンダイ オレダッテ アルグドゴバリ アルンダー。

何だい 私だって 歩いてまわるところばかり あるんだ。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : ナンダ シルアガリ [1] ガワー。ナンダ シルマニ ナッタノガワー。

何だ 昼上がりかよ。 何だ 昼間に なったのかよ。

002B : ハヤイゴダ、ヒルマダワナー。

早いこと、 昼間だね。

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001A : バンケ° ニ ナッタワ コレー。ナー。(B イズヌズ)

晩に なったな これ。 ねえ。(B 一日)

ジョサネモンダー、イズヌズバリ クラスノナー。

容易なものだ、 一日ばかり 暮らすのね。

002B : ゴハン クッテヤ、ハヤグ ゴハン クッテ ネットペワ。

ご飯 食べてさ、早く ご飯を 食べて 寝ようよ。

互理町① 場面設定会話

003A : ナンズヌ ネンノ。
何時に 寝るの？

004B : ハズッタナー。 {笑}
8時だな。 {笑}

005A : アー、オラー ログズツツードワ トゴサ ヘールワ。オユサ ヘッテワ。
ああ、私は 6時というとき 床に 入るわ。 お湯に 入ってさ。

(B ウワ) {笑} ネムランネгентモナー。

(B うわ) {笑} 眠れないんだけどもね。

006B : ンー。
うん。

007A : ンー。
うん。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すBと会い、Bの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : ケサ イモホリ シテチタンダー。
今朝 芋掘り してきたんだ。

002A : ホー一、イモホリ。ウワッタノワー。
ほう、 芋掘り？ 植えてあるの？

003B : ウン。
うん。

004A : アー一、ズイブヌ オメー ナニシテモ ウマイガラナー。
あー、 ずいぶんあなた 何しても 上手だからな。

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているBに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : ナニシッタダ コラー。
何しているんだ これ。

002B : オレ クサトリ シッタダгентモヤー。
私 草取り しているんだけども。

003A : ンダ。 ンデ、 オジャデモ ノンデッタラ イーンデネガ。
そうか。それじゃ、お茶でも 飲んでいったら いいんじゃないか。

004B : ハイ、アリガドー。
はい、ありがとう。

005A : ナー。イソガシーガ。
ねー。忙しいか。

006B : アッズイガラ イーワ、ノムベー。
暑いから いいわ、飲もう。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。〔2〕

001A : ナニシッタダヤー、Bチャンヤ。ナニシッタノー、キョー。
何しているのよ、 Bちゃんや。何していたの、 今日。

002B : キョーワ ナンヌモスネー。 {笑}
今日は 何もしない。 {笑}

003A : ナンヌモスネー。
何もしない？

004B : ウン。
うん。

互理町① 場面設定会話

005A : スネゴツタラ、 ンデ、 ヘツテ シャベツテッタラ イガンベ、
 しないんだったら、それじゃ、入って 喋ってったら いいじゃないか、

 ナーガー。
 中。

006B : ンダネー。
 そうだね。

007A : ハナスー ナンヌモネーダツテ ナヌガ デデクッペー。
 話[が] 何もないといったって 何か 出てくるだろう。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) BがAにスコップを借りるときのやりとり。(Aが貸す場合)

001B : Aチャン。
 Aちゃん。

002A : アイヨー。
 はいよ。

003B : ゴミハラエ [3] スツカラ スッコップ カシテケセー。
 ゴミ払い するから スッコップ 貸してください。

004A : アイヨー、ドーズ ツカッテクナエ。
 はいよ、 どうぞ 使ってください。

〈 お礼 〉

(8) Bが借りたスコップをAに返しに行ったときのやりとり。

001B : オワッタガラ モツテチタンワ。ドーモ アリガドゴザイマシター。
 終わったから 持ってきたんだ。どうも ありがとうございました。

002A : アヤ、ンダガー。 ンデ、 オジャデモ ノンデッタラ インデネーガー、
 あら、そうか。 それじゃ、お茶でも 飲んでいったら いいんで[は]ないか、

オジャ。ナンヌモ ネーダッテ オジャグライ アット。 [4]
お茶。何も なくたって お茶ぐらい あるぞ。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) BがAに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Aが構わないという場合。

001B : アノサー、エー ヌゲダндаワヤ。

あのさ、 柄 抜けたんだよ。

002A : エー ヌゲダ。

柄 抜けた？

003B : ウン。

うん。

004A : インデ ナンジョスレバ イーンダ。

それで どうすれば いいんだ？

005B : カンヌンステケセワー。

堪忍してくださいよ。

006A : イーガラー。オライノ ムスコ インマエガラ ソイナノワ、 ツグリガタ。

いいから。 私の家の 息子 上手だから そうというのは、作るの[が]。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001B : オラエデ ナオスシト ネーガラ シャーネナ [5] ボッコレツダндаガラワ。

私の家に 直す人 いないから 仕方ないな 壊れているんだからさ。

ナオステケセー、スッカダナイ。 {笑}

直してください、仕方ない。 {笑}

002A : インダナー、ナオシテケツズワ、シャーナイ。

そうだな、直してやるよ、 しょうがない。

〈 誘いと断り 〉

(10) BがAを温泉に誘う際のやりとり。

001A : ナンダ。

何だ？

002B : コンドサー (A ンー) オンセンサ エク° ンダッテサー。

今度さ (A うん) 温泉に 行くんだってさ。

003A : アー。

あー。

004B : Aチャン、エカ° レッケー。

Aちゃん、行けるかい？

005A : イカ° レル。ナンノ オンシェンツード イカ° セ イカ° セッテ
行ける。 何 温泉というと 行きなさい 行きなさいって

ヤレル。 イーガラ イッテゴゼー、 ドゴデモ。イマスコシナンダガラワ、
言われる。いいから 行ってきてください、どこでも。もう少しなんだからさ、

ナカ° イギシタッテ ホダナ ネーナンダガラワ。イガセ イガセ、
長生きしたって そんなに ないんだからさ。行きなさい 行きなさい、

アルガイデル ウズワー ドゴサデモ アルゲーッテ ヤレル。 [6]
歩けている うちほ どこにでも 歩けて 言われる。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Aが体の調子を尋ねる際のやりとり。

001B : オレサー、グエー ワレクテ ネットンダヤー。カジェ ヒーダンダナー。

俺さ、 具合 悪くて 寝ていたんだよ。風邪 引いたんだな。

002A : ナーンジャ オマエ。ウスギデバリ イッガラ ホイナンダ、ナンデモ。

何だ おまえ。薄着でばかり いるから そうなんだ、何でも。

互理町① 場面設定会話

アズイド オモッテ カラダ ユルシテ [?] ダメナノ。
暑いと 思って 体 [気を] 許して[は] だめなの。

ナンデモ ホイナノ。ハダゲサ イク° ダッテ ドゴサ イク° ダッテ
何でも そうなの。畑に 行くんだって どこに 行くんだって

ホノ モッテアルガネクテネンダ。 カラダサ シュッシュスルナード
その 持って歩かなくちゃいけないんだ。体× すーすーするなあと

オモウドギ チテ ホイデ ハダラガセ。
思うとき 着て それで 働きなさい。

003B : ハイ アリガドー。
はい ありがとう。

(11-1) Aが入院していてAの調子がいい場合。

001B : ドゴ ワレクテ ニューインシタッタノー。
どこ 悪くて 入院しているの。

002A : アー オレガー。ナー イー スコシ ワレグシタンダヤー。
あー 私か? なー 胃 [を] 少し 悪くしたんだよ。

イー ワレクテー クスリ ノンダダゲントモ ダメダ、コンデワ、
胃 悪くて 薬 飲んだんだけども だめだ、これでは、

ニューインスネデ ワガンネッチャッテ ニューインシタンダー。
入院しないで[は] だめだと[医者に]言われて 入院したんだ。

003B : チーッタンダゲントモヨー ナンダガ クルシマ ネンデモネーダゲントモ
聞いていたんだけどもよ 何だか 来る暇 なくもないんだけども

ナガグ ナッテスマッタワー。
長く なってしまったわ。

亘理町① 場面設定会話

004A : ホダゴド カマネー。ホダゴド カマネンダー。ナーヌ カオサエ
そんなこと 構わない。そんなこと 構わないんだ。何 顔さえ

ミシェデケレバ イーンダ。{笑} マサガ カオモ ミシェナイド
見せてくれれば いいんだ。{笑} まさか 顔も 見せないと

サビスイモンデナー。
寂しいものでね。

(11-2) 入院しているAの調子が悪い場合。

001B : ヨグナンネノゲー。
よくなるのかい。

002A : ナガナガナヤー、ナガナガ ホンナ イード オモッタツケ ナンダガ
なかなかね、 なかなか そんな いいと 思っていたけど 何だか

ナガナガ ナオラネンダドヤー。ンダガラ スコス モヨー ミッペワー。
なかなか 治らないんだとさ。だから 少し 様子 見よう。

イク° デードゴ アッタッテ スコス ガマンスルワー。
行きたいところ あったって 少し 我慢するわ。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が)片付けてやろう」
というときのやりとり。

001B : ナシテ アス イッダグスタノー。
どうして 足 痛めたの？

002A : ワー アンマリ アギネーアルッテ [8] イーマー
あー あまり 商いに歩いて 今

タダリナンダベ [9] コラー。ナーヌー リョーホーノ アス
[無理が] たたったものなんだろう これは。何 両方の 足

亙理町① 場面設定会話

イデーндаモ。

痛いんだもの。

003B : ホンデー ホノマワリ カダズゲデケッケー。

それじゃ その周り 片付けてやるかい？

004A : アー。ンダッテナー ワリガラナー。ホンデモ オラエノ ヒトダ テマメナー

あー。それだってな 悪いからな。 それでも 私の家の 人たち まめなの[が]

チャッチャッチャッチャドヤ カダズゲデッカラヨー。

ちやつちやつちやつちやつとさ 片付けているからさ。

005B : ンデー ジゲワー。 [10]

それじゃ いいかい。

006A : アー イーワー。イーガラー。

あー いいわ。 いいから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違っ捨てようとしているときに、Aがそれを
制止してどのようにいうか。

001A : ナンダ オメー シャスン ナンダ コラ コノ リッパナ シャスン

何だ あなた 写真 何だ これ この 立派な 写真

ナゲル。 ナンサ ナゲルンダ コラ。シャスンツーモノ ダイズヌシテ

捨てる？ 何で 捨てるんだ これ。写真というの [は] 大事にして

モッテナクテネーндаド。

持ってなくてはいけないんだ。

002B : ハイ、ワガッタ。

はい、わかった。

宮城県巨理郡巨理町①方言会話集（場面設定会話）注記

- [1] ナンダ シルアガリガワー。
「シルアガリ」は「昼上がり」で、昼で仕事を終えること。
- [2] 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。
001Aのみ、AがB宅を訪問する発話になっている。
- [3] ゴミハラエ
「ごみ払い」で小堀や側溝などの堆積物をすくい上げて、きれいにさらうこと。
- [4] アット
「アル」＋「ト」で、「ト」は共通語の終助詞「ぞ」に相当する。「ド」「ツォ」などと発音されることもある。
- [5] シャーナエ、シャーネナ
(9-2)の「シャーネナ」（仕方がないな）は「スシャーネ」のように、語の初めにsの音が重なっているように聞こえる。(9-1)にはあまりsの音は聞こえないが、このsの音が入るか入らないかについて、現地の話者の内省では、sの音が入ると強調した感じになるとのこと。なお、語の頭にsの音が入るものは、ほかに「知らない」が「スシャネ」のように発音されるようなものが見られる。
- [6] ドゴサデモ アルゲーッテ ヤレル。
家の人からどこにでも出て歩きなさいと言われるので、一緒に温泉に行くことができるという意味での発言。
- [7] カラダ ユルシテ
「体（を）許す」ではなく、「体について気を許す（油断する）」を短く言ったもの。古くから居住している吉田地区（長瀬を含む地域）では、このように省略した言い方をすることが多いとのことである。
- [8] アギネーアルッテ
「商いに歩き回って」の意。話者Aは若い頃から遠方まで行商に出歩いていた。
- [9] タダリ

「崇り」のこと。ここでは行商で無理をした報いという意味。

[10] ジゲワー

「イー（良い）」が摩擦音化して「ジー」となることがある。同様に、「ユー（言う）」が「ズー」となることもある。

宮城県亶理郡亶理町①方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）
柴田 充（東北大学文学部 3年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 2年）
袁 曉犇（東北大学大学院文学研究科博士前期課程 1年）

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡亶理町② —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点	宮城県亶理郡亶理町荒浜				
収録日時	2012（平成24）年7月18日				
収録場所	宮城県亶理郡亶理町荒浜（話者B宅）				
話題	【場面設定会話】 全11場面				
話者	A	女	1931（昭和6）年	（収録時80歳）	[Bの姉]
	B	女	1941（昭和16）年	（収録時71歳）	[Aの妹]
	C	男	1956（昭和31）年	（収録時56歳）	[A・Bの親戚]
話者出身地	A	亶理町荒浜（アラハマ）			
	B	亶理町荒浜（アラハマ）			
	C	亶理町荒浜（アラハマ）			

【場面設定会話】

話し手

A	女	1931 (昭和 6) 年	(収録時 80 歳)
B	女	1941 (昭和 16) 年	(収録時 71 歳)
C	男	1956 (昭和 31) 年	(収録時 56 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 C : オハヨガスー。

おはようございます。

002 B : オハヨーゴザリスー。

おはようございます。

003 C : キョー ナンスンノ。イマカラ ドコカ ビョーインサ イグノガ。

今日 何するの。 今から どこか 病院に 行くのか。

004 A : キョー ハタ アサカラ マナグ アグド クッチャグルマデヤ [1]

今日 ×× 朝から 目 開くと 目をつぶるまでさ

クサムスリダ。

草むしりだ。

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

なし [2]

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001 A : オメーデ ナニ バンゲ クーノ。

おまえの家で 何 夕食 食べるの？

002 B : ンー チョー ナンカ アルモノ クーベッチャワー。アド オライデ

んー 今日 何か あるもの 食うだろうさ。 あと 私の家で

互理町② 場面設定会話

ヨメサン ナニガ カツテクッペガラー オレ チョー コシエ。 [3]
お嫁さん 何か 買ってくるだろうから 私 今日 つくらない。

〈 ねぎらい 〉

(4) Aが仕事に精を出すB、Cと会い、労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。
なし [2]

〈 勧め 〉

(5) Aが、仕事をしているCに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001A : チョココラ イー。 ンデ ジュースデモ ノンダラ イーンデネノ。
ちょっと いい? それでは ジュースでも 飲んだら いいんじゃないの。

ヤスンデイッター。ホンナニ シカシカ カシエガネデ。
やすんでいったら? そんなに せかせか 働かないで。

002C : アリガドサーン。
ありがとさん。

〈 訪問時の声掛け 〉

(6) 昼間、CがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001C : ナヌ スッターノー。イダゲー。
何 しているの。いるかい?

002A : イダヨー。ナンヌモステネー。オジャ ノンデイッターライツチャ。
いるよー。何にもしてない。お茶 飲んでいったらいいじゃない。

003C : ハーイ アリガドー。
はーい ありがとう。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) AがCにスコップを借りるときのやりとり。(Cが貸す場合)

001A : チョックラ ナンボ サガシテモ ネーガラ シャブロカサネ シャブロ。
ちよつと いくら 探しても ないから スコップ貸さない? スコップ。

002C : ケンスコガー— カグスコガ (A ケンスコ) ドツツヤー。
とがったのか 四角いのか (A とがったの) どっちだ?

003A : ケンスコ。 カッセー。
とがったの。貸してください。

004C : イッチョデ イーノガー。
ひとつで いいのか。

〈 お礼 〉

(8) Aが借りたスコップをCに返しに行ったときのやりとり。

001A : オワッタガラ モツテキタワ。ドーモアリガドネ、 タスカッタガラ。
終わったから 持ってきたよ。どうもありがとうね、助かったから。

002C : ナンサ ツカッタノー。
何に 使ったの?

003A : アノー、ゴミ シメンノヌ ハダゲサ アナホンノヌ。
あの、 ごみ 埋めるのに 畑に 穴掘るのに。

004C : ンダガー。
そうか。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) AがCに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Cが構わないという場合。

001A : アンマリ イギオイイグ ツカッタガラ—、アノー—、アイズ
あんまり 勢いよく 使ったから、 あの、 あれ

オレデスマッター。

折れてしまったわ。

002B : エー オレダノワ。

柄 折れたのか？

003A : エー オレダガラワー、ゴメンネ。アド カッテヤッカラ。

柄 折れたからさ、ごめんね。あと [=じゃ] 買ってやるから。

004C : イーガラ。イー エー トッケレバ インダガラ カウゴドモネーエー。

いいから。×× 柄 取りかえれば いいんだから 買うこともない。

アド ド ドーセ フルグナッテヤンダガラ コイズ トッケレバ

あと × どうせ 古くなってたんだから これ 取りかえれば

イーインダガラ。

いいんだから。

005A : ゴメンネー。

ごめんね。

006C : アイヨー。

はいよ。

(9-2) Cが破損に対して不満を述べる場合。

001C : ナンデ ボッチョッテッシャー [4] チヤント マエヨー。 カッテカエセ。

何で 壊して ちゃんと 弁償しろよ。買って返せ。

002A : アード カッテヤッガラ。

あと [=じゃ] 買ってやるから。

〈 誘いと断り 〉

(10) CがBを盆踊りに誘う際のやりとり。

001C : ナヌ スッタノー。イダゲーイ。チョー ハコネダノ ポンオドリアツカラ
何 しているの。 いるかい。 今日 箱根田の 盆踊りあるから

イッシヨニ イガネガエ。
一緒に 行かないかい？

002B : アーヤー、ツゴーツグドギ イク° ベツチャ。
あらー、 都合つくとき 行くだらうさ。

003C : ボンオドリデー ショーシン デルンダドガラ イットーショーサ
盆踊りで 賞品 出るんだというから 一等賞に

(B ウン。ナンダガ) ショーシン デルンダドガラ ハヤグ イバイン。
(B うん。何だか) 賞品 出るんだというから 早く 行こう。

004B : インデモ ナンダガ コス イデクテワ、 [5] オドラネガモシャネー。
それでも 何だか 腰 痛くてさ、 踊れないかもしれない。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているBに、Cが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Bの調子が悪い場合。

001C : コンヌズワー。ナンダー、ダイジョブナノガー。
こんにちは。 何だ、 大丈夫なのか？

002B : ダイジョブデネ。ナンダガ クスリ ノンデルンダゲントモ ナガナガ
大丈夫じゃない。何だか 薬 飲んでるんだけども なかなか

イグナンネクテ。
よくならなくて。

003C : アーー ンダガ。タマコ° (A ンー) カツテキタガラ タマコ°
あー そうか。卵 (A んー) 買ってきたから 卵

クエヤ、コイズ。

食えよ、これ。

004B : ハーイ。ドーモアリガドネー。

はい。どうもありがとうね。

005C : アー、ダイジニスッセー。

あー、大事にきなさい。

006B : アーイ。

はい。

(11-2) Bの調子がいい場合。

001C : ナンダ ナオッタガワー。

何だ 治ったかよ。

002B : ハーイ。アノー、オガゲサンデ タマコ° クッタガラダガナンダガ

はい。あの、おかげさまで 卵 食べたからだか何だか

ゲンチイーグ ナッタオン。

元気よく なったもの。

003C : アー ナニヨリダ (B ンー) ナニヨリダー。

あー 何よりだ (B うん) 何よりだ。

004B : ンダワ。ドーモアリガドガシタ。 オガゲサンデ。

そうだよ。どうもありがとうございました。おかげさまで。

005C : ハイ、ドーモ。

はい、どうも。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというCに、Bが「(私が)片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : カタズゲ オワッタノワー。
片づけ 終わったの？

002C : ダーメダ、グアエ ワレクテアー。
だめだ、 具合 悪くて。

003B : アヤー、ンデ ナンボガ テズダッテイク°ベ。オレ タカ°ガレルモノ
あー、それでは いくらか 手伝っていこう。 私 持てるもの

アッゴッタラ タカ°イデ スケツペヤ。
あるなら 持って 助けようか。

004C : ア--- タノムガラ---

あ--- 頼むから。

005B : ムリ ス スンナネー。
無理 × するなね。

006C : ハイ。
はい。

007B : タカ°ガレルヨーナモノ アットギ オレ オデッテシテク°ツチャ。
持てるようなもの あるとき 私 お手伝いしていくよ。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違っ捨てようとしているときに、Cがそれを制止してどのようにいうか。

001C : アヤヤヤ ホイズ ナゲデ ワガンネ---

あららら それ 捨てて[は] だめだ。

002B : アヤ ンダノ。
あら そうなの。

互理町② 場面設定会話

003C : ンー。

うん。

004B : オラ フルイド オモッタガラ イラネンダベドオモッテヤ。

私 古いと 思ったから 要らないだろうと思ってさ。

ゴミダラゲンナッテダガラ。

ごみだらけになっているから。

005C : アー、ホイズ ズンツァンノー カダミダガラヨー (B ンー)

あー、それ じいちゃんの 形見だからさ (B んー)

ナゲデ ワガンネー。

捨てて[は] だめだ。

006B : アー ンダノー。ンデ マダ トットグベ。ンデ アラッテ

あー そうなの。それでは まだ とっておこう。それでは 洗って

チャントシテオグワ。

ちゃんとしておくよ。

007C : アーイ タノムガラー。

はい 頼むから。

008B : ンー。

うん。

宮城県亶理郡亶理町②方言会話集（場面設定会話）注記

〔1〕クッチャグル

「目をつむる」の意。

〔2〕なし

調査目的に合致する談話が収録できなかった。

〔3〕コシエ

本来なら「コシエネ」と発音しようとしたものと考えられるが、「ネ」の発音が弱くなって聞こえなくなっている。

〔4〕ボッチョッテッシャー

最後に「シャー」と発音しているように聞こえるが、話者本人は「ボッチョッテー」という認識で発音したとのこと。

〔5〕イデクテワ

「ワ」は係助詞の「は」ではなく、「さ」相当の語。「腰が痛くては踊れない」ではなく、「腰が今痛くてさ、踊れないかもしれない」という意味。

宮城県巨理郡巨理町②方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）

文字化担当者 川越めぐみ（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
佐藤 亜実（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）

【 宮城県亶理郡亶理町の方言概観 】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な亶理町方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/t/が有声子音/g/d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」＝アゲル

「上げる」＝アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）が、これらは衰微が著しく、高年層からも聞かれないことがあります。

例) ガ行：上げる → アケ°ル
ダ行：肌 → ハンダ
ザ行：風 → カンゼ

バ行：首 → クンビ

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象（またはその逆も）を「中舌化」（ちゅうぜつか、なかじたか）と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります*。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子（しし）、煤（すす）、寿司（すし） → すべてスス
知事（ちじ）、地図（ちず）、辻（つじ） → すべてツズ

※ただし、母音単独のイだけはエに統合されます（後述）。

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞これに上記の中舌化も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。

例) 爺さん（じいさん）、十三（じゅうさん） → 両方ともズーサン
手術（しゅじゅつ） → スズツ
注射（ちゅうしゃ） → ツーシャ

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの中間のような音になるという、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。

例) 機械（きかい） → チカイ
救急車（きゅうきゅうしゃ） → チューチューシャ

今日（きょう） → チョー
農協（のうきょう） → ノーチョー

▼その他、以下のような特徴もあります。

- ・母音単独のイとエの区別がなく、エに統合されている。

例) 息（いき）、駅（えき） → 両方ともエギ
鯉（こい）、声（こえ） → 両方ともコエ

- ・アイ・アエという母音の連続（連母音）は融合して[ɛ:]（共通語のエー[e:]よりも口を開いて発音する）と発音される。

- ・ヒの音がシに近い音となる。

¶ アクセント

亙理町はアクセントの型がない無型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています（＝型がある）、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない（＝型がない）ため、区別されません。

共通語話者がこの無型アクセントの発音の地域のことばを聞くと、文が平らでのっぺりしているとか、区切れがわからず意味が取りにくいとの印象を受けるようです。

一方で、アクセントがないためか、同じ無型アクセント地域の福島県や茨城県などに似た独特の音調が聞かれます。

¶ 文法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」格、「を」格が無助詞で表示されることが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

☞また、共通語の「を」相当のものとしては「バ」が用いられることもあります。

例) 酒バ飲む (酒を飲む)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります (ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) 東京サ行く

おれサ貸せ

見サ行く

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量) や「～しよう」(意志) に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。

例) 明日、雨だべ (明日雨だろう)

<推量>

明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう)

<意志>

お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?)

<確認>

みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう)

<勧誘>

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

- 例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく（この場合は「タ」が用いられます）、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる？

②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。

あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田 (2011) より引用>

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「でしょ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1: ニショッコ (二燭光) って5ワットぐらいか。

B1: 60ワットぐらいだッチャ。(60ワットぐらいでしょ。)

A2: え、そんなに光らないッチャ。(え、そんなに光らないでしょ。)

★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件 (共通語の「けれども」) は亙理町では「гентモ」が用いられやすい。
順接既定条件 (共通語の「から」) は「カラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

例) 取りス (取ります)

んデガス (そうです)

おはよゴザリス (おはようございます)

お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

国立国語研究所編 (1981) 『国立国語研究所資料集 10 方言談話資料 5 岩手・宮城・千葉・静岡』秀英出版

佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学 4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編

『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11 被災地からの提言ー』ひつじ書房

やま もと ちょう
山 元 町



八重垣神社夏まつり（お天王さんまつり）
（写真提供：山元町）



山元町

宮城県亶理郡山元町概要

①山元町の概観

宮城県の最東南端に位置するのが山元町である。東は太平洋に面し、西には阿武隈山地の支脈である亶理丘陵がある。この丘陵の地形により、山元町の田園地帯は北から南にかけて急に狭まっている。町の面積 64 平方キロのうち、山林原野と田畑の割合が 3 分の 1 ずつで、残りが宅地その他となっている。気候が温暖で、自然が豊かな町である。

山元町の農業は、イチゴ・リンゴの生産が質・量ともに県内トップクラスを誇る。仙台市から 1 時間圏内の交通利便性を活かし、都市近郊型農業による園芸産地化も図られている。漁業ではホッキ貝が有名であり、良質なホッキ貝の産地として全国的に有名になっている。また、第 2 次産業の割合も高く、その中では自動車関連製造業が中心となっている。

山元町は、昭和 30 年に山下村と坂元村が合併して生まれた。町名もこの 2 村の合成地名である。

②収録地点について

今回の会話を収録した花釜地区は、山元町の中でも沿岸部に位置している。

③東日本大震災による山元町の被害

3 月 11 日の本震で震度 6 強を記録し、その後の津波は、国道 6 号線を越えて亶理丘陵のふもと近くまで侵入があった。これにより、坂元駅などで駅舎が破壊され線路がめくれる惨状となり、また、仙南三大夜祭で有名な八重垣神社も消滅した。また、津波による浸水によって人口・世帯の半分強が被害を受けた。

表 1 山元町の人的・住宅被害

山元町人口	人的被害			住宅被害	
	死者	行方不明	死者・行方不明の対人口比	全壊	半壊
16,704 人	671 人	19 人	4.13%	2,211 棟	1,064 棟

表 2 山元町の浸水被害

	浸水範囲の被害	割合
人口	8,990 人	53.8%
世帯	2,913 世帯	55.6%

※ 本文の内容は、衛藤（2012）P.219～224 に依拠する部分が多い。特に、表 1・表 2 は衛藤（2012）のデータをそのまま引用した。

参考文献等

衛藤英達（2012）『統計と地図でみる東日本大震災市町村のすがた』日本統計協会
山元町ホームページ（<http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/index.html>）（2013/02/23
アクセス）

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡山元町 —

<自由会話>

自由会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡山元町

収録日時 2012（平成24）年7月11日

収録場所 宮城県亶理郡山元町山寺（話者A宅）

話題 【震災のときのこと】

話者

A	男	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[B・Cの親戚]
B	女	1935（昭和10）年	（収録時77歳）	[A・Cの親戚]
C	女	1934（昭和9）年	（収録時78歳）	[A・Bの親戚]
D	女	1988（昭和63）年	（収録時24歳）	[調査者]

話者出身地

A	山元町花釜（ハナガマ）地区
B	山元町花釜（ハナガマ）地区
C	山元町花釜（ハナガマ）地区

【震災のときのこと】

話し手

A	男	1931 (昭和 6) 年	(収録時 81 歳)	
B	女	1935 (昭和 10) 年	(収録時 77 歳)	
C	女	1934 (昭和 9) 年	(収録時 78 歳)	
D	女	1988 (昭和 63) 年	(収録時 24 歳)	[調査者]

001B : モ、タイヘンダッタヨネ。
もう、大変だったよね。

002A : シーダネー、(B シー) タイヘンナンダ。
そうだね、(B うん) 大変なんだ。

003B : スコ[°] イ、ホントニ。
すごい、本当に。

004C : シー、アノー、オー、セーカズセンターデ クチャーサン、ント イデ、
ん、あの、おー、生活センターで 区長さんと いて、

エー、アノ、ツナミ ゴジューメーターク[°] レ マックロク
えー、あの、津波[が] 50メートルぐらい 真黒く

シー、(C ナツテキタ) アカ[°] ッタノサ。(C ハー) アー ホンデ
ん、(C なってきた) あがったのさ。(C はあ) あー それで

005B : マズノギノ ウエダモンネ。
松の木の 上だもんね。

006A : ウン、ズーット マズノギノ (C ハー) ウエマデ。(B ソー)
うん、ずっと 松の木の (C はあ) 上まで。(B そう)

007C : ソノ マズノギノ ウエマデイク[°]
その 松の木の 上まで行く?

008B : シー。

うん。

009C : ホー ミダゴドネーバ。 [1]

へえ 見たことないわ。

010A : ホーシテ、コンド クチャーサンヌ (C ホー) シー コンデ
そうして、今度 区長さんに (C へえ) ん これで

ゲンカイダガラ スッパズスルドナッテ {笑}
限界だから 出発するとなつて {笑}

スッパズ ス ス スタノ。

出発 × × したの。

011B : アー ソーカー。 (C シー、ナルホド)

ああ そうか。 (C うん、なるほど)

012A : シー。 ホー (B シー) スターケー アノ、 (C ソーカー)

うん。 そう (B うん) そしたら あの、 (C そうか)

オー センロノ シタン トゴヌ、 (B ン) ショー ンボーポンプ
お 線路の 下の ところに、 (B うん) 消防ポンプ

ミズド イッショニ ハイッテダノ。 (B アー) (C アー)
水と 一緒に 入つたの。 (B ああ) (C ああ)

コンド、コゴサ ショー ンボーノシタジ フタリ、ヘッテダンダゲド、
今度は、ここに 消防の人たち 二人、入つてたんだけど、

コイズ タスケッド、オラモ スヌガラ。

これを 助けると、俺も 死ぬから。

013B : スヌガラ。 {笑} (C アラー)

死ぬから。 {笑} (C あら)

014A : トユー、コーオモツテ、マ ハシッタガラ。(B シー、シー) (C シー)
という、こう思って、 まあ 走ったから。(B うん、うん) (C うん)

ンダガラ、アノ ツナミノ ハヤサワ、ヤッパリー オ オ オレ、
だから、 あの 津波の 速さは、 やっぱり × × 俺、

(B ホントダ) エ クチョーサンカ° ゴンズッキロデ、エー、ホレヨリ

(B 本当だ) × 区長さんが 50キロで、 えー、それより

オソイゴッタラバ、(B シー) ツナミニ オッカゲラレッカラッテカダッテ、
遅ければ、 (B うん) 津波に 追いかけるからって言って、

(B シー シー) (C シー) テーイッペダッタオンナ。

(B うん うん) (C うん) 手一杯だったもんな。

015B : シー。(A アー) (C シー) ンダヨネ。
うん。(A ああ) (C ふーん) そうだよね。

016A : シー。 シー、コンドノ バワイワ、ソーシテ、{笑} イズバン
うん。 んー、今度の 場合は、 そうして、{笑} 一番

サイコ° ダッタガラ、(B ウーン) ホーステ、エー ウエノ タンボノ
最後だったから、 (B うん) そうして、えー 上の 田んぼの

マンナガヌ、ノードーッテシュー (B ン) ノ、アンノサ。ミズ。
真ん中に、 農道っていう (B うん) の、あるのさ。道。

(C シーシー) (B ノードー) コゴノ ニステヌ、シー ホリアンノ。

(C うんうん) (B 農道) この 西手に、 んー 堀あるの。

(B シー) (C シー) ホノ ホリ、アノ シグイドゴノ カサノ、[2]

(B うん) (C うん) この 堀、あの 低いところの 笠野、

オー オ ガラ ハンタイニ ジャグリューシテ

×× × から 反対に 逆流して

(B ギャグリューステキタンダオンネ) (C ホー) イッペンニ
(B 逆流してきたんだもんね) (C ほう) いっぺんに

ナツテクルンダ。(B ン) (C アー) ホーステ、エー、マズ、
なってくるんだ。(B うん) (C ああ) そうして、えー、まあ、

ミナミド キタガラ イッペンニ ナツテキテ。(C ハー、ン)
南と 北から いっぺんに なってきて。(C はあ、うん)

017B : ウズ マイッタモノネ。(A ンダ)
渦 巻いてたものね。(A そう)

ウズマギニ ナッタノ。ソー。(A ウズマギニ ナツテ) ホーボーガラ
渦巻きに なったの。そう。(A 渦巻きに なつて) 方々から

アノー、ナミ、ネ。(A ン) ツナミ アズマツテネ。
あの一、波、ね。(A うん) 津波 集まってね。

018C : ソノ ツナミ ミネガラ ワガンネゲッド。
その 津波 見ないから わからないけど。

019B : ン、 (A ホースター) ミナガッタ。
ふーん、(A そうして) 見なかった?

020C : ミナイ。
見ない。

021B : ハヤグ ニゲダノ。
早く 逃げたの?

022C : ハヤグ ニゲダ。
早く 逃げた。

023B : ン。
ふーん。

024C : ゼンゼン。

全然。

025A : ホーシテー、マズ、ホンダギー オラ サイコ° ダゲントモ、
そうして、 まあ、 その時 俺 最後だけれども、

ウエガラ ログニンバリ クルマデ クルシト アンノサ。(B ン)
上から 六人ばかり 車で 来る人 あるのさ。(B うん)

(C ハ) ホーシテ アンダラ ナンダッテ カダッタツケ、

(C うん) そうして あんたら なんだッテ 言ったら、

(C ハンタイニ コー ソナ キタノ) ホンニ、

(C 反対に こう そんな 来たの?) 本当に、

タスケサ イク° ンダツツノ。

助けに 行くんだッテいうの。

026C : アー、ダメダベナー。 {笑}

あー、駄目だろうなあ。 {笑}

027A : イヤ タスケサ イク° ノ イー (C イ) ゲントモ、(C ン)

いや 助けに 行くの いい (C いい) けれども、(C うん)

アンダラ イマスコシ イク° ド シヌンダドッテ カダッテアンダ。

あんたら もう少し 行くと 死ぬんだよッテ 言ッテたんだ。

(C ン) ホンダッテ ナイデッケントモ (C ン) ホ ホッカラ

(C ん) それだから 泣いてるけれども (C ん) × そこから

ヤンネデ モドシタノ。

やらないで 戻したの。

028C : ア (B ンダオンネ)

ああ (B そうだよ)

029A : ン一。ンダッテ ッシヤーネンダワ。イク°ド (B ソー)
うん。だって 仕方ないんだわ。 行くと (B そう)

030C : スク° サイク° ヨーナモンダ。
死ににいくようなもんだ。

031A : ン スク° サイク° (B ソーソー) ドオナジダゲバ {笑}
ん 死ににいくの (B そうそう) と同じだから {笑}

(B スク° サイク° ヨーナモンダ)
(B 死ににいくようなもんだ)

032C : タスケッテ ナッタッテ ジブンガナー。
助けようと したって 自分がなあ。

033A : ヤッパリ、アイナドギワ ミンナ ムズーナンダナー。
やっぱり、あんな時は みんな 夢中なんだなあ。

034C : ン二。 (B ムジュー) (A ンア) タスケデヤッケドモッテネー、
うん。 (B 夢中) (A うん) 助けてやろうと思っ
てねえ、

(A ン一) イグキニナッタンダゲントモ (A ンダガラ) サー。
(A うん) 行く気になったんだけれども (A だから) さあ。

035A : ホーシテ
そうして

036C : ハ一。
はあ。

037B : ダガラネ、アノ、サイガイヨーノ イロイロ ソロエデンノ モッテク°、
だからね、あの、災害用の いろいろ 揃えてるの 持っていく、

ダノナン ソーユーネ、ヨユーナンテ ナイ。 (C ウン ンダネ)
だの×× そういうね、余裕なんて ない。 (C うん そうだね)

ワダシワ ソー オモッタネ。
私は そう 思ったね。

038 A : ナーンニモ ネンダ。
何にも ないんだ。

039 B : ウン、ナイネ。
うん、ないね。

040 A : ン、 (C ウン) ナイナイ。
うん、 (C うん) ないない。

041 B : ホンットニ。
本当に。

042 C : ニワガンダガラナー。
急にだからなあ。

043 B : ウン、カラダヒトズダワ。
うん、体一つだわ。

044 C : シー。 モドッタヒトバリダベ、ナグナツタリシタノ。
うん。 戻った人だけだろう、 亡くなったりしたの。

045 A : エー、ウズノシタズモ ナンーヌモ モッテイガネデ {笑} (C ナンニモ)
えー、うちの人たちも 何にも 持っていないで {笑} (C 何にも)

046 B : ダガラ ワダシナンテ (A) ハダシダヨ。
だから 私なんて (A) 裸足だよ。

047 C : オ。 {笑} オラ イズモ ナラベデッカラ コッカラ モノオギノ
お。 {笑} 私 いつも 並べてるから ここから 物置の

コッカラ ナンカ ヨーフッガラ ナカ ックス ハイダマンマ スク°
ここから なんか 洋服から 長靴 履いたまんま すぐ

ニケ° デキタンダガラ。

逃げてきたんだから。

048 B : アダシ ハダシ。

私 裸足。

049 C : ダ コノ ナカ° ツカズ イマデモ ハイデル。 {笑}

だから この 長靴 今でも 履いてる。 {笑}

050 C : ナカ° ツクス ハイデ ニケ° ダガラ イマ ソノ ナカ° ツクス ハイデ、 [3]

長靴 履いて 逃げたから 今 その 長靴 履いて、

051 B : デ キューキュータイノヒトサ、

で 救急隊の人に、

052 C : スット デダガラ アルケナインダ _____。 (D ンー) [3]

すっと 出たから 歩けないんだ _____。 (D んー)

053 B : ウジガラ ドーロマデ オンボシテモラッテ、 (A アー) ソシテ (A アー)

うちから 道路まで おんぶしてもらって、 (A ああ) そして (A ああ)

054 C : オジーサン オンボシテナー。

おじいさん おんぶしてなあ。

055 B : ナーン、コシヌゲダワ ワダシ。

なーに、腰抜けたわ 私。

056 D : ンー。

んー。

057 A : ンー。

うん。

058 B : コシヌゲダド。 (C ンダサー) シバラグ ウコ° ガンネガッタモノ。

腰抜けたよ。 (C そうさ) しばらく 動けなかったもの。

059C : アレ ミダンデワ。ミダンデ。 オレ ミネガラ イゲッドモサ。
あれ[を] 見たのでは。見たので。 私 見ないから いいけれどもさ。

{笑} ゼーンゼン ミナイ。(B ホンット) ナミワ。(B ウン)

{笑} 全然 見ない。(B 本当) 波は。(B うん)

060A : イヤ、(C ハヤグ ニケ° ダモンナ) コツツノ オバサンモ、
いや、(C 早く 逃げたもんな) こっちの おばさんも、

コスヌガシッタノ。

腰ぬかしてたの。

061B : ウーン、コシヌゲダ。ホンツニ。(A ア) コシヌゲダナンテ、アノー、
うん、腰ぬけた。本当に。(A ああ) 腰ぬけたなんて、あの、

ムガシノヒト ヨグ ユツテアゲドモ (C ウン) {笑}

昔の人 よく 言ってたけども (C うん) {笑}

ワダシ ハジメデダ、コシヌゲダナンテワ。{笑}

私 初めてだ、腰ぬけたなんてのは。{笑}

(C ドーナッタ、オラ ワガンネ、コシヌゲダラ)

(C どうなった、私 わからない、腰ぬけたら)

アイズカ° コシヌゲダズ。ウコ° ガンネンダモンネ。ウン。

あれが 腰ぬけたっていう。動けないんだもんね。うん。

062A : ンダベ、(B ウコ° ガンネンダモン) ウ ウコ° ガンネツツンダナ、
そうだろう、(B 動けないんだもの) X 動けないっていうんだな、

(C アルガンネーノ) (B ン) コシヌゲット {笑}

(C 歩けないの?) (B うん) 腰ぬけると {笑}

063C : アルガンネガラ {笑}

歩けないから {笑}

064B : ダガラ、アノ ヤグバノヒト、ホラ、ヒナンスッカラッテ
だから、あの 役場の人、 ほら、避難するからって

ムガエサ キテモラッタケドモ (C ン一) アルガンナインダモノ {笑}
迎えに 来てもらったけども (C うん) 歩けないんだもの {笑}

(A ン一)

(A ん一)

065C : オンボシテモラウ。 {笑}
おんぶしてもらおう。 {笑}

066B : ウン。ソシテ オンブシテモラッテ、(C ソーソー)
うん。そして おんぶしてもらって、(C そうそう)

X1サンガラ クルマサ ノッタシダガラ。
X1さん[のところ]から 車に 乗ったんだから。

067C : ア コゴ。(A ン一)
あ ここ? (A ん一)

068B : ウン。
うん。

069C : ン一。
ん一。

070B : ダッテ、アッチ トーランネンダ。ネー イロイロ (C ン一)
だって、あっち 通れないんだ。 ねえ いろいろ (C ん一)

071A : ソーソー。ウン。
そうそう。うん。

072B : ブロックダノカ アチクリガエッテッテネ。(C アー ナカ レデキテンノワ)
ブロックとかが 転がっていてね。(C ああ 流れてきてるのね)

073A : ンダ、トーランネンダ。
そう、通れないんだ。

074B : ソー。
そう。

075C : ジャマニナルモンバリ。(B ウン) ナ、ナカ° レデキテ。
邪魔になるものばかり。(B うん) ね、流れてきて。

076B : ソーソーソーソーソー。
そうそうそうそうそう。

077C : ナルホドナー。
なるほどなあ。

078B : ウジ ワダシ ノツテル クルマナンカサー、(C ウン) トナリノ ウジノ
×× 私 乗ってる 車なんかさ、(C うん) 隣の うちの
ヤネサ アカ° ッタンダヨ。
屋根に 上がったんだよ。

079C : ワッ。
わっ。

080B : X2サンチノ。
X2さんちの。

081C : コノウジノ ヤネサ アカ° ッタノ。ホガノ (B ン) ウジサ。
このうちの 屋根に 上がったの? 他の (B うん) うちに。

082B : ン。
うん。

083C : ワッ。
わっ。

084B : ソゴサ アカ° ッタノ。
そこに 上がったの。

085C : ワーーーー。
わあ。

086B : ホンート。 {笑}
ほんと。 {笑}

087C : タイヘンダナー、ニケ° ダヒトモナー。
大変だなあ、 逃げた人もなあ。

088B : タイヘンダッタ、ホンートニソーダ。
大変だった、 本当にそうだ。

089C : ニケ° ダヒトワ タイヘンダ。
逃げた人は 大変だ。

090B : インデモネ、 コーヤッテ、ン、アノ、オガケ° サマデ イギダガラネ。
それでもね、 こうやって、ん、あの、おかげさまで 生きたからね。

091A : ンー。 {笑}
うん。 {笑}

092C : ンー、イズネンナンボダー、ホレ。
うん、一年ちよっとだ、 ほら。

093B : ソーソー。 {笑}
そうそう。 {笑}

094C : ンー。
んー。

095A : ント、イママデ エー、ワタシラモ ゴミッショウサ [4] イッテルシトデ、
んと、今まで えー、 私らも ゴミ拾いに 行ってる人で、

(B ウン) ヤッパリ タイケンダン オシエデケロツツ

(B うん) やっぱり 体験談 教えてくれっていう[のが]

アツタンダгентモ、タイケンダンナンテ ゼツタイ シャベンネツテ。 {笑}
あつただけけれども、体験談なんて 絶対 シャべらないって。 {笑}

ホーンナ ナグナッテルシト ウントアッカラ、(B ウーン)
そんな 亡くなっている人[が] うんとあるから、(B うーん)

ホンナ (C オハナ) チノドグデ、(C オハナシデギナイツツーノ)
そんな (C ×××) 気の毒で、(C お話しできないっていうの?)

アノヒト ナニカダルナンテ スアツテガラ ワガンネガラツツテ
「あの人 何を言う」なんて 言われては 駄目だからってって

(C アソー) (B ウン、ウン) シャベンネツテアナ。 (B ンー)

(C ああそう) (B うん、うん) シャべらないでいるな。(B うん)

096C : ハナシェナイツツーゴドナー。
話せないっていうことね。

097A : ン。(B ンー)
うん。(B うん)

098B : インデモネ、ヤッパリ (A ンー) コー、アズマルツチャ、ホーボーガラ。
それでもね、やっぱり (A んー) こう、集まるじゃない、あちこちから。

ソスツトネ、ヤッパリ、デルンダワ。コーダツタ アーダツタツテネ。
そうするとね、やっぱり、出るんだよ。こうだった ああだったってね。

099A : ンー、ヤッパリネー。
んー、やっぱりねえ。

100B : ンー。
うん。

宮城県亘理郡山元町方言会話集（自由会話）注記

〔1〕 ミダゴドネーバ

「ミダゴドネー（見たことがない）」、「ワ（よ）」の「ワ」が「バ」（[βa]両唇摩擦有声音）のように発音されたものと考えられる。

〔2〕 カサノ

山元町の沿岸部にある笠野地区。

〔3〕 050C、052Cの発話は調査者Dを見ながら発話している（特に050Cは、それを示すために049Cと分けた）。BとCが別々に話しているため、051B、053Bの発話と入り混じっている。

〔4〕 ゴミッショウサ

「ごみ拾いに」。「拾い（ヒロイ）」から、ヒが摩擦化してシとなり、ロが無声化してショとなったもの。イはあいまいな音となりウに近く発音されたものか。

宮城県亘理郡山元町方言会話集（自由会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）
石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

被災地方言会話集

— 宮城県亶理郡山元町 —

<場面設定会話>

場面設定会話の概要

収録地点 宮城県亶理郡山元町

収録日時 2012（平成24）年7月11日

収録場所 宮城県亶理郡山元町山寺（話者A宅）

話題 【場面設定会話】
全13場面

話者

A	男	1931（昭和6）年	（収録時81歳）	[Bの親戚]
B	女	1935（昭和10）年	（収録時77歳）	[Aの親戚]

話者出身地

A	山元町花釜（ハナガマ）地区
B	山元町花釜（ハナガマ）地区

【場面設定会話】

話し手

A 男 1931 (昭和 6) 年 (収録時 81 歳)
B 女 1935 (昭和 10) 年 (収録時 77 歳)

〈 あいさつ 〉

(1) 朝、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001B : オハヨーゴザイマス。
おはようございます。

002A : オハヨーゴザイマス。
おはようございます。

003B : キョーワ ナニ スットゴダイ。
今日は 何 するんだい？

004A : エー、ナニスタラ シンダガ、 コレナー。 {笑}
えー、 何したら いいんだか、これなあ。 {笑}

(2) 昼、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001B : オヒルニ ナッタネワ。キョーワ ズイブン アズガッタネー。
お昼に なったね。 今日は ずいぶん 暑かったねえ。

002A : アー、チョーワ ズイブン アズイガラ {笑} アー アノ、ゴハン
あー、今日は ずいぶん 暑いから {笑} あー あの、ご飯

クッタラバ、カイスイヨグサデモ イク° カナー。 {笑}
食べたら、 海水浴にでも 行こうかなあ。 {笑}

(3) 夜、道端で友人に会ったときにどのようなやりとりを行うか。

001B : チョーモ バンゲニ ナッタワネー。
今日も 晩に なったわねえ。

002A : アー、マンズ チョーモ ハダライダガラ ゴグローサンデス。
ああ、まあ 今日も 働いたから ご苦労様です。

〈ねぎらい〉

(4) Bが仕事に精を出すAと会い、Aの労をねぎらう際にどのようなやりとりを行うか。

001B : アンマリ カシエグ° ド Aツァン ハイッタヨー、ハヤグ スヌドー。{笑}
あんまり 働くと Aちゃん あれだよ、 はやく 死ぬよ。 {笑}

002A : イヤ、フツー、ワレワレワ シーアンベヌ、シー、ハダライデッカラ インダ。
いや、普通、我々は いい塩梅に、 んー、働いているから いいんだ。

〈勧め〉

(5) Bが、仕事をしているAに、「少し休んでお茶とお菓子でも食べなさい」と勧める際のやりとり。

001B : スコ° ドバリ ステネデ、 スコシ アノ、チョッコラ ヤスマイン。(A アー)
仕事ばかり してないで、少し あの、ちょっと 休みなさい。(A ああ)

オジャデモ ノンデ。
お茶でも 飲んで。

002A : ホダナー、マンズ、ン、 コノヘンサ アー、スコス コスカゲツカ、
そうだな、まあ、うん、この辺に あー、少し 腰かけようか、

ホンデ。
それじゃあ。

〈訪問時の声掛け〉

(6) 昼間、BがA宅を訪れるときにどのように声をかけるか。また、返事をするか。

001B : イダゲー。
いるかい。

002A : ウズヌ イダガラー、マンズ ハイレ、マンズ。
うちに いるから、 まあ 入れ、 まあ。

〈 借用の依頼と受託 〉

(7) BがAにスコップを借りるときのやりとり。(Aが貸す場合)

001B : A ツァーン、チョコラ スコップ カステケネゲー。
Aちゃん、 ちょっと スコップ 貸してくれないかい。

002A : アー、スス スコップナンテ、ホノヘンヌ アッカラ、モッテケ°ー。
ああ、×× スコップなんて、その辺に あるから、持っていけ。

〈 お礼 〉

(8) Bが借りたスコップをAに返しに行ったときのやりとり。

001B : スコップ カリデ タイヘン イガッタヤー。ドーモ
スコップ 借りて 大変 よかったよ。 どうも

アリガトーゴザイマシター。
ありがとうございました。

002A : アー、スコップナンテ コノヘンサ オイデッタッテ イーガラ。
ああ、スコップなんて この辺に 置いていったって いいから。

〈 破損の謝罪・許容・不満 〉

(9) BがAに借りたスコップを壊してしまい、謝るときのやりとり。

(9-1) Aが構わないという場合。

001B : A ツァン、フリーゴド シタヤー。スコップ、エー
Aちゃん、悪いこと したよ。 スコップ、柄 [を]

フッチョッテスマッタヤー。ドーモ モーシワゲネーゴダー。
折ってしまったよ。 どうも 申し訳ないこと。

002A : アー、ホイズワ コワレルヨーニ ナッテダンダガラ インダー。
ああ、それは 壊れるように なってたんだから いいんだ。

(9-2) Aが破損に対して不満を述べる場合。

001B : A ツァン モーシワゲネーゴドシター、フッチョッテシマッテ。

Aちゃん 申し訳ないことをした、折ってしまった。

カンニンシテクナイワー。

堪忍してくださいよ。

002A : エー、コノ スコップ、オレモ ツカウデンダッタゲンドモ

えー、この スコップ、俺も 使いたいんだっただけども

ベンショーステモラワンネベガ。

弁償してもらえないだろうか。

003B : ア ンデー、 アダラシーノ カッター カエスペ。カエスカラ。

あ それじゃあ、新しいの 買って 返そう。 返すから。

〈 誘いと断り 〉

(10) BがAをお祭りに誘う際のやりとり。

001B : アノ ノーキョーノ オマ アノ ノーキョーマツリ アルンダゲントモ

あの 農協の ×× あの 農協祭り あるんだけども

イッシヨニ イガネゲー。

一緒に 行かないかい？

002A : アー、チョーワ、ブンナシトド イク° ヤクソグスッタガラ ダメダナー。

ああ、今日は、別の人と 行く 約束してたから 駄目だなあ。

〈 お見舞い 〉

(11) 体調を崩しているAに、Bが体の調子を尋ねる際のやりとり。

(11-1) Aの調子がいい場合。

001B : Aツァン。

Aちゃん。

002A : ハイ。

はい。

003B : カラダノ グアイ ナジョツタイ。

体の 具合[は] どうだい？

004A : イヤー マンズ、オガケ° サンデ、タイチョーワ シ ス スコ° ブル

いやあ まあ、おかげさまで、 体調は × × すこぶる

イーデス。

いいです。

(11-2) Aの調子が悪い場合。

001B : Aツァン、カラダ、ナジョツタイ。チョーシ イーゲー。

Aちゃん、体、 どうだい。 調子 いいかい？

002A : シー、 ナガナガ マエムギヌ、シー イーグナンネンダナー、コレ。

うーん、なかなか 前向きに、 んー 良くならないんだなあ、これ。

〈 申し出 〉

(12) 体の調子が悪く、家の片付けもできないというAに、Bが「(私が) 片付けてやろう」というときのやりとり。

001B : Aツァン、カラダノチョーシ ワリゴッタラバ、イッテ、シコ° ド スケツケ。

Aちゃん、体の調子[が] 悪いんだったら、行って、仕事 手伝うかい？

002A : シー、 ホンダネー、マンズ アーノー タノムガラ。ウー

うーん、そうだね、 まあ あの 頼むから。 んー

オデッテステモラウガラ。

お手伝いしてもらから。

〈 禁止 〉

(13) 片付けの最中に、大事な写真をBが間違っ捨てようとしているときに、Aがそれを制止してどのようにいうか。

001B : Aツァン、コノ シャシン、ナケ° デ イーゲワー。

Aちゃん、この 写真、 捨てて いいかい？

002A : イヤー、ヤッパリ オモイデノ シャスンダガラ、トッテデ モラウダイネー。

いやあ、やっぱり 思い出の 写真だから、 取ってて もらいたいねえ。

山元町 場面設定会話

宮城県亘理郡山元町方言会話集（場面設定会話）担当者

収録担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

石山 理恵（東北大学大学院文学研究科博士前期課程2年）

文字化担当者 田附 敏尚（東北大学大学院文学研究科産学官連携研究員）

【宮城県亙理郡山元町の方言概観】

ここでは、今回の会話集に現れた特徴を中心に、伝統的な山元町方言の音声や文法を概観していきます。

Ⅰ 音 声

【子音】

▼カ・タ行の有声化

語中・語尾にあるカ・タ行の音が有声化し、ガ・ダ行になる。

☞これは平たく言えば、単語の頭以外にあるカ・タ行の音が濁音のガ・ダ行になることです（専門的に言えば、（有声）母音に挟まれた無声子音/k/t/が有声子音/g/d/になること）。単語の頭にあるカ・タ行は普通は有声化しません（下の例で言えば柿は「ガギ」にはなりません）。

例) カ行→ガ行 (/k/→/g/) : 開ける → アゲル、柿 → カギ
タ行→ダ行 (/t/→/d/) : 旗 → ハダ、 的 → マド

▼ガ・ダ・ザ・バ行の鼻音化

語中・語尾にあるガ・ダ・ザ・バ行の音が鼻音化する。

☞単語の頭以外にあるカ行がガ行になることによって、「開ける」はアゲルになってしまい、「上げる」と混同しそうですが、「上げる」のほうはゲが鼻にかかった音（鼻濁音とも言い、この現象を鼻音化と言います。ここでは「ケ°」のように半濁点で表記します）のアケ°ルとなり、

「開ける」=アゲル

「上げる」=アケ°ル

で両者の混同は起こりません。同様にダ・ザ・バ行も鼻音化します（ここでは「ンダ・ンゼ・ンビ」のように上付きのンで表記します）。今回の会話集には次のような例が見られます。

例) ガ行：逃げた → ニケ°ダ、 すごい → スコ°イ、 最後 → サイコ°
ダ行：農道 → ノーンドー

ザ行：渦 → ウンズ、 ます → マンズ
バ行：消防ポンプ → ショーンボーポンプ

▼キ（キャ行）の口蓋化

キが「チ」に近く発音される。また、キャ、キュ、キョも「チャ、チュ、チョ」と似たように発音される。

☞一般的にはこれは「口蓋化」の一種と見られています。口蓋化とは舌の前の部分が上あご（硬口蓋）に接近する現象を言います。キがキとシの間のような音になるといふ、似た現象は東北一般で見られますが、宮城では極端な口蓋化が起こってチに近くなります。山元町の会話集には次のような例が見られます。

例) 気の毒（きのどく） → チノドグ
今日（きょう） → チョー

他にギャの音がジャになる口蓋化の例も見られました。

例) 逆流（ぎゃくりゅう） → ジャグリュー

▼シュ、ジュ、チュの直音化

シュが「ス」、ジュが「ズ」、チュが「ツ」と発音される。

☞シュ、ジュ、チュという拗音を持つものがス、ズ、ツという直音になる現象が見られます。これに中舌化（後述）も合わせると、シ・ス・シュがすべて「ス」、ジ・ズ・ジュがすべて「ズ」、チ・ツ・チュがすべて「ツ」という発音となります。以下は山元町の会話集で聞かれた例です。「ムズー」（夢中）はチュがツとなり、それが語中にあるため有声化もしている例です。

例) スッパズスル（出発する）
ゴズツキロ（50キロ）
ムズー（夢中）

▼その他、以下のような特徴もあります。

・ヒの音がシに近い音となる。以下は山元町の会話集からの例です。

例) シト（人）、シグイ（低い）

・ヤ行の音がシャ行に近い音となる。以下は山元町の会話集からの例です。

例) シー (良い)、シュー (言う)

【母音】

▼イとエの統合

イとエが同じ発音となる。

☞母音単独で発音されるイとエは区別されず、ともにエに近い音になります。

例) 息 (いき)、駅 (えき) → 両方ともエギ
鯉 (こい)、声 (こえ) → 両方ともコエ

▼シとス、ジとズ、チとツなどの中舌化

イ段音とウ段音が近い音となる。

☞イの音がウの音に近づく現象 (またはその逆も) を「中舌化」(ちゅうぜつか、なかじたか) と言いますが、宮城ではイ段音とウ段音でこの中舌化が起き、ニとヌ、ミとム、リとルなどが互いに近い音になります。これらは一応の区別がありますが、シとスに関しては両方とも「ス」、ジとズは両方とも「ズ」、チとツは両方とも「ツ」と発音され、これらは区別がありません。

例) 獅子 (しし)、煤 (すす)、寿司 (すし) → すべてスス
知事 (ちじ)、地図 (ちず)、辻 (つじ) → すべてツヅ

¶ アクセント

山元町はアクセントの型がない無型アクセント地域である。

☞例えば「箸」と「橋」を声に出したときに、有型アクセントの地域ではハとシの音の高低が決まっています (=型がある)、それによって単語の区別が付きませんが、無型アクセント地域では高低が決まっていない (=型がない) ため、区別されません。

共通語話者がこの無型アクセントの発音の地域のことばを聞くと、文が平らでのっぺりしているとか、区切れがわからず意味が取りにくいとの印象を受けるようです。

アクセントの型がないためか、同じ無型アクセント地域の福島県や茨城県などに似た独特の音調が聞かれます。

Ⅰ 文 法

【格助詞】

▼共通語の「が」、「を」にあたる格の格表示

共通語の「が」「を」にあたる格助詞を使わないことが多い。

☞共通語の「が」のような主格を表す助詞や、「を」のような目的格を表す助詞が用いられず、以下のように無助詞で表示されることが多いです。

例) 主格 : 俺 行く (俺が行く)

目的格 : 酒 飲む (酒を飲む)

▼「サ」

「へ」「に」に当たる格助詞に「サ」がある。

☞「サ」は共通語の「へ」よりも意味が広く、「に」に重なるところが多いですが、存在の場所を表す「ここサある」は言えないなど、その用法は「に」とは若干の違いがあります(ただし、若年層では存在の場所を表す「サ」も使えるという報告もあります)。

例) 東京サ行く

おれサ貸せ

見サ行く

【助動詞】

▼「べ」

共通語の「～だろう」(推量)や「～しよう」(意志)に相当する助動詞に「べ」がある。

☞「べ」は<推量><意志>のほかにも<確認><勧誘>などがあり、その用法は多岐にわたります。また、「取る、起きる、来る」など「る」で終わる動詞に接続するときは「る」が「ッ」となる促音便が生じ、それぞれ「トッペ、オギッペ、クッペ」のようになります。また、山元町の会話集からはサ行五段動詞「返す」でも「カエスペ」

が聞かれました。

- | | |
|-----------------------------|------|
| 例) 明日、雨だべ (明日雨だろう。) | <推量> |
| 明日は早く起きッペ (明日は早く起きよう。) | <意志> |
| お祭り、お前も行くべ? (お祭り、お前も行くだろう?) | <確認> |
| みんなでがんばッペ (みんなでがんばろう。) | <勧誘> |

▼「タ」「タッタ」

「タ」は共通語の過去・完了の助動詞「た」よりも用法が広く、現在目の前にあることの確認などにも使われる。

- 例) (私は今、) 学校にいる → 学校にイタ
(私は今、) 手紙を書いてる → 手紙をカイテタ

また、「タッタ」は過去の思い出など、現在と切り離された過去で用いられる。

☞「タッタ」は、「タ」と比べて過去の出来事が発話時に存在する場合には使われにくく (この場合は「タ」が用いられます)、過去の出来事が発話時に存在しない場合に使用されやすくなります。これを上記では「現在と切り離された過去」と表現しました。

以下の例で説明すると、①は昨日もらった桃が今もあるときの発言であり、これは過去の出来事が発話時に存在すると読みとることができます。このような場面では「タ」が使われます。②は昨日もらった桃が今はもうないという状況であり、これは過去の出来事が発話時に存在しないと捉えられます。このとき、「タッタ」が用いられます。

- 例) ①きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタ。あんたも食べる?
②きのう、近所の小沢さんに桃をモラッタッタ。
あんたが来るなら少し残しておけばよかったなあ。

<例文は竹田 (2011) より引用>

▼「デー (デ、ダイ)」

共通語の「～たい」(希望)に相当する「デー」は、終止形に接続する。

☞共通語の「～たい」は連用形に接続しますが、山元町の会話集で聞かれた「デー」は終止形に接続しています。

- 例) ツカウデ (使いたい)

モラウダイ (もらいたい)

【終助詞】

▼「チャ」

強調、当然、働きかけの意味を表す「チャ」が用いられる。

☞具体的には、相手が知っているはずの事柄を示し確認させるなどの機能があり、共通語の「だろ」「じゃない(か)」「よね」などのような意味を持ちます。

例) A1 : ニショッコ (二燭光) って5ワットぐらいか。

B1 : 60ワットぐらいだッチャ。(60ワットぐらいだろ。)

A2 : え、そんなに光らないッチャ。(え、そんなに光らないだろ。)

★その他、以下のような特徴もあります。

・逆接既定条件 (共通語の「けれども」) は山元町では「ゲントモ」が用いられる (一部「ゲットモ」も)。順接既定条件 (共通語の「から」) は「ガラ」が用いられる。

・待遇表現は「ス」「(デ) ガス」「(デ) ゴザリス」「イ (ン)」などが用いられる。

例) ス : 取りス (取ります)

(デ) ガス : んデガス (そうです)

(デ) ゴザリス : おはよゴザリス (おはようございます)

イ (ン) : お茶でも飲まイン (お茶でも飲みなさい)

【参考文献】

加藤正信 (1969) 「東北方言概論」『言語生活』210

加藤正信 (1992) 「宮城県方言」平山輝男・大島一郎・大野眞男・久野眞・久野マリ子・杉村孝夫編『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院

佐藤亨 (1982) 「宮城県の方言」飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学4 北海道・東北地方の方言』国書刊行会

竹田晃子 (2011) 「テンス形式および文末の「ケ」の用法」小林隆編『宮城県・山形県陸羽東線沿岸地域方言の研究』東北大学国語学研究室

東北大学方言研究センター (2012) 『方言を救う、方言で救うー3.11被災地からの提言ー』ひつじ書房

山元町文化財保護委員会編 (1999) 『ふるさと山元の方言』山元町教育委員会

文化庁委託事業報告書
東日本大震災において危機的状況が危惧される
方言の実態に関する調査研究事業（宮城県）

2013年（平成25年）3月11日 印刷

2013年（平成25年）3月15日 発行

編者 東北大学方言研究センター
発行所 東北大学大学院文学研究科国語学研究室
〒980-8576 仙台市青葉区川内 27-1 TEL 022(795)5987
